

瀬戸大橋建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ

羽佐島遺跡(II)

1984.9

香川県教育委員会
本州四国連絡橋公園

瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ
羽佐島遺跡（II）正誤表

ページ	行	誤	正
図版目次	図版号	調査風景	調査風景
13	7 13	表れているが	表わされているが
95	71番	社離面	刹離面

瀬戸大橋建設に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ

羽佐島遺跡(II)

1984・9

**香川県教育委員会
本州四国連絡橋公団**

序

瀬戸大橋建設に伴い、香川県教育委員会では、昭和51年度の予備調査を手始めとして、櫃石島・岩黒島・羽佐島・与島の4島で埋蔵文化財の発掘調査を実施して、多大の成果を上げてまいりました。そして、それらの成果は、昭和58年度より『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』(以下、本報告という)としてまとめ、逐次刊行してきました。

本書は、一連の本報告(7分冊を予定)の第3分冊として、昭和58年度に実施した羽佐島遺跡における第2次発掘調査の成果をまとめたものであります。

羽佐島遺跡では、昭和53・54年度に第1次発掘調査を実施しており、旧石器時代の遺物を中心に約25万点の遺物が出土し、西日本でも有数の旧石器時代遺跡であることが判明しました。その成果は、『本報告Ⅰ 羽佐島遺跡(Ⅰ)』として、先に発行しております。

本書は、その続編ともいいくべきもので、前回未調査区であった南側丘陵部の東斜面における調査の結果、前回調査時を大幅に上回る細石核の出土率、水晶・チャート・玻璃質安山岩等のサヌカイト以外の異石材を使用した旧石器の出土、さらには、滑石製勾玉・銅製帶金具の出土と興味深い事実が明らかになってまいりました。本報告書が(Ⅰ)と合わせて、今後の歴史研究、特に旧石器研究の資料として、多くの方々に御活用いただければ幸いと思います。

なお、発掘調査に対して御援助・御協力をいただいた本州四国連絡橋公団第二建設局・同児島工事事務所をはじめとする地元関係者各位に心より感謝申し上げます。

昭和59年9月

香川県教育委員会

文化行政課長 遠藤 啓

例　　言

1 本書は、昭和58年度に瀬戸大橋建設に伴って実施した坂出市与島町羽佐島遺跡の第2次発掘調査報告書である。

なお、出土遺物その他調査資料の整理業務は昭和58~59年度にかけて行った。

2 発掘調査及び資料整理業務は、本州四国連絡橋公団より委託を受けて香川県教育委員会文化行政課が実施した。

昭和58・59年度の調査組織は、下記のとおりである。

昭和58年度

総括課長	遠藤 啓	調査担当係長	秋山 忠
課長補佐	林 茂	主任技師	渡部 明夫
副主幹	松本 豊胤	〃	藤好史郎
庶務係長	下河芳樹	技師	小西正行
主査	加納 覚	〃	真鍋昌宏
		〃	西岡達哉
		嘱託	安藤 一
		〃	坂口淳子

昭和59年度

総括課長	遠藤 啓	調査担当所長	松下 均
主幹	林 茂	主任技師	大山 真充
〃	松本 豊胤	〃	藤好史郎
課長補佐	中村 仁	技師	小西正行
庶務係長	宮谷 昌之	〃	松野一博
主査	加納 覚	嘱託	安藤 一
		〃	坂口淳子

なお、発掘調査及び資料整理には松本豊胤の指導のもとに、次の職員が当たった。

昭和58年度発掘調査 小西正行・真鍋昌宏・西岡達哉・
安藤一・坂口淳子

昭和58・59年度資料整理 小西正行・坂口淳子

3 本書の執筆は、小西正行と坂口淳子が分担して行った。編集は、大山真充・藤好史郎・小西正行が行った。

4 調査の実施や整理・報告に際して、下記の方々から多大な御協力・御教示を受けた。記して深く謝意を表したい。

与島瀬戸大橋対策協議会、同自治会、櫃石島瀬戸大橋対策協議会、同自治会、岩黒島瀬戸大橋対策協議会、同自治会、本四公団兒島工事事務所、香川県瀬戸大橋対策室、古市光信

目 次

第1章 遺跡の立地と環境.....	1
第2章 調査の経過	
第1節 調査に至る経過.....	4
第2節 調査の経過と発掘の方法.....	4
1. 調査の経過.....	4
2. 発掘の方法.....	8
第3節 整理作業の経過.....	9
第3章 層序と遺物の出土状況	
第1節 層序.....	11
第2節 遺物の出土状況.....	11
第4章 遺 物	
第1節 旧石器時代の出土遺物.....	15
1. ナイフ形石器.....	15
2. 舟底形石器.....	21
3. 尖頭器.....	31
4. 彫器.....	31
5. 石錐.....	32
6. 削器・搔器.....	32
7. 模状石器.....	34
8. 二次調整ある剝片.....	40
9. 横長剝片石核.....	40
10. 翼状剝片.....	47
11. 横長剝片.....	51
12. 大形剝片.....	55
13. 縦長剝片石核.....	55
14. 縦長剝片.....	60
15. 細石核及び細石核関係.....	62
16. 細石刃.....	71
17. 叩き石.....	71
第2節 繩文時代以降の出土遺物.....	79
1. 石錐.....	79
2. 矢柄研磨器.....	83
3. その他の遺物.....	83
第5章 おわりに.....	86
石器観察表.....	91

挿 図 目 次

(遺跡の立地と環境)	
第1図 備讃瀬戸の位置	1
第2図 備讃瀬戸の島々と羽佐島の位置	2
第3図 羽佐島遠景	3
(調査の経過)	
第4図 羽佐地形図及び発掘調査区	5～6
第5図 発掘作業風景	7
第6図 羽佐島遺跡第2次発掘調査グリッド配置図	8
第7図 グリッド区画名称図	9
第8図 遺物の水洗い作業	10
第9図 実測作業	10
(土層序と遺物の出土状況)	
第10図 土層柱状図	11
第11図 上層実測図(1)	12
第12図 土層実測図(2)	13
(遺 物)	
第13図 ナイフ形石器実測図(1)	22
第20図 ナイフ形石器実測図(8)	29
第21図 舟底形石器・尖頭器実測図	30
第22図 彫器・石錐実測図	32
第23図 削器・搔器実測図(1)	35
第25図 削器・搔器実測図(3)	37
第26図 楔状石器実測図(1)	38
第27図 楔状石器実測図(2)	39
第28図 二次調整ある剝片実測図	41
第29図 横長剝片・石核実測図(1)	43
第32図 横長剝片・石核実測図(4)	46
第33図 翼状石器剝離角度分布図	48
第34図 翼状剝片実測図(1)	49
第35図 翼状剝片実測図(2)	50
第36図 横長剝片実測図(1)	52
第38図 横長剝片実測図(3)	54
第39図 大形剝片実測図	54
第40図 横長剝片剝離角度分布図	55
第41図 線長剝片石核実測図(1)	56
第44図 線長剝片石核実測図(4)	59
第45図 線長剝片実測図(1)	61
第46図 線長剝片実測図(2)	62
第47図 細石核実測図(1)	64
第53図 細石核実測図(7)	70
第57図 細石刃実測図(1)	73
第55図 細石刃実測図(2)	74
第56図 叩き石実測図(1)	75
第59図 叩き石実測図(4)	78
第60図 石鐵分類模式図	79
第61図 石鐵実測図(1)	81
第62図 石鐵・矢柄研磨器実測図(2)	82
第63図 滑石製勾玉出土状況	83
第64図 銅製帶金具出土状況	83
第65図 滑石製勾玉・銅製帶金具・綠釉土器・ 白磁実測図	84
第66図 羽佐島遺跡出土主要遺物計測基準図	90

表 目 次

(調査の経過)	
第1表 昭和58・59年度羽佐島遺跡(II)の整理	88
作業経過.....	9
(層序と遺物の出土状況)	
第2表 グリッド別石器組成表.....	14
(遺 物)	
第3表 ナイフ形石器出土分布表.....	15
第4表 ナイフ形石器の形態分類.....	16
第5表 ナイフ形石器の長幅比.....	20
第6表 国府型ナイフ形石器の長幅比.....	20
第7表 横長剝片利用のナイフ形石器の長幅比.....	20
第8表 舟底形石器・尖頭器出土分布表.....	21
第9表 舟底形石器の長幅比.....	21
第10表 彫器・石錐出土分布表.....	31
第11表 削器・撃器出土分布表.....	32
第12表 楔状石器出土分布表.....	34
第13表 二次調整ある剝片出土分布表.....	40
第14表 横長剝片石核出土分布表.....	42
第15表 翼状剝片出土分布表.....	47
第16表 翼状剝片の長幅比.....	48
第17表 横長剝片の長幅比.....	51
第18表 縦長剝片石核出土分布表.....	55
第19表 縦長剝片出土分布表.....	60
第20表 縦長剝片の長幅比.....	60
第21表 細石核出土分布表.....	63
第22表 細石刃剝離痕の長幅比.....	63
第23表 細石刃出土分布表.....	71
第24表 細石刃の長幅比.....	71
第25表 叩き石出土分布表.....	71
第26表 石材別叩き石一覧表.....	72
第27表 叩き石の長さと重さの比.....	72
第28表 石錐出土分布表.....	79
第29表 石錐の長幅比.....	80
第30表 国府型ナイフ形石器出土分布表.....	86
第31表 横長剝片利用のナイフ形石器出土分布表.....	86
第32表 玻璃質安山岩製剝片出土分布表.....	88
第33表 玻璃質安山岩製細石核出土分布表.....	88
第34表 玻璃質安山岩製細石刃出土分布表.....	88
第35表 流紋岩製品・剝片出土分布表.....	88
第36表 黒曜石製品・剝片出土分布表.....	88
第37表 玻璃質安山岩製ナイフ形石器・石錐及び水晶製剝片・ナイフ形石器、チャート製尖頭器 出土分布表.....	88
第38表 異石材製品一覧表.....	89
第39表 ナイフ形石器観察表.....	91
第40表 舟底形石器観察表.....	99
第41表 尖頭器観察表.....	99
第42表 削器・撃器観察表.....	100
第43表 楔状石器計測表.....	102
第44表 二次調整ある剝片計測表.....	102
第45表 横長剝片石核観察表.....	103
第46表 翼状剝片観察表.....	105
第47表 横長剝片計測表.....	107
第48表 縦長剝片石核観察表.....	108
第49表 縦長剝片観察表.....	109
第50表 細石核観察表.....	111
第51表 細石刃観察表.....	113
第52表 叩き石観察表.....	116
第53表 石錐観察表.....	117
第54表 矢柄研磨器観察表.....	120

図版目次

図版 1 羽佐島遠景	図版29 削器・搔器・使用痕ある剝片(4)
調査区遠景	30 模状石器(1)
2 伐採作業風景	31 模状石器(2)
グリッド設定	32 模状石器(3)
3 発掘作業風景 C01-1・2, C02-1・2	33 二次調整ある剝片
C05・06-2	34 横長剝片石核(1)
4 遺物出土状況 C01・02-1・2	35 横長剝片石核(2)
C01-1・a n	36 横長剝片石核(3)
5 調査風景 土層線引	37 横長剝片石核(4)
写真撮影	38 横長剝片(1)
6 北壁土層 B01・n	39 横長剝片(2)
C01-1・a n, b n	40 横長剝片(3)
C01-1・c n, d n	41 翼状剝片(1)
7 北壁土層 C01-2・a n, b n	42 翼状剝片(2)
C01-2・b n, c n	43 大形剝片
C01-2・d n	44 縦長剝片石核(1)
8 北壁土層 C01-3・a n, b n	45 縦長剝片石核(2)
C01-3・c n, d n	46 縦長剝片石核(2)'
C01-4・a n, b n	47 縦長剝片石核(3)
C01-4・c n, b n	48 縦長剝片石核(4)
9 西壁土層 B 1	49 縦長剝片石核(4)'
C01-1	50 縦長剝片(1)
C02-1	51 縦長剝片(2)
10 西壁土層 C03-2	52 細石核(1)
C04-2	53 細石核(1)'
C05-2	54 細石核(2)
11 西壁土層 C 1 - 3 C01-3	55 細石核(2)'
C02-3	56 細石核(3)
12 西壁土層 C03-3	57 細石核(3)'
C04-3	58 細石核(4)
東壁土層 C05-2	59 細石核(4)'
C 06-2	60 細石核(5)
13 完掘グリッド風景	61 細石核(5)'
14 ナイフ形石器(1)	62 細石核(6)
15 ナイフ形石器(2)	63 細石核(6)'
16 ナイフ形石器(3)	64 細石核(7)
17 ナイフ形石器(4)	65 細石刃(1)
18 ナイフ形石器(5)	66 細石刃(2)
19 ナイフ形石器(6)	67 叩き石(1)
20 ナイフ形石器(7)	68 叩き石(2)
21 ナイフ形石器(8)	69 叩き石(3)
22 舟底形石器	70 石鏃(1)
23 尖頭器	71 石鏃(2)
24 石錐	72 矢柄研磨器
25 影器	73 滑石製勾玉・青銅製帶金具
26 削器・搔器(1)	74 白磁・綠釉土器
27 削器・搔器(2)	
28 削器・搔器(3)	75 白磁

本 文 編

第1章 遺跡の立地と環境

備讃瀬戸海域の地質基盤は、領家帯と呼ばれる地質構造区に属し、その基盤岩はほとんど花崗岩からなる。瀬戸内海に浮かぶ島々は、中世後期にできた花崗岩が新生代後期の地殻変動により地表に突出したものである。備讃瀬戸海域においては基盤岩である花崗岩・花崗岩閃綠岩の上に三疊層、さらには備讃瀬戸層群(大槌島層・槌ノ戸瀬戸層・番ノ州層)が堆積している。これらの堆積層は備讃瀬戸海域の海進・海退現象に伴い堆積されたものであり、讃岐山脈から讃岐平野を形成する地質でもある。

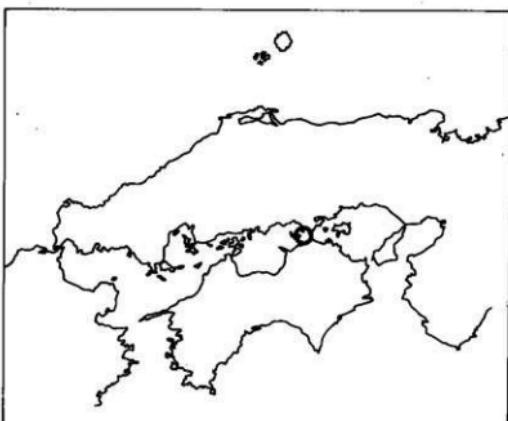
備讃瀬戸の最も大きな海進期は縄文時代早期で、それ以前の海面は現在よりも更に下にあったと言われている。

現在、海上に残されている島々は、旧石器時代には見晴らしの良好な丘陵頂部にあたり、周辺には小沼が散在していたと考えられている。^{註(1)}

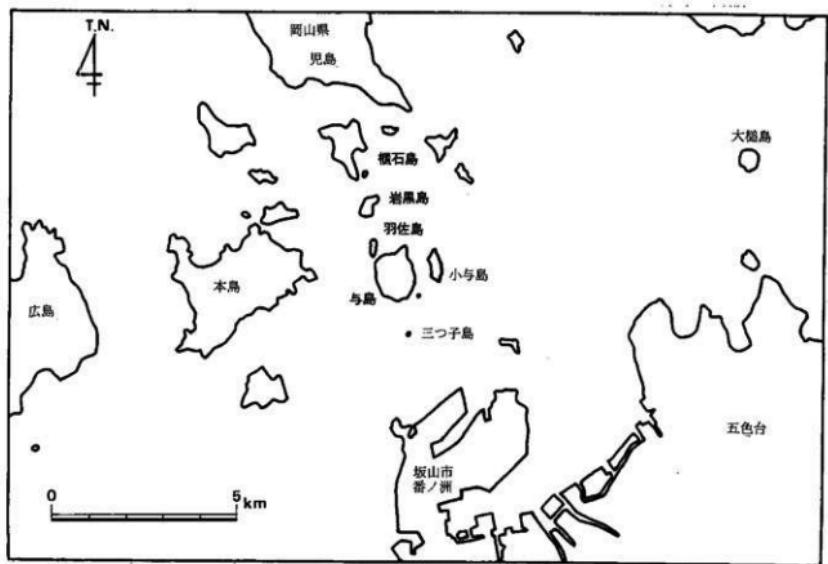
羽佐島はこれらの島々の一つで、岡山一香川を最短距離で結ぶ瀬戸大橋ルート上にあり、鷲羽山より約4km、沙弥島より約5kmのほぼ中央に位置する。南方約0.2kmにある与島、北方約0.8kmにある岩黒島に挟まれているこの小さな無人島は、周囲約1.3kmを海に囲まれている。島の周囲はほとんどが岩礁性の海岸で、東側と南側にわずかに砂浜を形成している。北に標高32m、南に標高22mの2つの頂部があり、中央は鞍部となっている。島の総面積は約0.03km²ほどで人の居住は困難と思われるが、近世初期に畑作を行っていたことが伝えられており、また昭和に至ってからも人の居住・採石・畑作等が行われていた。^{註(2)}

羽佐島周辺の海底は、坂東祐司氏の備讃瀬戸海底地形区分図によると、水深10~20mの第Ⅱ平坦面で沖積世における形成面である。また、与島・小与島の南方には最大水深105m、羽佐島・岩黒島の間に水深30mを越す「海釜」と呼ばれている潮流の影響によりできたすりばち状の地形が東西に延びている。

備讃瀬戸には多くの旧石器時代の遺跡が存在することが知られている。戦前より与島東方遺跡ではサムカイト製石器が採集されており、1959年以来、櫃石島・与島・小与島・沙弥島遺跡^{註(3)}の遺跡・遺物紹介、与島西方遺跡・東方遺跡・瀬居島十ノ石遺跡^{註(4)}の発掘報告などがなされてき



第1図 備讃瀬戸の位置



第2図 備讃瀬戸の島々と羽佐島の位置

た。さらに1976年からは、瀬戸大橋建設に伴い島横部の旧石器時代遺跡の予備調査・本調査が行われてきた。

羽佐島遺跡では1977年に予備調査が行われ、1978年7月から1979年11月まで第1次調査が行われた。その他、瀬戸大橋建設に伴う旧石器時代遺跡の発掘調査は、櫛石島花見山遺跡・大浦遺跡・ヤケヤマ遺跡・長崎通り遺跡・北浦遺跡・岩黒島初田遺跡・与島西方遺跡において実施された。

羽佐島及びこれに近接する与島・岩黒島には、それぞれ羽佐島遺跡・西方遺跡・初田遺跡があるが、その立地するところは3遺跡とも島内でも比較的の高所でなだらかな尾根上に位置する。羽佐島遺跡(実掘調査面積4,254m²)は標高約25mを計るところで約25万点にもおよぶ遺物を出土している。西方遺跡(同4,628m²)では最高所約70mを計るA地区から尾根筋に沿ってB地区、C地区への広がりをみせ、約15万点にも及ぶ遺物が出土した。初田遺跡(同678m²)は羽佐島遺跡とはほぼ同じ標高を計るが、出土遺物は約600点ほどで両遺跡に比べて遺物量が希薄である。西方遺跡A地区において細石核がほとんど見られなかったということを除けば3遺跡に見られる遺物は、国府型ナイフ形石器をはじめとするナイフ形石器・縦長剝片石核・細石核などを出土しており、遺物内容に大差が見られないものの、羽佐島・西方両遺跡と初田遺跡との出土遺物の量的違いは目を見張るものがある。

旧石器時代の遺跡は、動物からの被害を避けるため、また狩猟のために見晴らしの良好な場所に選定されるとと言われているが、羽佐島遺跡・西方遺跡のような所が、初田遺跡のような地点よりも地の利があったと思われる。

註

- (1) 坂東祐司監修・森合重仁編『香川県地学のガイド』 1979
- (2) 「與嶋畠方名よせ能帳」『香川叢書』 2 1941
- (3) 川畠油「国分台無土器文化石器」『香川県文化財協会報』特別号4 1959 香川県文化財保護協会
- (4) 高橋邦彦「坂出市与島町西方及び東方遺跡の調査報告」『香川県文化財協会報』特別号5 1961 香川県文化財保護協会
- (5) 松本豊嵐「瀬居町十ノ石遺跡調査概報」『文化財協会報』59 1973 香川県文化財保護協会



第3図 羽佐島遠景

第2章 調査の経過

第1節 調査に至る経過

羽佐島遺跡は、昭和52年度に実施した予備調査で、旧石器時代を中心とする大規模な遺跡であることが確認され、昭和53・54年度に第1次の発掘調査を実施した。その成果は「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報」I～VI及び「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告I 羽佐島遺跡(I)」で報告している。今回実施した第2次調査は架橋工事の設計変更に伴う事前の発掘調査である。

本州四国連絡橋公団（以下本四公団という）は羽佐島架橋工事に伴い、南北の作業ヤードを連結する工事用道路の建設を計画した。羽佐島を横断する工事用道路は、当初、トンネル工法等についても検討されたようであるが、地形上の問題等から、オープンカット方式を採用することとなり建設届が提出された。昭和57年11月11日に本四公団第二建設局と香川県教育委員会とで、現地踏査及び協議を行った。これまでの予備調査や第1次発掘調査により、今回の工事用道路建設予定地も、地形的に多量の旧石器時代の遺物が包蔵されていることが予測され、事前の発掘調査の必要性が考えられた。

昭和58年4月1日に、本四公団第二建設局長から文化庁へ工事の届出（埋蔵文化財に関する協議について）がなされ、それに伴い、4月30日に香川県教育委員会教育長から文化庁へ、文化財保護法第57条の3の規定に基づく発掘届の提出（文化庁進達）がなされた。

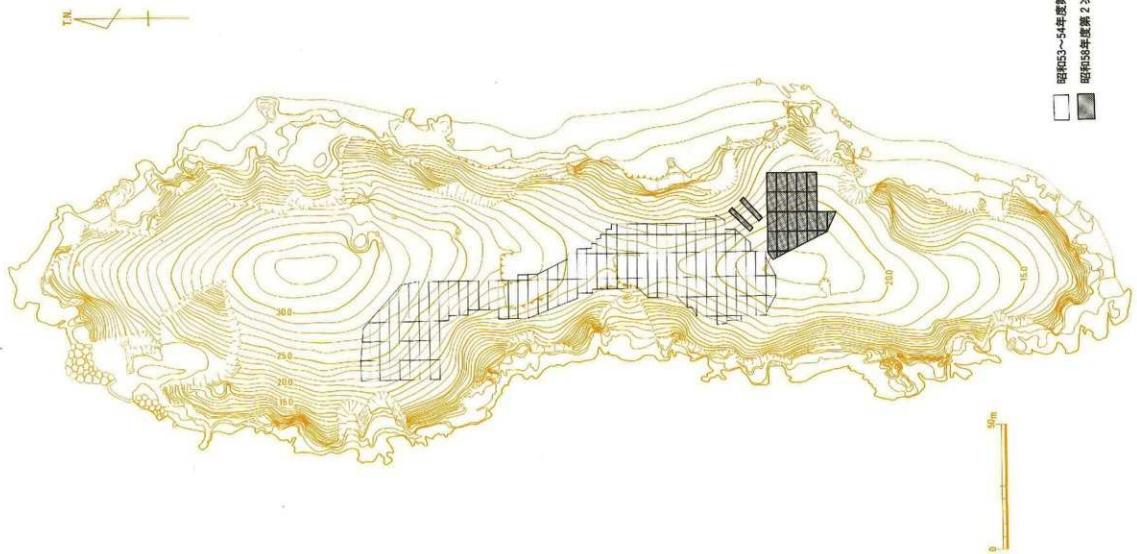
以後、発掘調査の実施について協議を重ね、本四連絡橋公団の委託により香川県教育委員会は、工事予定地1,600m²を対象として、7月4日発掘調査を開始するに至った。

第2節 調査の経過と発掘の方法

1. 調査の経過

羽佐島遺跡の第2次発掘調査は、昭和58年7月4日から10月31日まで実施された。日誌によつて調査の動きを以下に略述する。

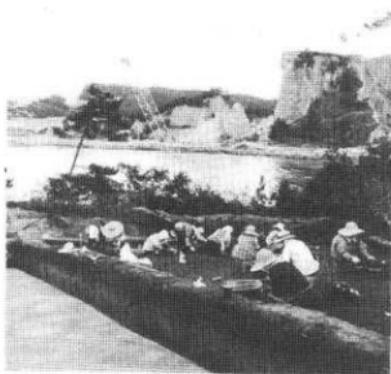
- 〈7月〉
- 4日 羽佐島発掘調査を開始する。調査手順・他の打ち合わせをして伐開作業を始める。
- 6日 資材の2便を搬入する。崖のラインをおさえ倒木処理を行う。伐開作業はほぼ終了する。
- 11日 プレハブが完成する。オロカキを北側半分終了する。表土層より大小3個のサヌカイト製フレイク・チップラしきものを出土する。
- 14日 杭打ちを完了し、グリッド設定を行う。
- 18日 第1・第2トレンチ（以下T1・T2という）の発掘作業を開始する。両トレンチとも第1層（腐植土層）の除去を終了する。
- 22日 西日本放送が取材のため来島。
第3層がかなり深かったが終日掘り下げる。
- 〈8月〉
- 1日 T2は掘り下げが終了。壁の清掃を行い、C1～4の発掘に入る。
- 2日 T1掘り下げ終了。C1～3に移動する。
T2は清掃後写真撮影を行う。
- 9日 C01～3・4の発掘に入る。第1層の除去はほぼ終了する。第2層に入るところもある。
- 11日 公団より、台風接近に備えて準備されたこと。番組等でプレハブの固定を強化して対処する。



第4図 羽生島地形及び実態調査区圖図

- 12日 お盆のため作業員が集まらず今日より3日間現場作業を中止する。
- 17日 C01-3・4の第3層の除去をほぼ終了する。C02-3・3・4の木・他の伐開をする。
- 18日 C03-3・4の第1層の除去を終了する。T1の土層断面及び作業風景の写真撮影を行う。
- 24日 C03-3は午前中に掘り上がる。C03-4も9割を終了する。C04-3のオロかきをする。
- 25日 C03-4の第3層を除去し終了する。C04-3の第2層とC04-4の第1層を除去する。C04-3の第2層上面で大形有溝土縦を出土する。
- 30日 C04-3・4の第3層を除去し終了する。ペルコン1台を移動する。C02-3・4のオロかきに入る。
- （9月）
- 1日 C02-4・bnで銅製帶金具(2.7×2.6cm)が出土する。
- 2日 石滑製勾玉が出土する。
- 8日 グリッド内及び周辺の土層線引き・清掃をする。C1-3・4～C04-3・4の写真撮影を行う。
- 12日 C03-04-1・2の発掘に入る。遺物の出土が多い傾向がある。
- 16日 C03-04-1・2の第2層の第2回目遺物を取り上げる。予備調査のEトレレンチ部分の写真撮影・平板実測をする。T1・T2の掘り方(四隅)の平板実測をする。
- 26日 台風接近等のため現場作業を中止する。
- 29日 作業再開。C03-04-1・2の第2層遺物の取り上げを終了する。台風の影響はほとんどない。

- <10月>
- 4日 C01・02-1・2及びB地区を掘り始める。C01・02-3の西壁土層の実測をする。
- 13日 C01・02-1・2の第3層の遺物を取り上げる。写真撮影及び出土地点のチェックをする。C1-3・4の西壁・北壁の土層実測をする。
- 17日 C1-1・2、B1の第1層を掘り下げる。C03・04-3・4の西壁及び北壁の土層実測をする。C01-1・2の深掘りを終了する。
- 20日 C03・04-1・2、3・4の完掘グリッド及びC03・04-1・2の西壁、C03-1～4の北壁、C04-1～4の南壁の写真撮影を行う。C1-1・2、B1の第3層を掘り下げ、遺物を取り上げる。C05・06-2の発掘作業を開始する。
- 24日 C1-1・2を完掘する。C05・06-2の発掘に入る。
- 26日 C1・C01・02-1・2の完掘グリッドの写真撮影を行う。C01・02-1の西壁、C01-1・2の北壁の土層写真撮影終了後、グリッド全体の写真撮影を行う。
- 28日 C05・06-2を深掘りする。ブルハブ・ベルコンを解体する。共同企業体のクレーンの協力により、発掘道具等を撤収する。C05・06-2の西壁・南壁・東壁の上層実測をする。発掘区全体の写真撮影(北ビーカーより)を行う。
- 31日 与島西方より羽佐島遺跡遠景を写真撮影し、調査の全日程を終了する。



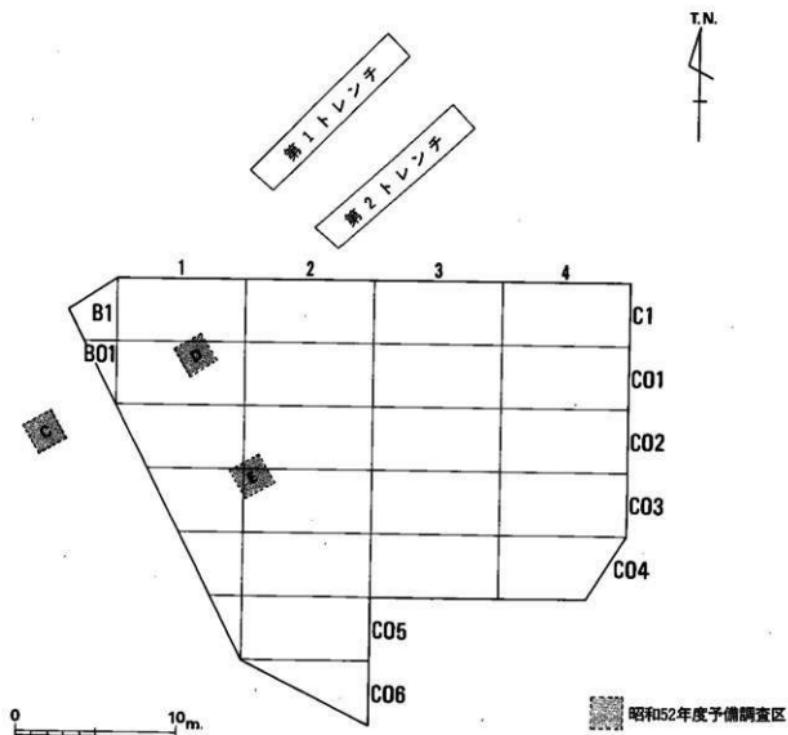
第5図 発掘作業風景

2. 発掘の方法

羽佐島遺跡での今回の調査対象地域は、南側ピークの東斜面に当る工事区域である。調査対象面積の約1,600m²のうち、南部及び東部は急崖地であり、実質的に調査が可能なのは約900m²である。

昭和53年7月17日から昭和54年11月16日まで実施された第1次発掘調査時のグリッド設定に準じて、尾根筋（B地区）・東側斜面（C地区）に分け、方位は正南北を主軸に定め、C地区には南北4m・東西8mのグリッドを設定した。これに対して、B地区は工事予定地の形状から変形グリッド（東西に最大で3m）となった。

各グリッドの名称は、北端が前回調査時と重複するためB1・C1とし、それから南に向って01, 02……と番号を付し、C地区に限っては斜面上位（西）から枝番号をつけ、C01-1, 01-2……としてグリッドの呼称とした。また、北東部の斜面は急傾斜のため遺物の流出も著しいと推測され、トレンチを2箇所設定して遺物の出土状況を確認することとした。北側を第



第6図 羽佐島遺跡第2次発掘調査グリッド配置図

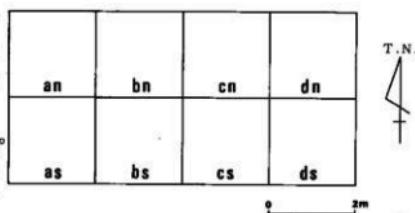
1トレンチ (T 1), 南側を第2トレンチ (T 2)とした。

調査は、土層序及び遺物出土状況の確認をする意味からも T 1・T 2 から着手した。第1次発掘調査によって、遺物は後世の人為的擾乱等を受けて二次的な移動があり、表土以下浅い所から旧石器時代の遺物が出土すると同時に、包含層下部においても旧石器時代の遺物と共に土器片が出土することが確認されていた。T 1・T 2 の調査においても同様の遺物出土状況で、遺物の二次的な移動も考えられた。

遺物については原則として $2 \times 2\text{m}$ を一単位として一括取り上げを行うこととし、石器として明確なものは出土地点を記録して取り上げることにした。なお、このグリッド内の小区画も第1次調査に準じて南北を2分し、南(s)・北(n)とし、東西も2m毎に区分して西から a, b, c, d とアルファベットの小文字を順次付した。したがって、C03-2の南西隅の小区画は C03-2-as, 北東隅の小区画は C03-2-dn と呼称される。

こうして区画設定を行い、発掘調査を実施した面積は 710m^2 である。

第7図 グリッド区画名称図



第3節 整理作業の経過

本報告書は、昭和59年4月1日付けで本四公団と締結した「香川県側埋蔵文化財発掘調査委託契約(その2)」に基づく調査報告書の第3分冊『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ 羽佐島遺跡(II)』として刊行するものである。

他の島嶼部遺跡の調査報告書が、発掘調査終了後数年を経て、本格的な整理作業が開始され刊行のはこびとなっているのに比べて、本報告書は機会に恵まれていたと言えよう。昭和58年7月から10月まで発掘調査を実施した後、引き続いて整理作業に入ることができたのである。

そうした背景には、昭和56年度から2年間を経て事務所の整理体制が整い、整理補助作業員

作業項目	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
遺物の実測										
調査図面 } の点検 遺物実測図										
遺物計測・観察表作成										
遺物の写真撮影										
図版レイアウト・トレース										
原稿の執筆										
編集										

第1表 昭和58・59年度羽佐島遺跡(II)の整理作業経過

の遺物実測をはじめとする整理作業能力もかなり高い水準を保つようになっていたことがある。さらに、第1分冊『羽佐島遺跡（I）』の報告書づくりに携わっていた整理作業員を11月からそのまま引き継いで、調査報告書刊行に向けての整理を開始することができた。

遺物の実測からはじまり現場作業時の図面や遺物の実測図の点検、遺物計測及び観察表の作成、遺物写真の撮影、各種図版のレイアウト・トレースの仕上げ、原稿の執筆・整理、本文・図版等の編集……など、整理作業の経過は図示したとおりである。

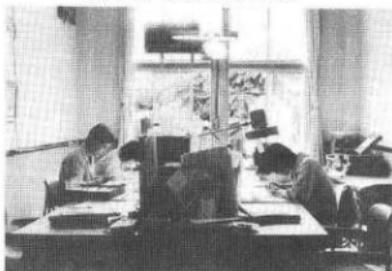
今、ここに『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告III 羽佐島遺跡（II）』を刊行するはこびとなつた。羽佐島遺跡では、昭和53・54年度に第1次発掘調査を実施しており、その成果は昭和59年1月に調査報告の第1分冊として刊行している。今回の第2次発掘調査では、多数の細石核・サヌカイト以外の石材を用いた旧石器・滑石製勾玉・銅製帶金具等が出土して、前回の調査成果と合わせて羽佐島遺跡の性格をより広範囲で明確にするきっかけを与えてくれた。しかし、見落とした観察事項や検討事項も多いだろうし、調査研究を深めていく努力の不足が目立つているかもしれない。各方面からの積極的なご叱正・ご教示をお願いしたい。

羽佐島遺跡（II）の整理作業に携わった補助作業員

日下五十鈴・川田裕加子・西桶右子・阿野晃子・増井正子・平田保代



第8図 遺物の水洗い作業



第9図 実測作業

第3章 層序と遺物の出土状況

第1節 層序

羽佐島は花崗岩からなる低丘陵性の島であり、本遺跡はこの尾根上や斜面部に立地し、遺物は花崗岩風化土を中心として出土した。層序は基本的には羽佐島遺跡第1次調査の層位認識に基づき分層した。^[註1]

第1層—腐植土を含む淡灰褐色土（10～15cm前後）で、腐食の進んだ有機物（オロ）と、粒子が細かく植物の根の作用などによる風化を強く受けた軟質土からなる。

第2層—灰褐色土（20～40cm）で、粒子がわずかに粗くやや硬質である。

第3層—黄褐色砂質土（10～20cm）で、土質は第2層に近いが粒子は第2層よりも粗く硬質である。

第4層—灰茶褐色花崗岩風化土で硬質のブロック状を呈し、その間隙に黄褐色土が充填している。この層より下位には遺物は含まれないが、充填した第3層と類似した黄褐色土からはごく微量の遺物出土が見られた。

斜面部においては第1層から第4層までの層序が見られたが、尾根部に近く平坦になってゆく地区は畑作化されており、第3層が薄く5cm以下の厚さとなる箇所、あるいは第3層の認められない箇所もあった。

第2節 遺物の出土状況

今回の発掘調査で出土した遺物は、総点数12,117点である。

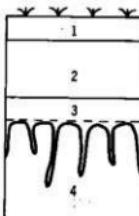
遺物は調査地区的全域にわたって出土したが、各グリッドにおいてわずかに違いが見られる。總じて尾根筋平坦部に近い箇所においての出土が多い。出土密度は、尾根筋平坦部に最も近いB01が最も高く51.5である。第1・第2トレンチがこれに次いで、35.9, 37.5である。

遺物の垂直分布を見てみると、遺物は第1層から第3層において出土した。各層とも旧石器時代の遺物を中心として、縄文土器・石器や、古代・中世の土器、あるいは近・現代に至る陶磁器が出土したが、後世の人為的擾乱を受けているため遺物の垂直分布は整然とせず、いずれにおいても顕著な集中箇所は見られず傾斜面の違いにより若干の出土量の差が生じたものである。

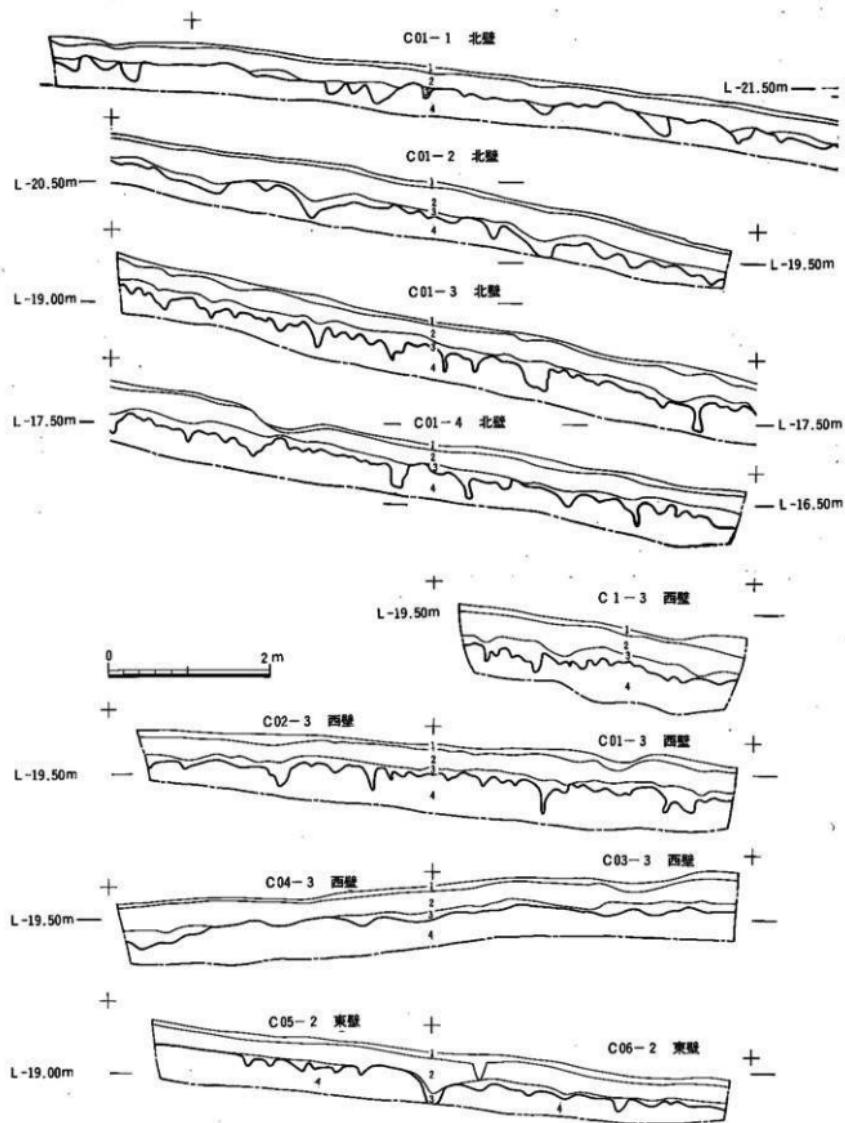
器種ごとの平面的出土状況を見てみると、ナイフ形石器はC02-1, C1～C01-1・2に多く出土する傾向があり、翼状剣片・横長剣片もこれとほぼ同様な方を示すが、横長剣片石核はC03-2, 04-2に集中している。

舟底形石器・尖頭器は数量が少ないため特徴が挙げられない。

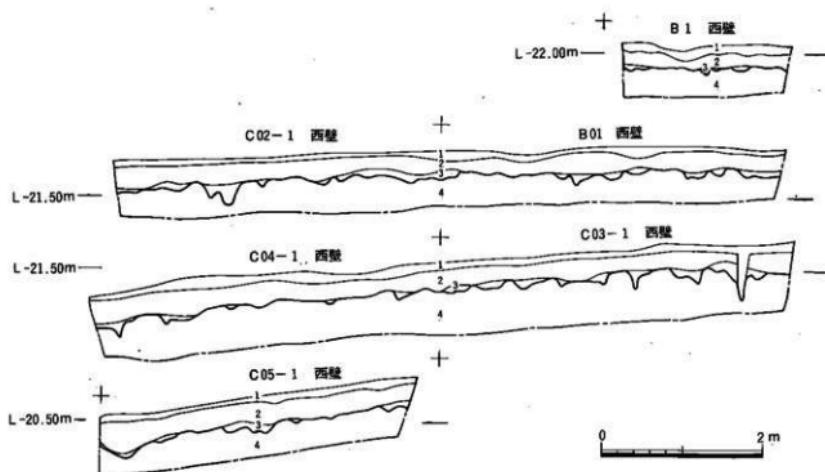
縦長剣片石核はナイフ形石器とは異なりC03-1, 02-1に、縦長剣片はC1-2に多く出土する傾向を示す。



第10図 土層柱状図^[註2]



第 11 図 土層実測図 (1)



第12図 土層実測図

細石刃はナイフ形石器と同様にC02-1, 01-1・2に、細石核は若干ずれを見せてC01-2・3, C04-2に多く出土する。

石鏃は細石核と同様にC01-2, 02-2に集中する傾向を示す。

叩き石はC1-1・2に多く出土しており、ナイフ形石器とわずかに重なりを見せる。

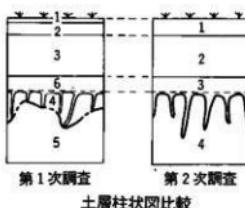
器種ごとにわずかに違いが見られるものの、總遺物の出土状況とほぼ同様で、C01-1, C02-1を中心としてこれに近接するグリッドに集中する傾向が見られる。

前述したとおり、尾根筋平坦面に近い緩斜面部に多く出土する傾向が表れているが、平坦面に最も近いB1-01は実掘面積が狭く石器の絶対数が少ないため、器種別に見た場合の石器数は多く出土しなかった。

第1・2トレンチは谷筋にあたり調査地区内でも急な箇所であるが、出土密度が高くナイフ形石器は多く出土する傾向を見せてている。2つのトレンチは、第1次調査のC1～8列に近い箇所でもあり、単なる尾根筋からの流れ込みによる遺物だけでなく、2つの斜面部からの流れ込み遺物の影響により重複してこのような傾向として表れたものと思われる。

註

- (1) 渡部明夫「土層と遺物の出土状態」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 I 羽佐島遺跡(I)』1984・1 香川県教育委員会
- (2) 第2次調査における第3層と第4層の区別は褐色ブロックの上限をもってなす。褐色ブロックとは花崗岩の風化したもので、第4層中には花崗岩の節理に沿って風化の進んでいる部分に第3層が充填している。



第 2 表 グリッド別石器組成表

第4章 遺物

第1節 旧石器時代の出土遺物

1. ナイフ形石器（第13～20図）

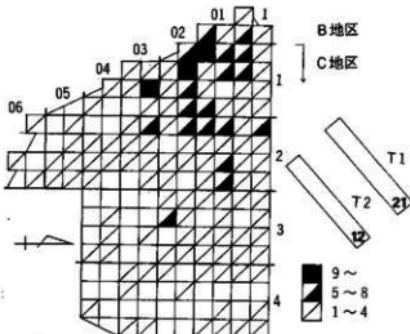
完形品から小さな破片まで含めてナイフ形石器は365点出土した。ナイフ形石器の出土しなかったグリッドではなく、多少の差はあるもののすべてのグリッドから出土している。C02-1・bnで11点出土したのを最高に、C01-1・asで10点、C03-1・cnで9点、C1-2・an, C01-1・an, C02-1・anで各8点、面積的に少しあないB01-sで6点と、尾根筋南丘陵頂部に近いB1, B01, C1～C03-1・2の範囲に集中する傾向がある。同範囲からは224点のナイフ形石器が出土しているが、これは全体の約61%に当る。同範囲での遺物出土総数の集中率は51%であるから、かなり高い集中率を示すと言えよう。このようにB1, B01, C1～C03-1・2の範囲に出土が集中するものには、ナイフ形石器のほか翼状剝片（全体の約67%）がある。両者が互いに密接に関係する遺物であることは明らかであり、出土傾向もそれを裏づけている。

羽佐島遺跡から出土したナイフ形石器のほとんどはサヌカイト製である（第13～20図118）が、玻璃質安山岩を用いたものが1点（第20図119）、黒曜石を用いたものが1点（第20図120）、水晶を用いたものが2点（第20図121, 122）出土している。出土したナイフ形石器のほとんどは翼状剝片を含む横長剝片を素材としており、縦長剝片を素材とするものは非常に少なく5点のみであった。ただ黒曜石製ナイフ形石器・水晶製ナイフ形石器はすべて縦長剝片を用いている。

出土したナイフ形石器のほとんどは、翼状剝片を用いた国府型ナイフ形石器と横長剝片を用いたナイフ形石器であるが、この両者を厳密に区分することは困難である。したがって、本文中に記述する翼状剝片素材・横長剝片素材という記述はその可能性が高いということであって、断言できるものではないことを最初に断っておきたい。

形態分類は、背面の状況等によって第4表に示したようないくつかのタイプに分類した。そして、各タイプの素材を推察することによって、製品段階のナイフ形石器を国府型ナイフ形石器であるか否かを推定できないものか試行してみた。

1～14・53・63・72・74～76はAタイプでファースト・フレイクか、それに近い剥離工程に



第3表 ナイフ形石器出土分布表

おける初期の剝片を素材とするものである。1・4には背面の自然面を切るようネガティブな剝離痕が見受けられるが、目的剝片の剝離痕とは考えにくい。2・5～9・12・13・53の底面には打点が残る。11・14は打面部に施された二次調整によって底面の打点をとばされたものと考えられる。11の刃部中央には使用痕と思われる小さな剝離痕が多数見られる。10の刃部側先端部には背・腹の両面から細かい調整が施されている。53は刃部のいたるところに使用痕と考えられる小剝離痕が見られる。Aタイプのナイフ形石器を国府型ナイフ形石器とそうでないものに区分するには、接合資料でもない限り不可能に近いものと思われる。ただ、1～14・53は打面部が山形に整形されていた可能性も高く、翼状剝片素材として見ることもできよう。

15～39・50・54・55・77～82はBタイプで背面に目的剝片剝離痕と底面を各1面ずつ持ち、断面が四角形を呈する。15は先端部を破損しているにもかかわらず、器体の長さは約8cmもあり、今回出土したなかでは一番大きなナイフ形石器である。16・34・54の基部には折損した痕跡が認められるが、折損の後、再調整を施して器形を整えたものと考えられる。77の目的剝片の剝離痕はあたかもポジティブな剝離のように見受けられ、一見すると底面が2面あるように思える。しかし、底面との切り合い関係や角度、主要剝離がネガティブ気味に及んでいる事等を総合して判断すれば、底面としては考えにくく、ネガティブな剝離面として捉えることにした。80は下半部で主要剝離面が背面側に大きくもぐりこんだため、底面を消失している。刃部側の腹面下半部及び背面基部に施された調整は、基部調整と考えることもできるが、蝶番剝離によって刃部が突出した部分を整形するために施された調整と見なした方が妥当と思われる。78・81・82の刃部には使用痕と考えられる小剝離痕が見られる。15～39・50・54・55は背面の目的剝片剝離痕の加撃方向と主要剝離面の加撃方向がほぼ一致する。また、底面を下にして剝片を観察しても、石核の幅を有効に用いて連続して剥取された剝片を素材としている可能性が高いので、国府型ナイフ形石器と考えることができよう。これに対して、77～82は背面の目的剝片剝離痕の加撃方向が主要剝離面の加撃方向と大きくずれていたり(79・81)、器体が薄く打面調整を施した翼状剝片石核から剝離されたとは考えにくかったり(78)、底面を平行に用いて目的剝片を剝離したとは考えられない(77・80)ので、横長剝片を素材とした可能性が高い。

40・41・43はCタイプで背面に1面の目的剝片剝離痕と複数の底面を持ち、断面が四角形を呈する。43には基部を折損した後、折損面を末端方向から加撃して器形を整えた形跡が認められる。3点とも目的剝片剝離痕と主要剝離面を観察すると、加撃方向がほぼ一致すると同時に、ほぼ同じ大きさの剝片が連続して剥取されたものと考えられる。よって、翼状剝片を用いた国

背 面 の 状 況				タ イ プ
断 面 形	N 面 数	底 面 数		
四 角 形	1 複 数	1 複 数	1 複 数	A
疾 赤 に N 面 が 残 る	1 複 数	1 複 数	1 複 数	B
	1 複 数	1 複 数	1 複 数	C
三 角 形	1 複 数	1 複 数	1 複 数	D
				E
				F
				G
				H
				I
				J
				K

第4表 ナイフ形石器の形態分類

府型ナイフ形石器として捉えてもよいだろう。

42・44～49・56・57・64～66・73・83～93はDタイプで背面に複数のネガティブな剝離面と1面の底面を持ち、断面は四角形を呈する。45の底面には、打面部の二次調整が施された後、その調整面を打点部として剝離された剝離痕が見られる。これは主要剝離が目的剝片剝離痕と平行に行われなかったために、先端よりの部分が厚くなつたのを整形するために施された調整痕であろう。86の上半部は主要剝離面が底面及び左図左辺上部のネガティブな剝離面にもぐりこむように剝離していて、刃部は鋭いエッジ状になっていない。にもかかわらず、エッジ状を呈する下半部を基部として用いていることから考えて、本来は刺突する目的の尖った先端部を持っていた可能性もある。49・64・87・88の刃部には使用痕と考えられる微小な剝離痕が見られる。

背面に複数のネガティブな剝離面をもつていても、それらのすべてが目的剝片の剝離痕と考えられるわけではない。剝片を整形するために施された調整痕が含まれている可能性もある。46・47・56の先端にある剝離痕はそういう剝片調整痕とみることもできるが、完成品としてのナイフ形石器の段階では二次調整によって剝離痕がかなりカットされているため、目的剝片の剝離痕か否かを見分けるのは非常に困難である。

主要剝離面と目的剝片剝離痕と考えられる剝離面の剝離方向を観察した結果、42・44～49・56・57はすべての剝離方向がほぼ一致し、打点部が石核のほぼ中央部を連続して移動しながら剝取された剝片である可能性が高く、翼状剝片を用いた国府型ナイフ形石器と考えられる。これに対して、64～66は目的剝片剝離痕の1面は主要剝離面とほぼ同じ方向で剝離されているが、他の剝離面の剝離方向は異なるため、素材を考えるのは難しいので不明としておく。73・83～93は背面のほとんどの剝離面の剝離方向が、主要剝離面の剝離方向を中心にして左右に大きくずれており、打点が石核の打面部を常に左右に動きながら剝離された剝片である可能性が高く、横長剝片を素材としたナイフ形石器と考えられる。

94・95はEタイプで、複数のネガティブな剝離面と複数の底面を持ち、断面は四角形を呈する。どちらも背面の目的剝片剝離痕の剝離方向が左右に大きくずれているため、横長剝片を素材としたものと考えられる。底面はどちらも刃部側からの剝離によって形成されている。

51・52・58・67・69・96はFタイプで、痕跡程度に残るネガティブな剝離面と底面を各1面ずつ有する。51は下半部を破損しているが、復原すれば8cmを超える大きさになると考えられる。69の底面は刃部側からの剝離によって形成されている。67の刃部には使用痕と考えられる小剝離痕がある。

ネガティブな剝離痕が小さいため、剝離方向を十分に観察できないが、51・52・58は主要剝離面の剝離方向とほぼ一致すると見られるので国府型ナイフ形石器と考えられる。67・69・96は素材を明確にできないが、底面が刃部側からの剝離で形成された69・96は横長剝片を用いた可能性もある。

59・68・70・97～105はHタイプで、複数の痕跡程度に残るネガティブな剝離面と1面の底面を持つ。99・102の刃部には使用痕らしき剝離痕が見られる。59・68は国府型ナイフ形石器の可能性もあるが、97～105は並列して目的剝片の剝離痕が残り、打点部も左右に大きく動きながら剝離されたものと考えられるので、横長剝片を素材として用いたものと思われる。

106・107はIタイプで、複数の痕跡程度に残るネガティブな剝離面と複数の底面を持つ。どちらもHタイプの97～105と同様に並列した背面のネガティブな剝離面の剝離方向が一致しな

いので、横長剝片を素材とした可能性が高い。

60～62・71・108～111はJタイプで、底面を1面持ち、断面が三角形状を呈する。二次調整が背面のネガティブな剝離面を越えて及んだために、ネガティブな剝離面を消失したものと考えられる。62の底面はポジティブな剝離面ではない可能性がある。打面部の二次調整は主要剝離面側と背面側の両面から施されている。ネガティブな剝離面を持たないため素材を判別し難いが、60～62・71は底面の剝離方向が石核のほぼ中央に平行するように用いられていることから、翼状剝片を素材とした可能性がある。これに対して、108・111は器体が薄く、翼状剝片石核から剝離された可能性は少ないとえよう。

112はKタイプで、複数の底面を持ち、断面が三角形状を呈する。底面の大部分が刃部側からの剝離であることや、石理を底面と平行に用いていることを考えると横長剝片を素材とした可能性が高い。

113・114は横長剝片を利用した切り出し形ナイフ形石器である。どちらも複数のネガティブな剝離面と1面の底面を有する。113の調整は粗く大きいが、114の調整は比較的丁寧に施されている。113の刃部には使用痕と考えられる小剝離痕がある。

115～117は縦長剝片を素材としたナイフ形石器である。115の背面はいずれも主要剝離面と同じ縦方向の剝離面からなる。また、刃部先端は断面が三角形を呈し、主要剝離面の両縁辺が刃部として考えられよう。

118は不定形剝片を素材としたナイフ形石器である。主要剝離面側基部（右図下）には石核側面が残り、底面はポジティブな剝離面からなる。打面側にはフラットな折損面を持つ。刃部はポジティブな底面の影響で鋭利にならず、かなりの厚みを持っていたものと思われ、刃部全域に施された調整には刃部を整形する意図があったのであろう。

119は玻璃質安山岩製のナイフ形石器で、横長剝片を利用した切り出し形ナイフ形石器と考えられるものである。

120は黒曜石製のナイフ形石器で、縦長剝片を利用したものである。黒曜石製のナイフ形石器は前回の調査でも2点出土しており、2点とも縦長剝片を利用したものであった。^{第11回}しかし、前回出土したものが小形切り出し形ナイフ形石器であるのに対して、今回出土したものは器長約4cmと大きい。背面には大きく自然面を残し、自然面と主要剝離面とで形成する縁辺を刃部としている。

121・122は水晶製のナイフ形石器で、2点とも縦長剝片を利用したものである。121は白色透明で、背面には自然面が残る。主要剝離面及び両側縁の下半部には器形を整えるために施されたと考えられる調整痕が複数見られる。その結果、形態は両刃の切り出し形ナイフ形石器の様相を呈する。刃部両側縁にも錯行状に調整が施されているが、主要剝離面側に施された調整の方が丁寧である。122は黒色透明で、基部を残して他の部分は破損している。刃部も欠失しており、形態は不明だが、復原すれば約5cm前後の大型になるものと思われる。

ナイフ形石器の刃部あるいは刃部側に調整を施されたものは少なくない。調整を施す部位には、

I—先端または上半部に施したもの (19・49・56・57・72・75・77・103・120・121)

II—刃部の中央に施したもの (38・64・112)

III—刃部の全体、またはほぼ全体に施したもの (20・39・46・66・93～96・118)

IV—刃部の基部または下半部に施したもの (21・28・32・40・41・54・62・63・80・91・98・

100・101・106・107)

V-刃部の先端と基部に施したもの (33) がある。

調整はほとんどの場合、主要剝離面側から施され、背面側から施したものは少ない (19・33・62・64・80・96・120)。

刃部に調整を施す理由としては、刃部の整形・機能すべき部分とそうでない部分の明確化・基部の装着強化・刺突機能強化などが考えられるが、ここでは刃部の整形を目的とした調整について述べてみたい。

底面を複数持つものには、主要剝離面とで形成する刃部が鋭利なエッジ状にならない場合があり、底面の交わる部分に調整を加えて刃部を整形したものがある (40・41・54・75・94・95・106・107・112)。

また、底面が1面でも主要剝離面の末端部分がネガティブな剝離面側へもぐりこんだものがあり、その部分は刃部がかなり湾曲することになるため、刃部を直線状に整形する必要がある (20・46)。しかし、同様の場合でも調整が施されていないもの (45) もあり、他の意図があつたことも考えられる。

主要剝離面が蝶番剝離気味に剝離した場合、刃部は鋭利にならず丸味を持つことになるため、刃部に調整を加えて整形したものもある (21・33・38・80・96・103)。ただし、21・33・80・103の場合は、基部調整を第1目的とした可能性も否定できない。

他に、主要剝離面が底面あるいは底面に相当する面とで刃部を形成する際、底面がふくらんでいる部分 (28・39・56・64・72・93)、底面が湾曲している部分 (63) にも刃部を整形するための調整が施される場合がある。

123~125はナイフ形石器を製作する際の打面側に二次調整を施す過程において、先端部あるいは基部を破損したプランティング・チップとでも呼ぶべきものである。

以上のように、背面の状況によって国府型ナイフ形石器とそうでないものを推定してみたが、判定の基準としては背面の目的剝片剝離痕や底面の剝離方向に依るところが大きい。背面にある目的剝片剝離痕の剝離方向が主要剝離面の剝離方向とほぼ一致するものは、背面の剝離痕の数に関係なく翼状剝片と考え、逆に剝離方向が明らかに異なるものは横長剝片と考えた。なお、翼状剝片石核のなかには、打点がわずかに左右に動きながら剝片を剥取した例が認められることも指摘されているので、打点の推定位置が多少ずれているのも翼状剝片として認定した。また、断面が三角形状を呈するナイフ形石器のように、背面にネガティブな剝離面を持たないものは、典型的な翼状剝片石核に見られるように、底面の剝離方向と主要剝離面の剝離方向を平面的に見て、ほぼ一致するものは翼状剝片と考えた。

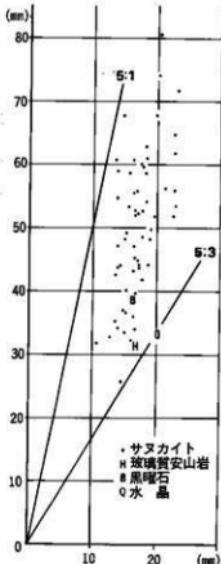
その結果、Eタイプ・Iタイプのように背面に複数のネガティブな剝離面と複数の底面を有するナイフ形石器には、国府型ナイフ形石器と考えられるものは1点もなく、すべて横長剝片を素材として用いたと考えられるものばかりであった。さらに興味深いのは、底面が複数の面から形成される横長剝片素材のナイフ形石器は5点あるが、ネガティブな剝離面を1面しか持たないCタイプ・Gタイプに属するものは1点も認められなかった。つまり、複数の底面を持つものは、断面が三角形を呈するKタイプの1点を除いてすべて、ネガティブな剝離面も複数持っているのである。言い換えれば、Eタイプ・Iタイプのナイフ形石器は国府型ナイフ形石器よりも横長剝片素材のナイフ形石器である可能性が高く、反対に、Cタイプ・Gタイプのものは国府型ナイフ形石器に属する可能性が高いと考えられよう。

同じように、背面に複数のネガティブな剝離面と1面の底面を持つDタイプ・Hタイプのナイフ形石器について調べてみた。Dタイプの背面にあるネガティブな剝離面の状況を観察すると、

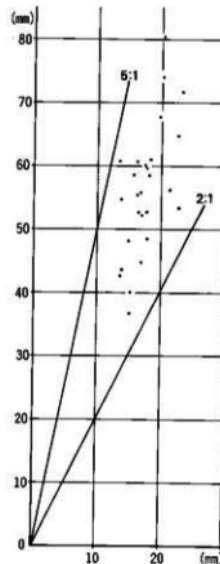
- ① ほぼ同じ大きさのネガティブな剝離面が底面に沿って並列にならんでいるもの (73・83~87・89~93)
- ② 新しいネガティブな剝離が底面まで達しきらなかったことを示すように、剝離面が上下に重なって位置するもの (42・45・49・57・88)
- ③ 先端あるいは基部側にやや小さな剝離痕が目的剝片剝離痕と並列して並ぶもの (44・46~48・56)

がある。

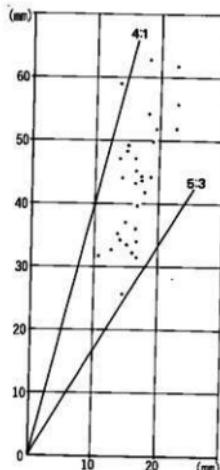
①の剝離方向はすべて異なり、打点の推定位置は打面部の全域に散らばる。さらに、ネガティブな剝離が両側縁から及んだために、底面が台形や三角形状を呈するものが多い。③の小さな剝離痕はその大きさや位置から目的剝片の剝離痕と考えるよりも、剝片を整形した剝片調整痕と考えた方が妥当なものである。よって、②・③に該当するものは翼状剝片を素材とした可能性があり、国府型ナイフ形石器と考えられるものである。①に該当するものは横長剝片素材のナイフ形石器を考えた。Hタイプの観察結果からも、ほぼ同様なネガティブな剝離面の状況が窺えるので、背面のネガティブな剝離面の残り方を調べることによって、国府型ナイフ形石器か否かを推察できる可能性もあるのではないだろうか。



第5表 ナイフ形石器の長幅比



第6表 国府型ナイフ形石器の長幅比



第7表 横長剝片利用のナイフ形石器の長幅比

翼状剝片を素材として製作されたと思われるナイフ形石器の大きさを見ると、長さは4.5～6cmのものが多く、長幅比は5：1～2：1で細長い形態を呈する（第6表）。

これに対して、横長剝片を素材として製作されたと思われるナイフ形石器の大きさを見ると、長さ約3～5cmのものが多く、国府型ナイフ形石器に比べて若干小形化している。長幅比も4：1～5：3と国府型ナイフ形石器よりやや幅広の形態を呈するようである（第7表）。

2. 舟底形石器（第21図1～6）

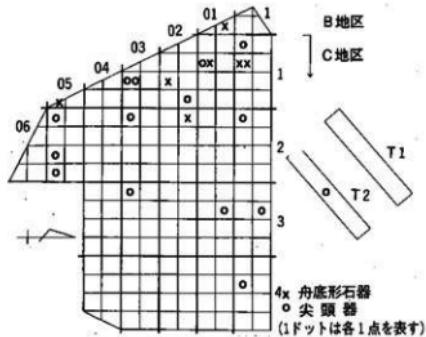
7点出土しており、1点（5）を除いてはすべてサヌカイト製で、これらのうち6点を図示した。出土状況では特に集中した箇所はみられなかった。

出土した舟底形石器は、甲板面からのみ調整を施したもの（1・3～6）と底面からの調整を持つもの（2），甲板面が複数のもの（1）と1面しかもたないもの（2～6）に分けることができる。完形でないものもあるが、長さ4.5～6.0cm前後、幅1.5～2.0cm、重さ4～10gのものばかりで、羽佐島遺跡（I）で指摘されたような長さ8～10cm、重さ20g前後の大型のものは出土していない。

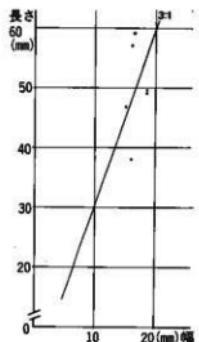
1の2つの甲板面はかなりフラットな面からなり、打点の近い底面があることから、石核側面を打面として利用した後、甲板面として残したものと考えられる。

2は明確な底面を持たず、断面は三角形に尖っている。甲板面から右側辺部に大きな剝離を施して作製されたもので、先端部を作り出してはいるもののわずかに細かい調整が右側辺部にみられるだけで未製品とも考えられる。また、中央の稜上から甲板面に向う調整が認められる。基部には更に面を作り出すための縦方向の剝離が見られ、基部の断面は台形を呈する。この剝離面の打点は基部の截断により消失したものと思われる。

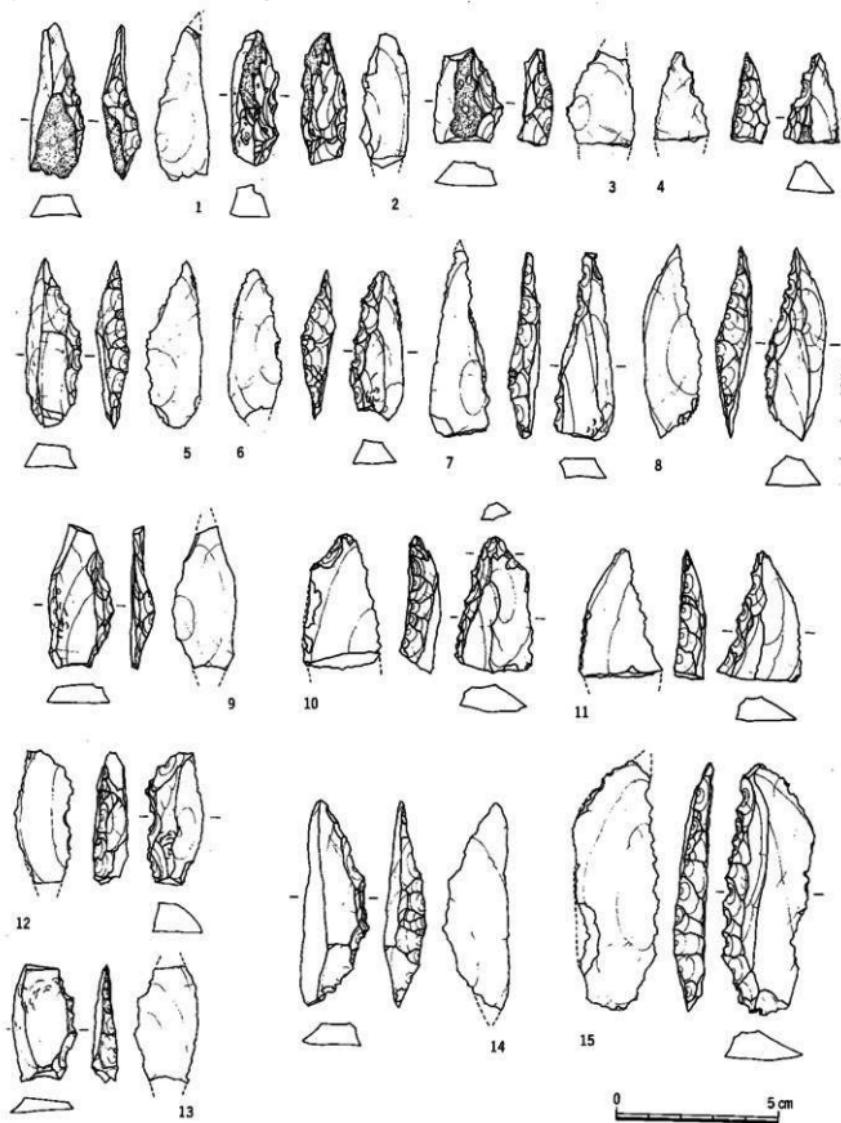
4は2つの底面が、6は1つの底面がいずれも基部で甲板面に接しており、基部はヘラ状になっている。



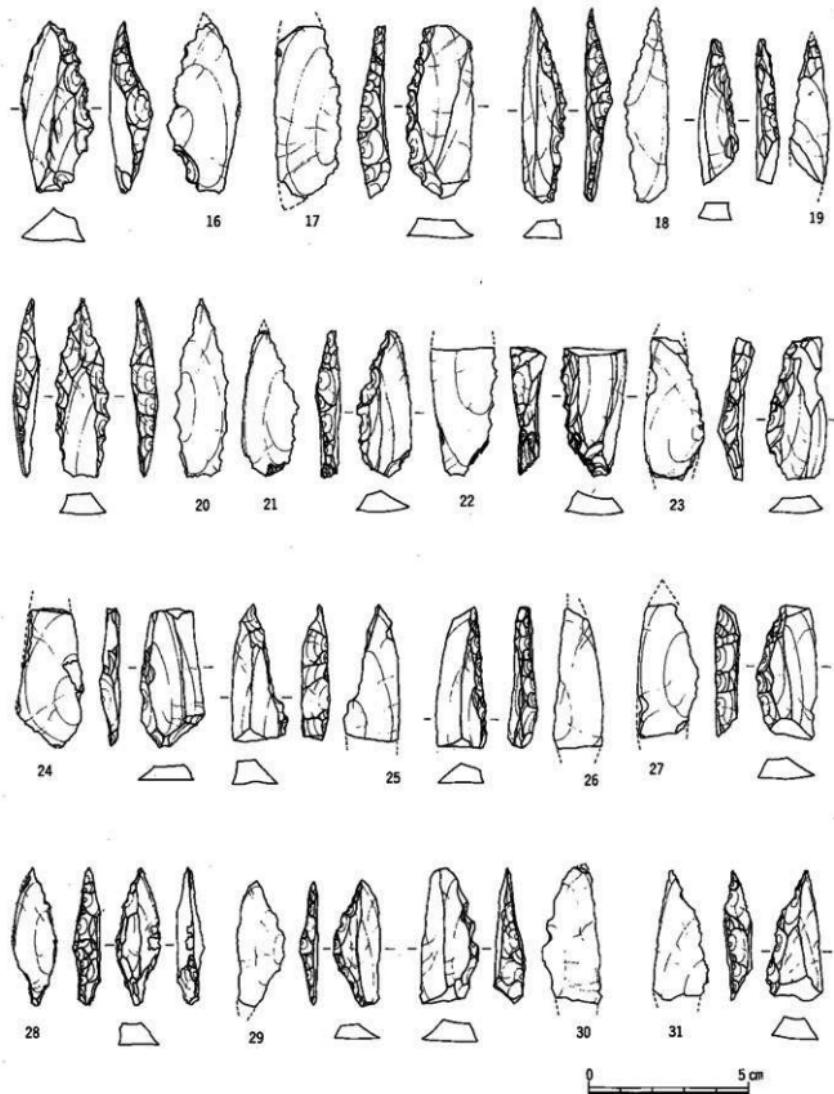
第8表 舟底形石器・尖頭器出土分布表



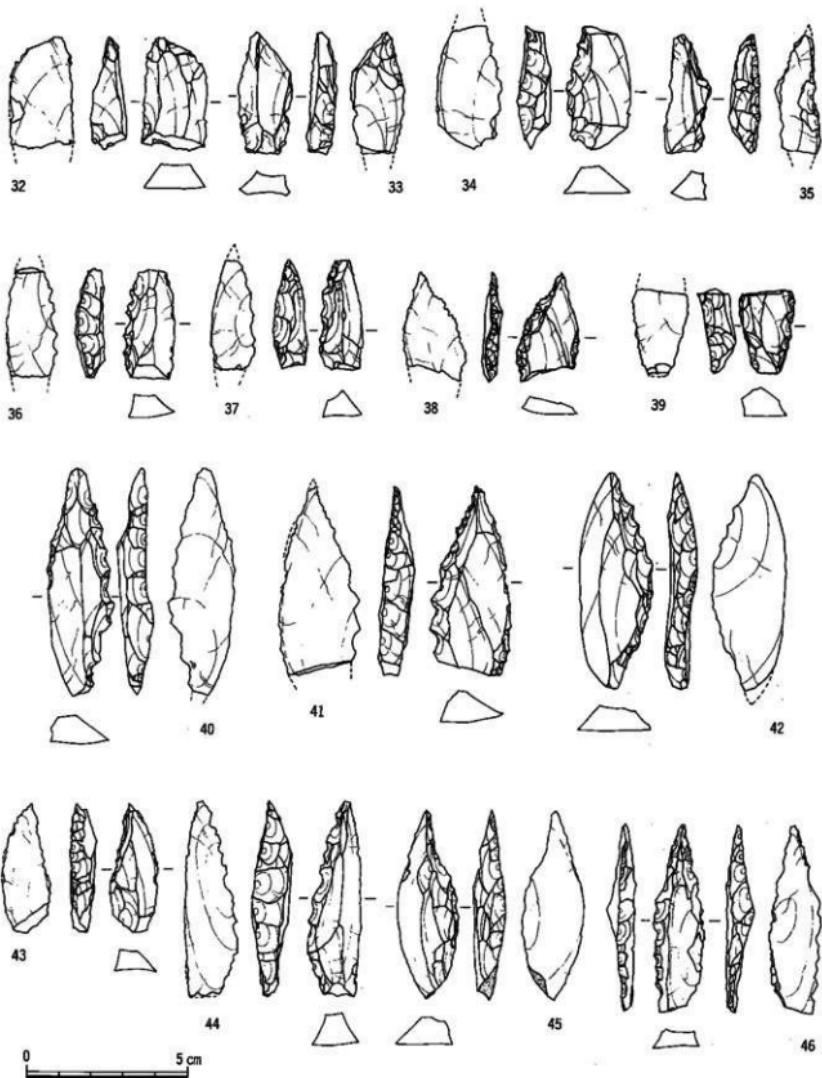
第9表 舟底形石器の長幅比



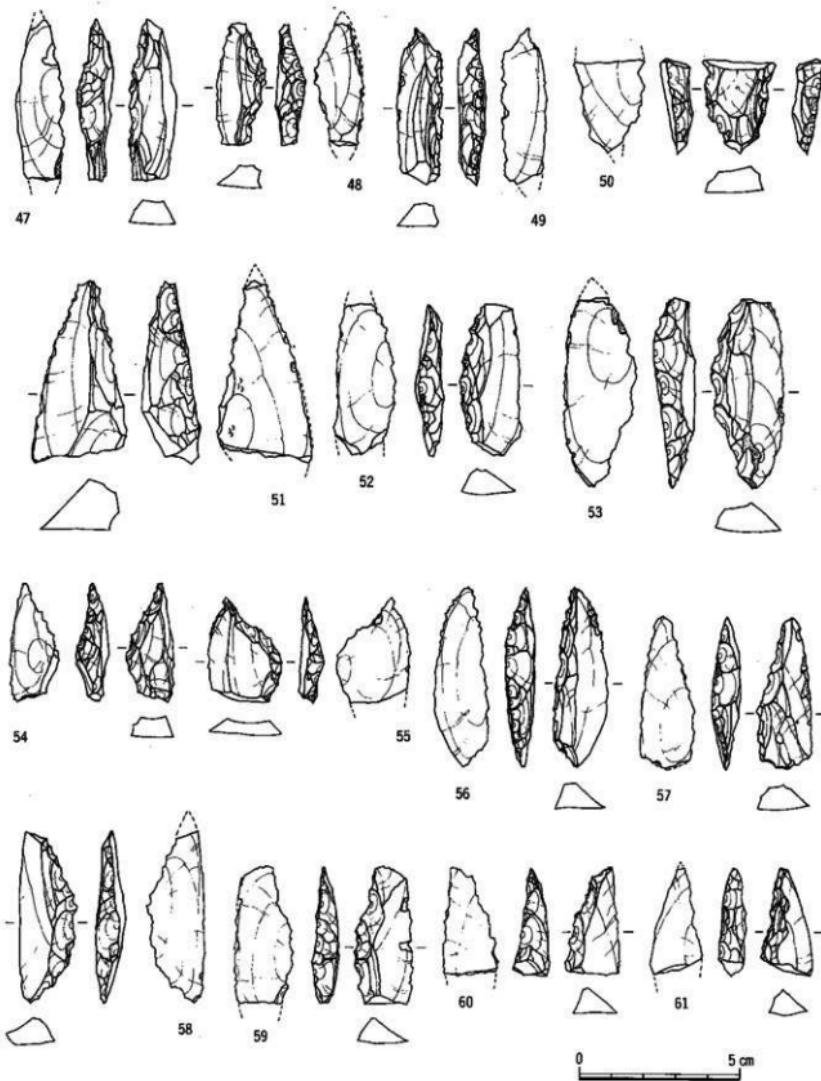
第 13 図 ナイフ形石器実測図 (1)



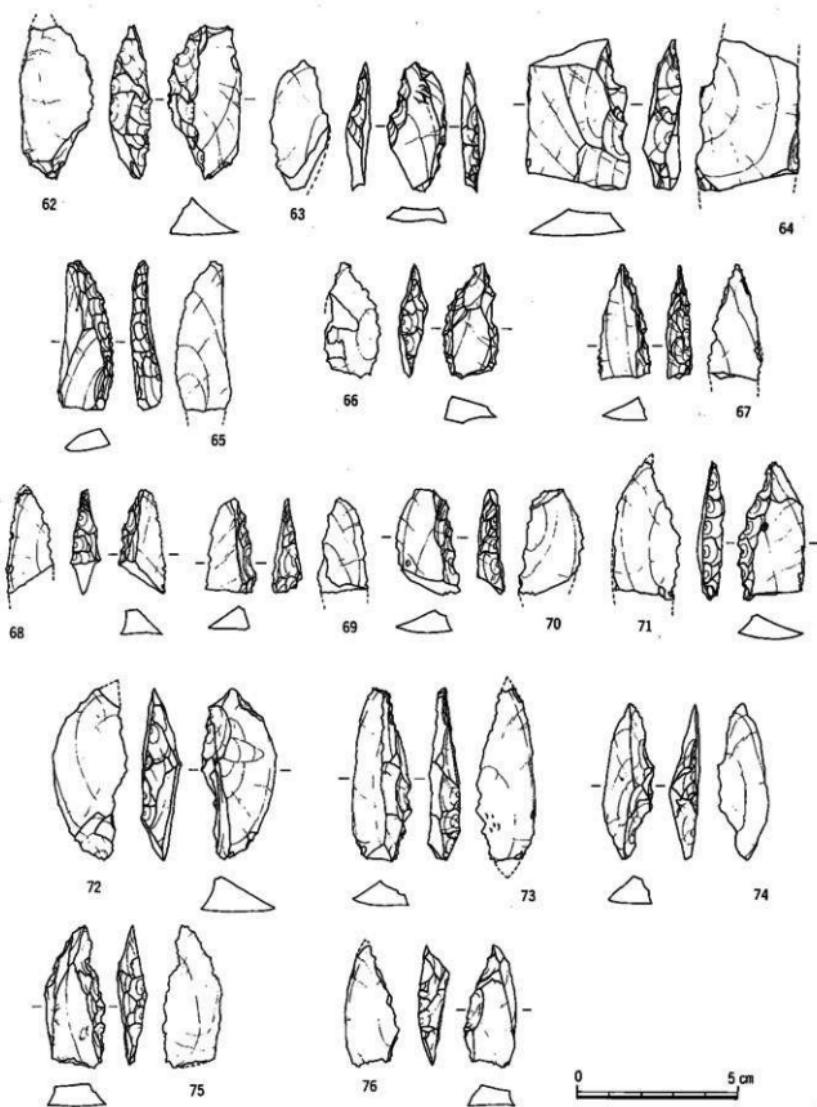
第14図 ナイフ形石器実測図 (2)



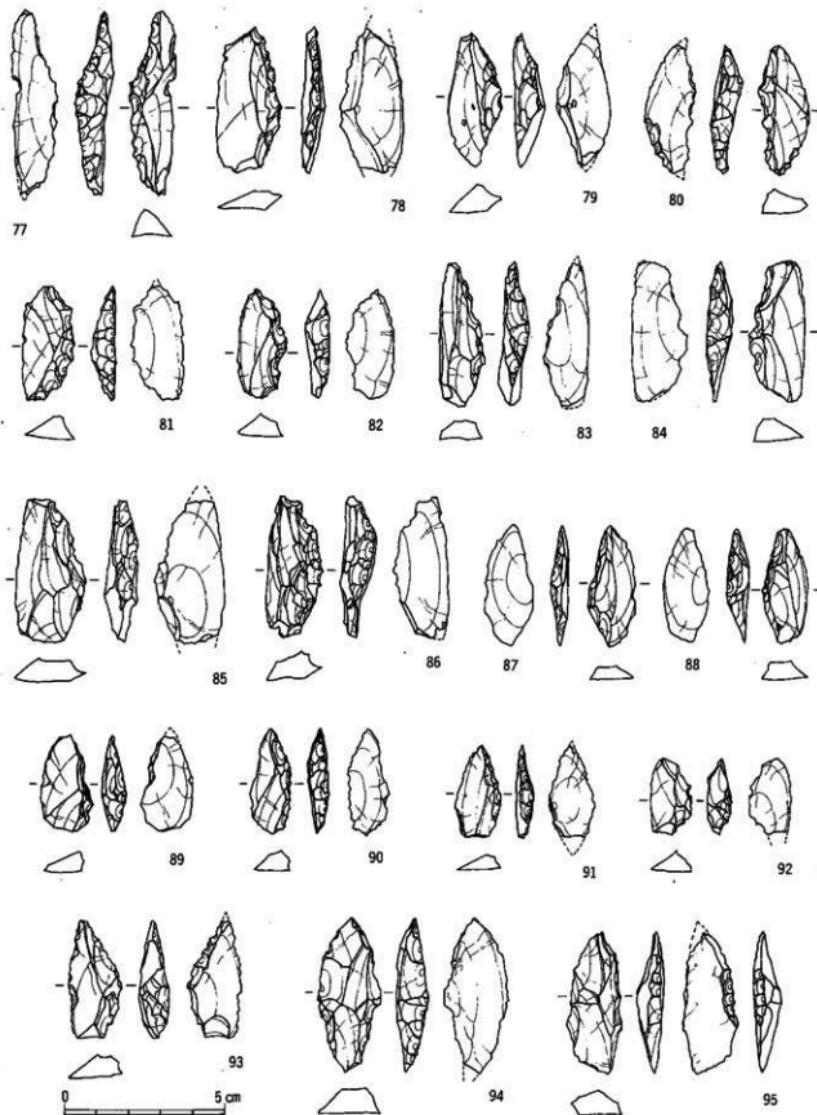
第 15 図 ナイフ形石器実測図 (3)



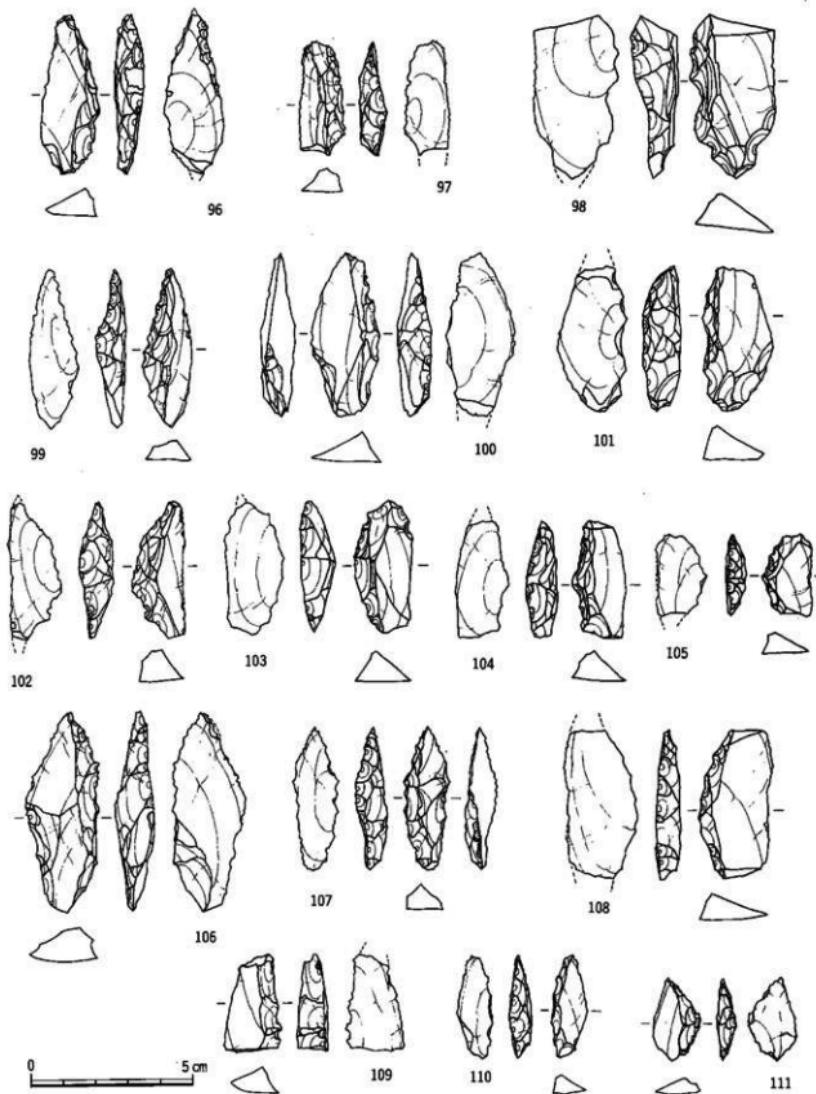
第 16 図 ナイフ形石器実測図 (4)



第 17 図 ナイフ形石器実測図 (5)



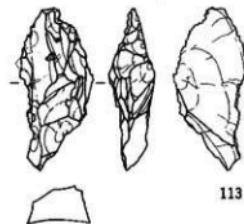
第18図 ナイフ形石器実測図 (6)



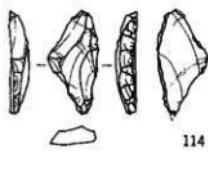
第 19 図 ナイフ形石器実測図 (7)



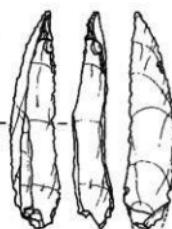
112



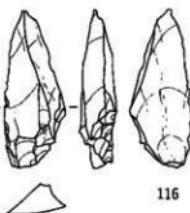
113



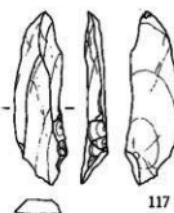
114



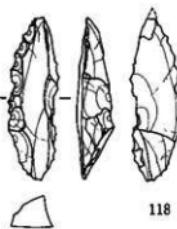
115



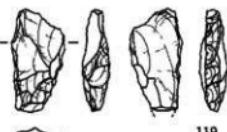
116



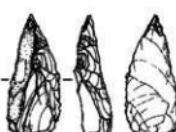
117



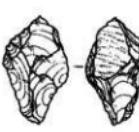
118



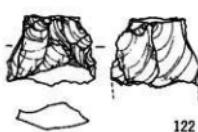
119



120



121



122

0 5 cm



123



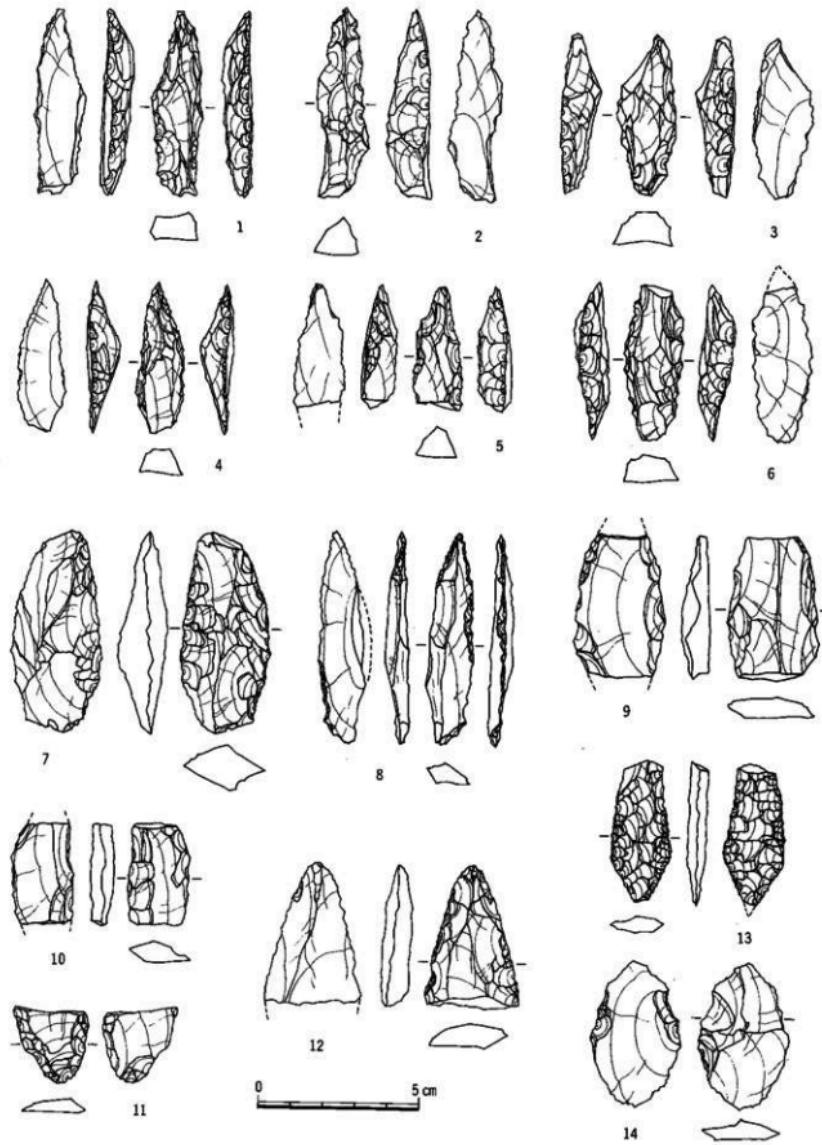
124



125

0 5 cm

第 20 図 ナイフ形石器実測図 (8)



第 21 図 舟底形石器・尖頭器実測図

3. 尖頭器 (第21図 7~14)

13点出土しているが、その出土状況は散漫であり完形品は少なく、いずれも先端部あるいは基部、または先端部及び基部を大きく欠失したものや、尖端部のみのものがほとんどである。これらのうち1点(13)がチャート製である以外はすべてサヌカイト製である。

出土した尖頭器は、木葉形のもの(7)、細身のもの(8)、紡錘形のもの(12)、有舌尖頭器(13)が各1点、尖端部のみのものが4点、身部のみのもの(9・10)が3点、基部のみのもの(11)が1点、未製品と思われるもの(14)が1点である。調整は両面に施されたもの、片面に施されたものがあり、調整以前の側離面を①両面に大きく残すもの、②片面に大きく残すもの、③中央部及び一部に残すものや、④側縁部に調整が施されたもの、⑤両面に丁寧な調整が施されたものがある。

7は木葉形のもので、横長剝片石核を転用したものと思われる。片面は若干の調整と縁辺部に細かい調整が施されている。もう一方の面では、左側辺部は折れ面をそのまま利用して右側辺部に粗く調整が施されているのみである。

8は横長剝片を素材とした細身の尖頭器である。基礎部および身部中央から、先端に向う両側縁に主要側離面側からの片面調整が施されている。身部中央から基部に向う右側縁部には背面側からの片面調整が施され、左側縁部は一部を欠くため明確ではないが、剝片のエッジ部をそのまま残していると思われる。

9は両側辺とも両面から調整が施されているが、一側辺部の方が丁寧に調整が施されている。

11は基部が舌状に作り出され、一方の基部端が尖る。両面加工品で、片面の調整には打点が残る。

13はチャート製の有舌尖頭器である。押圧剝離により全体に丁寧な調整が施されている。

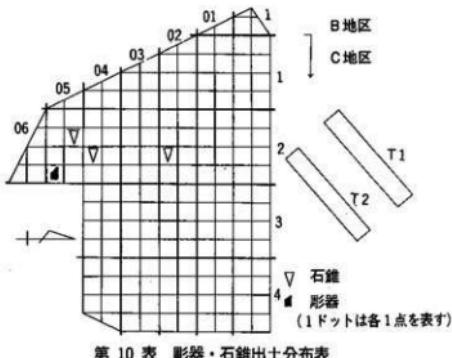
14は未製品と考えられる。横長剝片を素材として打点部をとばし、身部中央側縁部に調整を加えただけであるが、調整を加えれば木葉形あるいは柳葉形の尖頭器になると思われる。^(注4)

4. 彫器 (第22図 1)

楕状剝離が見られ、彫刀面が作り出されている。長さ4.73cm、幅2.67cm、重さ8.1gである。折れ面を利用し、右図の上端右斜め上方から加撃して斜刃型刃部を作り出す。彫刀面端部を欠失するため打点は明確ではない。

羽佐島遺跡(I)に見られる彫器とされたものは両面加工品、板状サヌカイトを素材とするものである。交叉刃型・側刃型・横刃型の彫器は厚さ1.0cm以上の分厚なものであるが、小形で斜刃型刃部のものは今回出土の彫器と同様に比較的薄い素材を使用している。^(注5)

今回出土した彫器は、剝片の周縁に両面調整が施されたものを素材としており、表面は全面にわたって白く風化している。



第10表 彫器・石錐出土分布表

5. 石錐 (第22図2~4)

3点出土している。うち2点(2・3)はC04-2・C05-2の隣接したグリッドのしかも比較的近い箇所からの出土である。

2は横長剥片石核を素材とする。調整を加えて石核の剥離痕の打点部をとばし、もう一方の面に向って側縁および刃部に調整が施されている。先端部は欠失している。

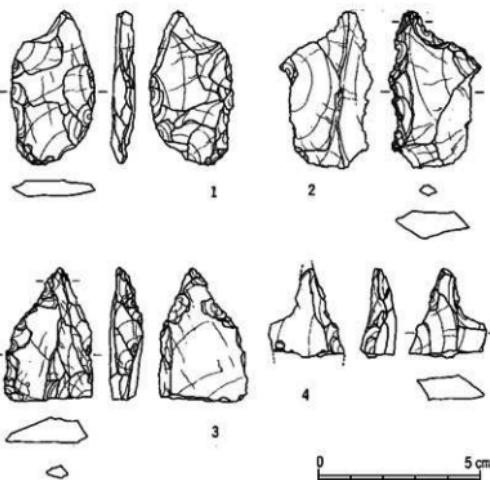
3は主要剥離面側から刃部および側縁部に調整が施されている。尖頭器の可能性も考えられるが、背面側から刃部と側辺部を区別する調整が加えられているため石錐と思われる。

4は翼状剥片を素材とする石錐と考えられるものである。細部調整がほとんど施されず、素材をそのまま利用している。左側辺には背面側からの調整が見られる。これは翼状剥片剥離の際、石核に施された打面調整部がそのまま残ったものと考えられるが、下半部を欠くため明確には断言できない。主要剥離面側から若干の調整が施されており、さらに細かい調整を加えて刃部を作り出せば石錐になりうるものと考えられる。

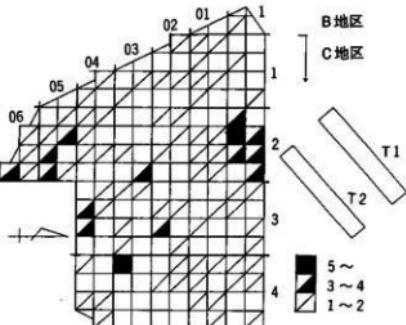
6. 削器・搔器 (第23~25図)

不確実なものを含め、削器と搔器・円形搔器を合わせて156点出土した。削器と搔器の分類は、一般的には調整が施された部位によってなされるが、ここでは刃部の角度も考慮に入れて、刃部の調整が急角度で施されたものを搔器、そうでないものを削器として扱った。

第23図1~3は横長剥片石核を転用した削器・搔器と考えられるものである。1は石核の周縁部に粗い調整を加えて刃部とした削器である。3は剥片剥離痕の打面部に剥離痕側から調整を施し、刃部とした削器である。また、隣接した側縁にも細かい調整が施されており、刃部として使用されたと思われる。2も隣接す



第22図 彫器・石錐実測図



第11表 削器・搔器出土分布表

る2辺を刃部とする。どちらも急角度で調整が施されているので搔器と考えられるが、石錐の可能性も否定できない。1~3の調整はすべて片面からの調整である。

4・5・7~9・12~16・29は剝片を利用した削器である。体部の1辺に調整を施したもの(4・8・9・29)、相対する2辺に調整を施したもの(5・13・14)、隣接する2辺に調整を施したもの(16)、長側縁と短側縁に調整を施したもの(7・12)、3辺に調整を施したもの(15)がある。素材となつた剝片の種類からみると、横長剝片が最も多く、次いで縦長剝片や不定形剝片があり、翼状剝片を利用したものは今回の調査では出土していない。

4は縦に長い形状を呈する。側縁に片面から調整を施して刃部を形成している。9は横長剝片の端部縁辺に両面から調整を施し刃部としているが、左図左辺の短側縁も鋭いエッジ状を呈しており、これも刃部として用いた可能性がある。29は横長剝片を用いた削器であるが、素材は主要剝離面の打点部に近い部分を加撃して半載されている。また、截断面には縦長剝片を剝離したような痕跡が見られる。

13・14は縦長剝片の両側縁に調整を施しているが、片側縁の調整はつぶれ気味の調整である。13は主要剝離面側から背面に、14は背面側から主要剝離面に調整を施す。

16は内湾する縁辺に両面から調整を施し、刃部とした削器である。調整は主要剝離面側に施されたものの方が細かく丁寧で、背面側の調整は主要剝離面側の調整を補う形で施されている。また、左図右辺にある自然面と主要剝離面とでなす側縁部にも調整を施していることから、外湾したこの側縁も削器の刃部として使用されたものとも考えられる。素材は截断されたように折損しており、その縁辺にも部分的に調整が施されている。

7・12は体部の長側縁と短側縁に調整が施されている。7の短側縁に施された調整はつぶれ気味の細かな調整であり、刃部として考えられるのは長側縁の方であろう。12は長側縁と短側縁の交点にあたる角の部分にも丁寧な調整が加えられている。

15は一応、3辺に調整が施されているが、下辺の刃部は粗雑な階段状剝離の調整で刃部としては適さない。刃部として考えられるのは、上辺の半分と抉りの部分のみである。

10・11は搔器と考えられるものである。どちらも刃部以外の側縁は折損している。今回の調査では10のように両側縁を折損して三角形状を呈する搔器が多数出土している。調整は両面から施したものがほとんどで、片面のみ調整したものは2点しかなかった。11の調整は両面から施されているが、よく観察すると表裏で調整部位が微妙にずれていて、刃部を正面から見るとあたかも交互に剝離したように波形状を呈する。また、左図左上辺の内湾した縁辺はエッジ状を呈することから、この辺も刃部として使用されたことが考えられる。11は風化があまり進行していないので、旧石器には属さない可能性が高い。

17・18は不整円形または不整梢円形の体部を持ち、体部のほぼ全周にわたって調整を施された小形の搔器と考えられる。17は両面から調整が施されているが、階段状剝離気味であることから、あるいは截断面ある石器または楔状石器の素材として捉えるべきかもしれない。

19は半円形の体部のほぼ全周にわたって片面から調整を施されたもので、搔器と考えられる。上辺の截断されたような面がどの段階で形成されたものか決定できないが、器形を整えるためと考えられる調整が施されている。

6は分厚い器体の長側縁に両面から細かい調整を丁寧に施しているが、階段状剝離であり、削器の刃部としては若干無理がある。調整を器形を整えるための加工とみなせば、両面加工の石器として考えられるものである。

20は横長剝片石核の剥片剝離痕の打面部に両面から細かい調整が施されているので石核転用の削器として考えた。しかし、調整が階段状剝離であり、つぶれたような痕跡も認められることから、石斧のような機能を持つものとして使用された可能性も否定できない。

21は長側縁と短側縁に抉り状の調整を施したものである。抉りの周囲にも細かい調整が見られる。一応、削器として扱ったが、刃部の形態や器形から判断すると石錐と考えるべきかもしれない。

22～28は縁辺に使用痕らしき微小な剝離痕が認められる剝片である。22は翼状剝片の底面末端部分に使用痕らしきものが見られる。23は横長剝片のエッジ部及び側縁部に多数の使用痕が認められる。打面部には主要剝離面側及び背面側の両面から調整が施されているのでナイフ形石器と考えられる。刃部の基部よりの部分にも主要剝離面側から調整が施されている。24は翼状剝片のエッジ部に、25・27は横長剝片のエッジ部に使用痕が見られる。26は2側縁、28は1側縁に使用痕が認められる横長剝片である。

使用痕らしき微小な剝離痕を持つ剝片は少なくないが、23～25のように多数の使用痕を持つものは極めて少ない。

7. 楔状石器（第26・27図）

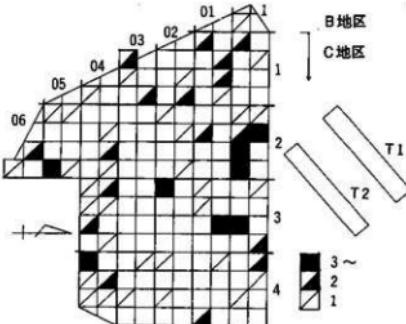
96点の楔状石器が出土した。うち26点を図示した。

楔状石器は周縁のいすれかに階段状剝離が施されているため、削器と区別することが困難なものも少なくない。すべてサヌカイト製である。

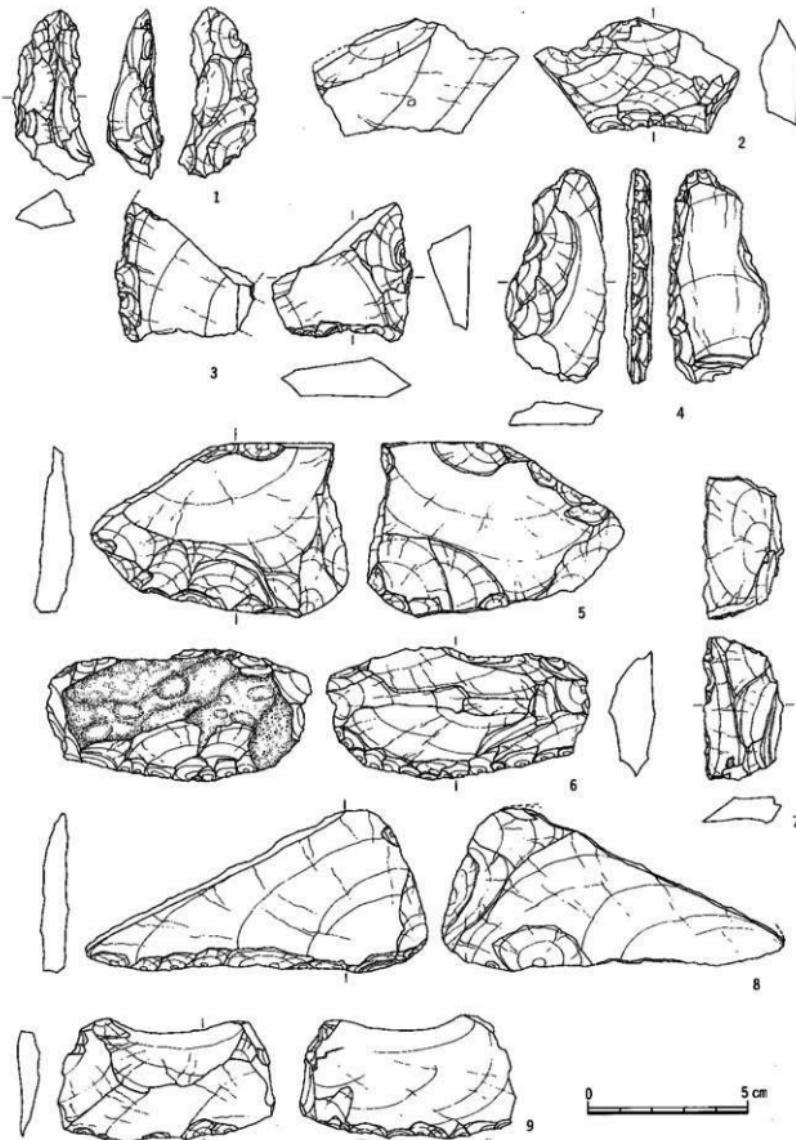
第26図1～10・12は1辺にのみ切断面を持つものである。三角形を呈する10以外は四角形を呈するものがほとんどである。上下両縁に階段状剝離の著しい調整が施されている。

11・13・25は三角形を呈するものである。11・13は1辺に調整が見られ、一方は切断面であるが、もう一方は切断面とは思われない。25は2辺に調整が見られる。

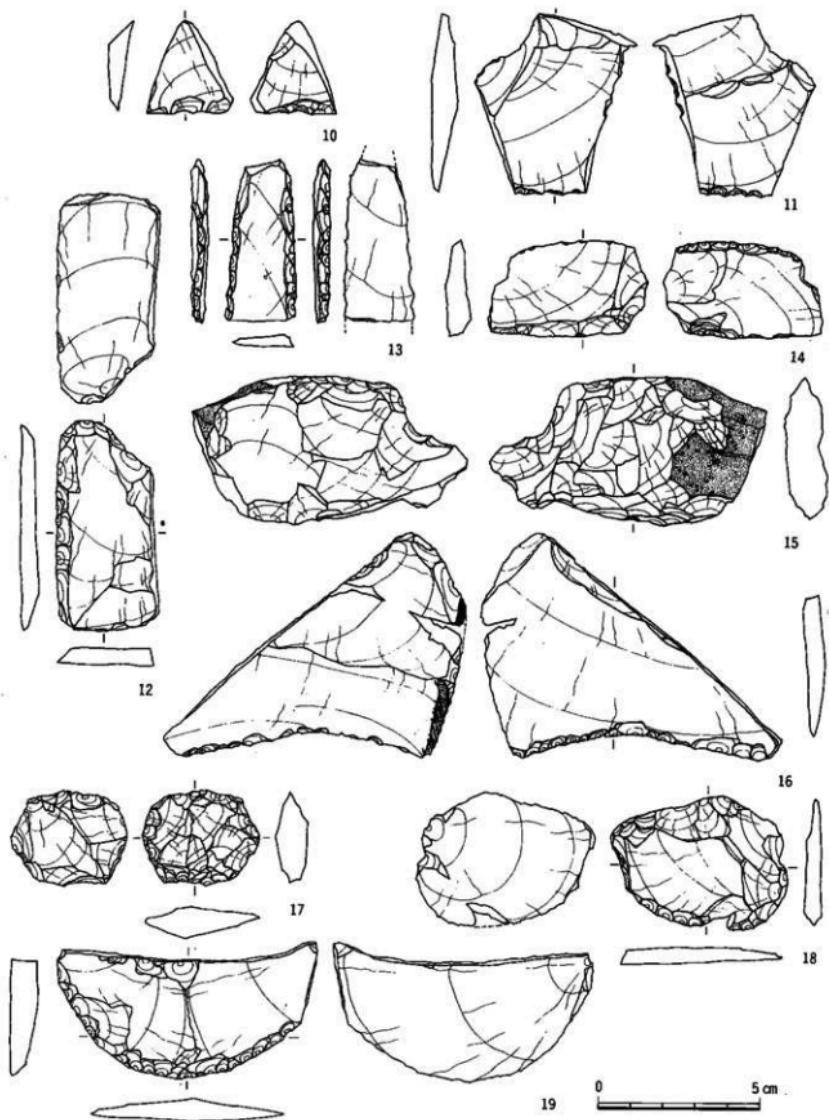
14～24・26は切断面を持たないものである。14～16・18～24は長方形あるいは台形をなすもので、切断面は見られないが断口面を持つ。17・26は切断面も断口面も見られず、素材とも考えられる。



第12表 楔状石器出土分布表

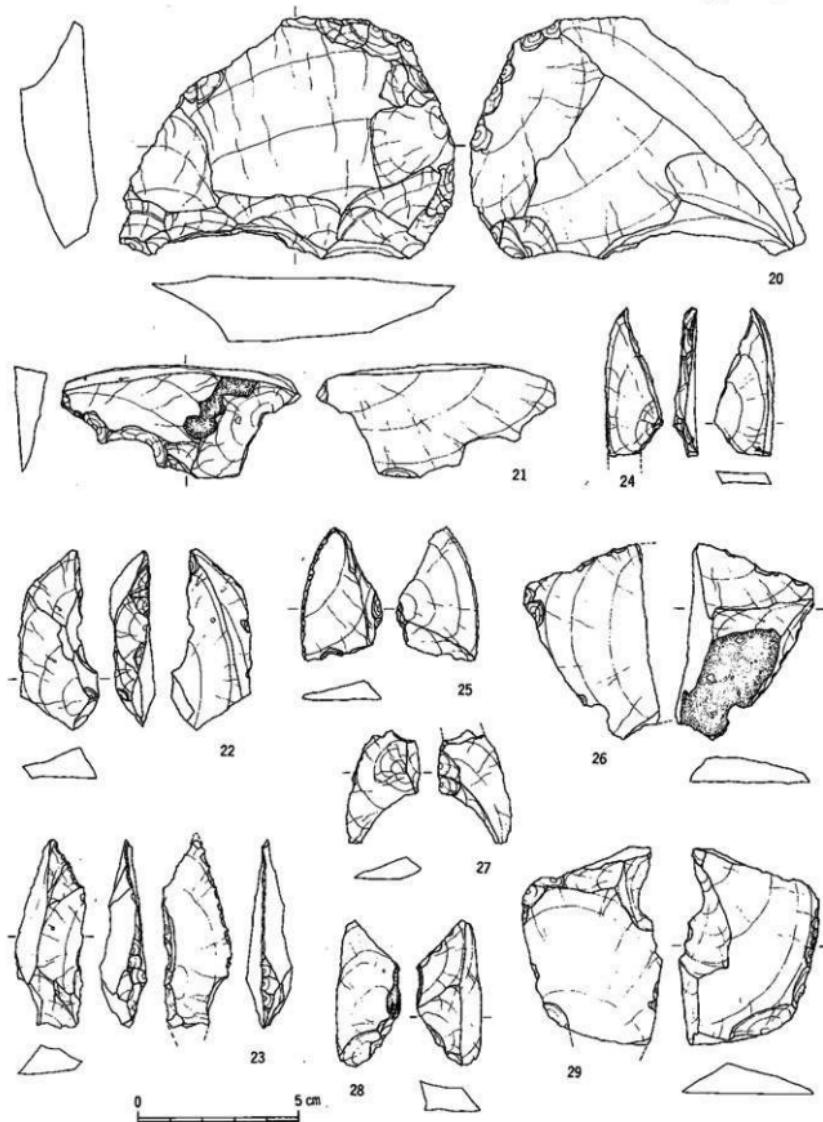


第23図 刃器・錐器実測図 (1)

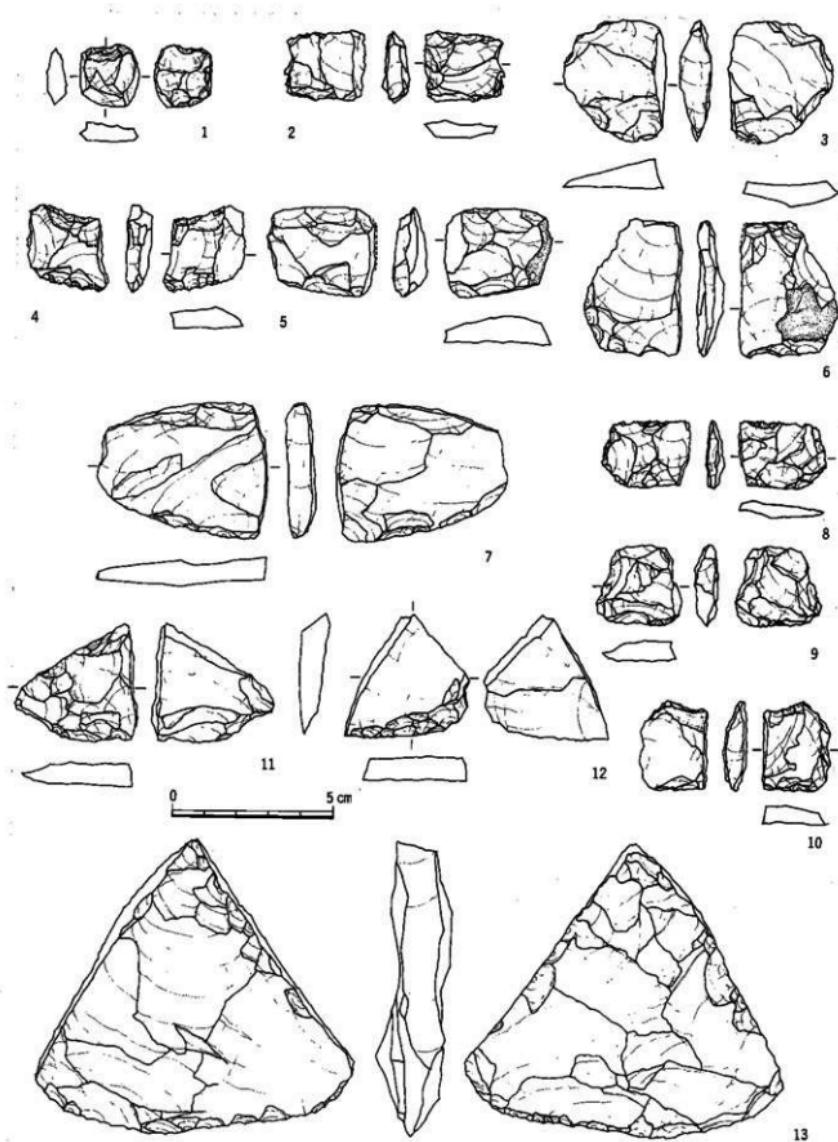


第 24 図 削器・搔器実測図 (2)

遺物

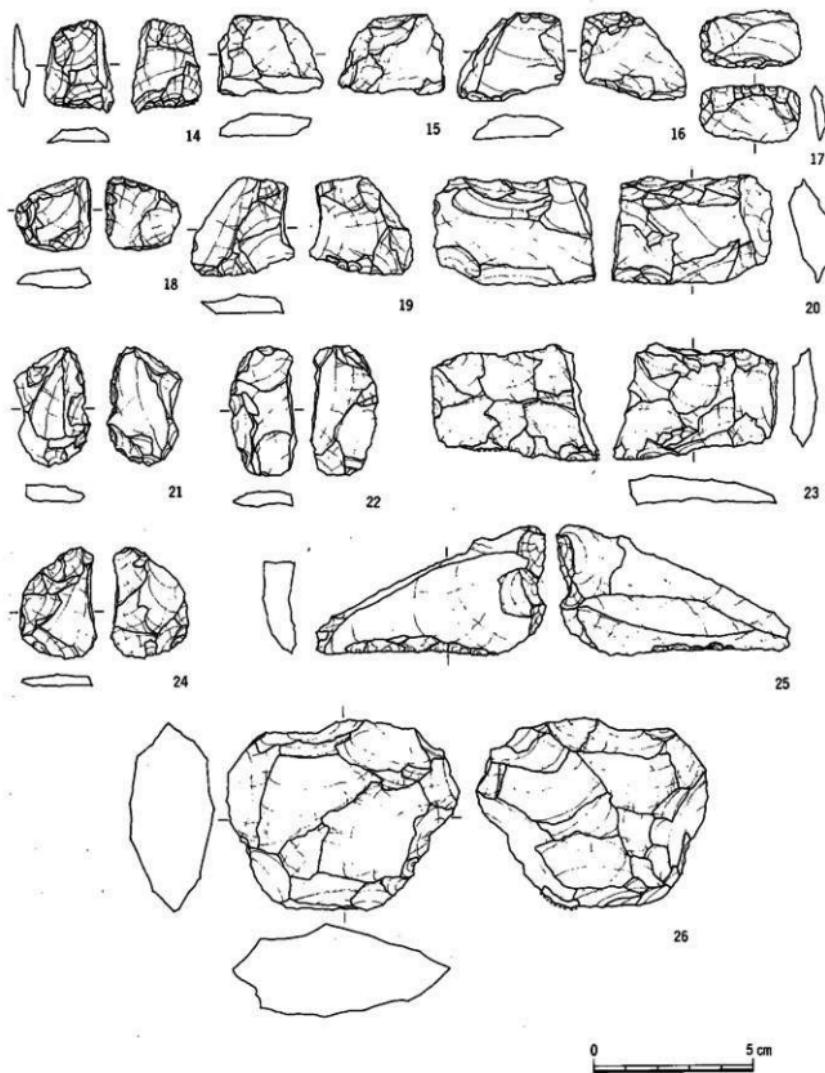


第24図 削器・搔器・使用痕ある剥片実測図 (3)

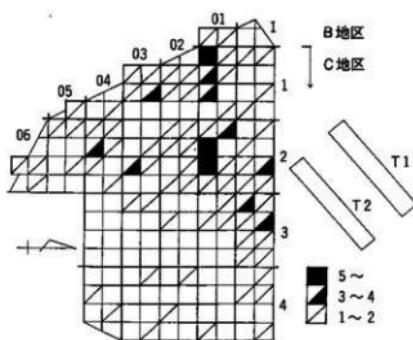


第 26 図 横状石器実測図 (1)

遺物



第 27 図 模状石器実測図 (2)



第13表 二次調整ある剝片出土分布表

らも加撃方向は单一である。削器か。5の石核作業面にはつぶれ気味の調整痕が複数認められる。

4は横長剝片のエッジ部に背面側から調整を施す。削器であろう。

6は横長剝片の背面側打面部に複数の調整痕が見られるが、主要剝離面を切るようにつぶれ痕があり、打点部をとばされているので調整が主要剝離以前に施されたものかどうかは判断し難い。

7は横長剝片の側縁部に調整が施されているが、打点が残らないので主要剝離面を剝離する以前になされたものと思われる。

8は扁平な横長剝片のエッジ部に両面から細かい調整を丁寧に施す。小形の円形搔器と考えられる。

9は不定形剝片の縁辺に主要剝離面側から調整を施す。調整を施された部分は鋭いエッジ状を呈する。

10は縦長剝片の一側縁に主要剝離面側から調整を施す。削器かナイフ形石器の可能性もある。

11は横長剝片と考えられる剝片を截断したようなものを素材とする。両側縁には側面から調整が施されている。加撃方向は錯行する。右図先端あるいは基部を彫刀面とする彫器である可能性が高い。

9. 横長剝片石核（第29～32図）

ここでいう横長剝片石核とは、翼状剝片を含めた広い意味での横長剝片を剝離した石核のことである。今回の調査によって79点が出土した。すべてサヌカイト製である。横長剝片石核には、二次調整を施して削器・搔器として転用したものが少なくない。削器・搔器および二次調整ある剝片の項で紹介しているので参考願いたい。

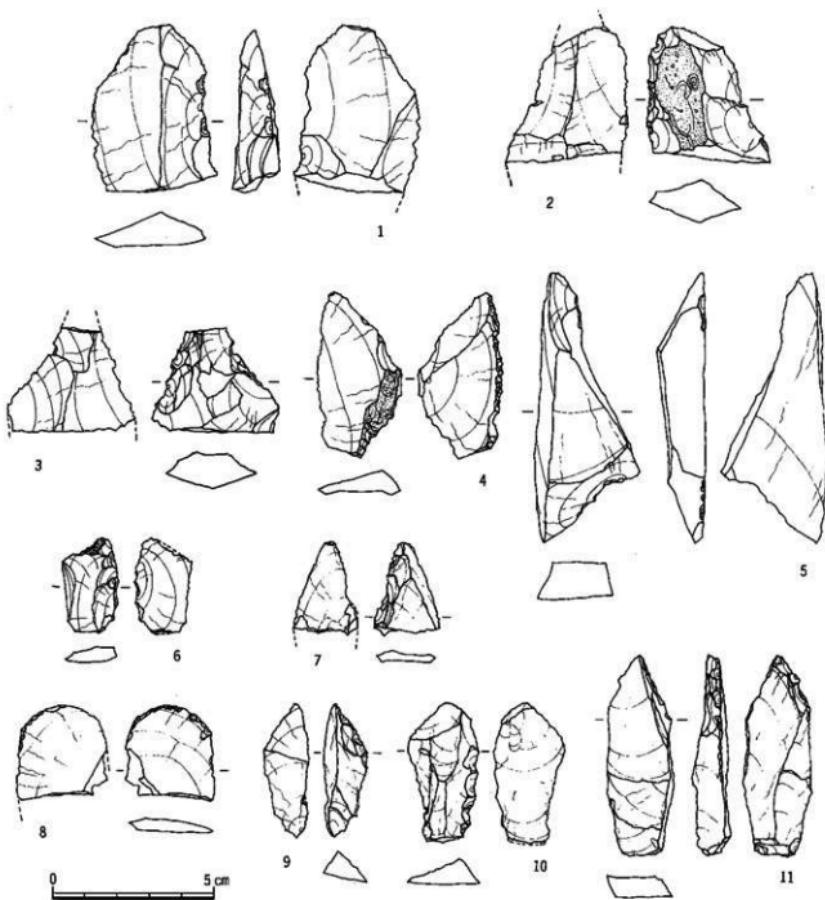
第29図1～9は翼状剝片石核と考えられるものである。典型的なものは、底面を下にして石核作業面を正面から見て、上面に山形の打面調整を施し、底面は1面のポジティブな剝離面からなり、盤状剝片の打点側から連続して石核の幅に相当する翼状剝片を剝離している（2・4～8）が、底面が2面からなるもの（1）や盤状剝片を剝離した打撃に対して60°～70°の方向か

8. 二次調整ある剝片（第28図）

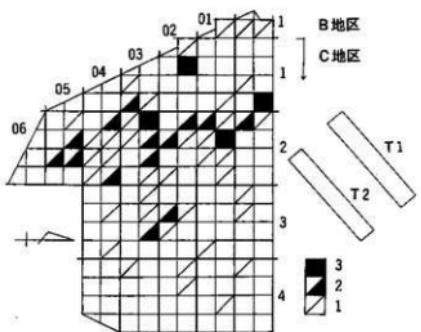
ここで取り扱う石器は、石器自体に細かな剝離痕が認められるものと、他の器種に含める上でやや無理があるものである。石器に残る微細な剝離痕は、調整痕か使用痕か、もしくはローリング等の意図的ではない剝離痕のいずれかという判別が困難なものも多い。そこで、二次調整ある剝片ということで一括し、記述することとした。

第28図1～3・5は横長剝片石核の碎片と考えられるものに二次調整を施した例である。2・3は石核の作業面とは反対側の縁辺に調整を施したもので、どちらも加撃方向は单一である。削器か。5の石核作業面にはつぶれ気味の調整痕が複数認められる。

- 4は横長剝片のエッジ部に背面側から調整を施す。削器であろう。
- 6は横長剝片の背面側打面部に複数の調整痕が見られるが、主要剝離面を切るようにつぶれ痕があり、打点部をとばされているので調整が主要剝離以前に施されたものかどうかは判断し難い。
- 7は横長剝片の側縁部に調整が施されているが、打点が残らないので主要剝離面を剝離する以前になされたものと思われる。
- 8は扁平な横長剝片のエッジ部に両面から細かい調整を丁寧に施す。小形の円形搔器と考えられる。
- 9は不定形剝片の縁辺に主要剝離面側から調整を施す。調整を施された部分は鋭いエッジ状を呈する。
- 10は縦長剝片の一側縁に主要剝離面側から調整を施す。削器かナイフ形石器の可能性もある。
- 11は横長剝片と考えられる剝片を截断したようなものを素材とする。両側縁には側面から調整が施されている。加撃方向は錯行する。右図先端あるいは基部を彫刀面とする彫器である可能性が高い。



第 28 図 二次調整ある剝片実測図



第 14 表 横長剝片石核出土分布表

いのが交互剝離石核で、一側縁の表裏から横長剝片を剥離したもの（11・13・17・21・22・26）や両側縁の表裏から横長剝片を剥離したもの（10・12・15）のほか、一側縁の表裏から目的剝片を剥離すると同時に、他の側縁からも横長剝片を剥離したもの（14・27）などがある。また、底面を共有するかたちで両側縁から横長剝片を剥離したもの（16・19・20）や両側縁から錯行するように加擊して横長剝片を剥離したもの（18・23）もあり、横長剝片の剥離方法はさまざまな様相を呈する。

24・25は無調整の平坦な打面を加擊して横長剝片を剥離したものである。

28・29は最終作業面と考えられる面以外にも複数の剝離痕を持つが、目的剝片の剝離痕であるか否かは断定できないものである。28は左上図、29は左図右側が横長剝片の剝離痕と考えられる。29は加擊の力が石核の末端まで伝わらず蝶番剝離している。さらに、剝離痕から想定される横長剝片は打面が山形を呈し、背面側からの調整を持つので、翼状剝片石核から剥離された翼状剝片との区別はし難い。また、このような横長剝片を素材として用いれば、形態的には国府型ナイフ形石器とそっくりなナイフ形石器を作成することも可能である。10・11・12の石核から剥離された横長剝片も大きい剝離面からなる打面調整を有する石核から剥離された翼状剝片に誤認される可能性もあると考えられる。特に12は両側縁から底面を共有して翼状剝片を剥離した石核の底面が消失した段階のものと見ることもできる。

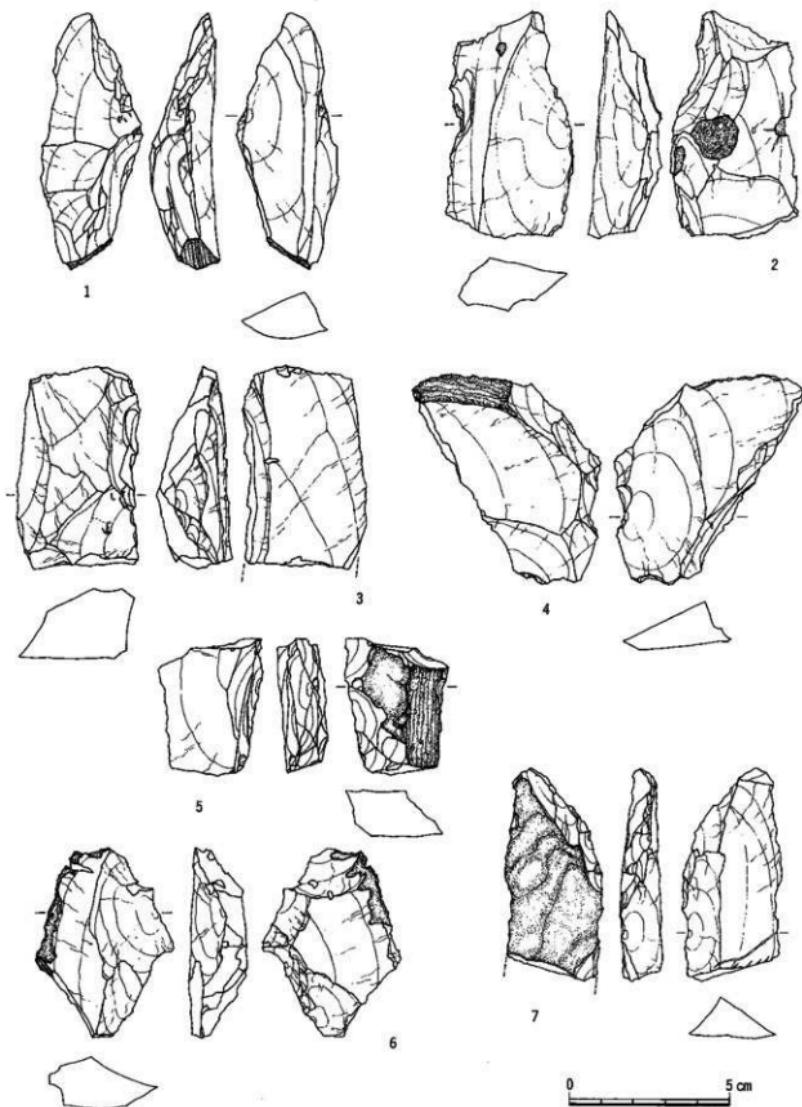
『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 I 羽佐島遺跡（I）』で渡部明夫氏が述べているように、翼状剝片石核と交互剝離石核との区別は明確にし難いが、石核の石理を観察することによってある程度の区別は可能になると思われる。

図示した石核のうち、石理を観察できたものが19点あった（1～7・11～17・21～24・27）。翼状剝片石核として扱った9点をみると、6のみが底面と平行して石理を用いているが、不明のもの2点を除く他のものは作業面と平行して石理を用いている。これに対して、交互剝離石核として扱った11点をみると、作業面転移が認められない一側縁交互剝離石核の8点（11・13・14・17・21・26・27）のうち、17のみが作業面と平行して石理を用いているが、不明の26を除く他の6点は底面と平行して石理を用いている。また、作業面転移が認められる二側縁交互剝離石核の3点（10・12・15）のうち、不明の10を除く2点ともすべての作業面に対して共通す

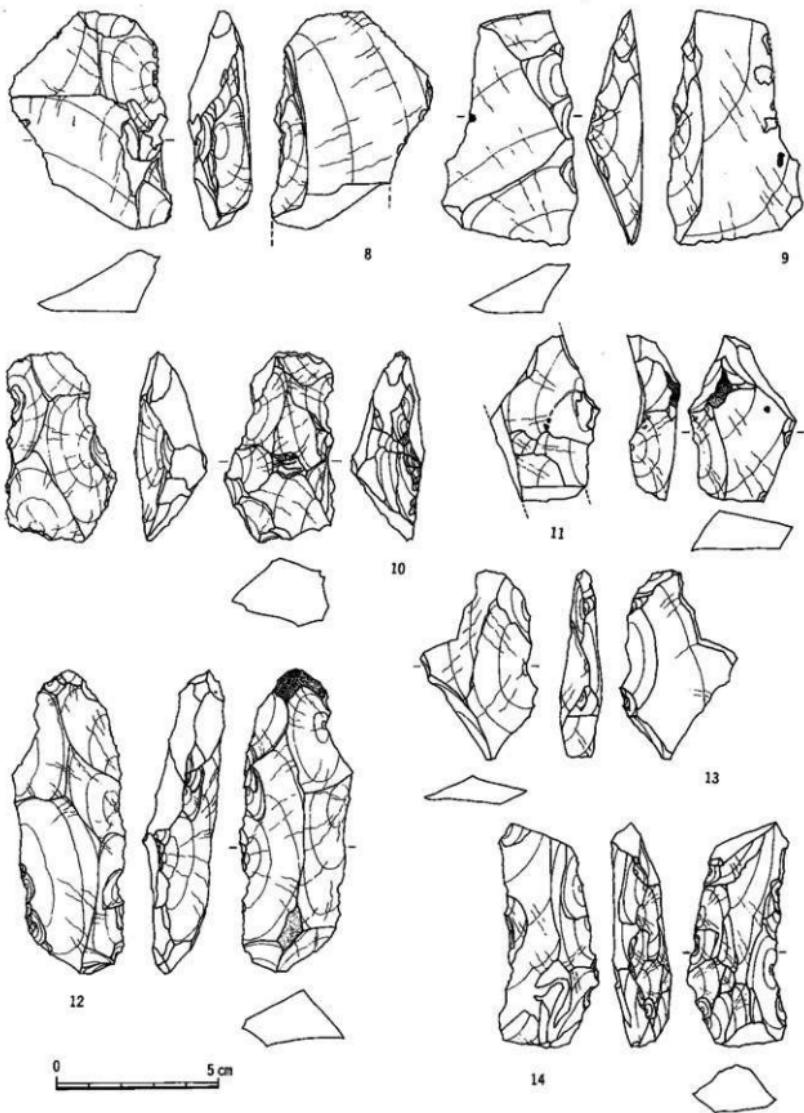
ら翼状剝片を剥離するもの（1・3・9）もある。7の打面は左右に調整を施しているが、打点部は自然面のままである。8の右図右上の剝離痕は横長剝片の剝離痕と考えることもできるが、打面調整の可能性も否定できない。

出土した翼状剝片石核を観察した結果、稜上を加擊して剝片を剥離したものは1点（5）のみで、他のものは稜をわずかにずれた打面調整面を加擊している。6はその顕著な例として考えられるものであろう。

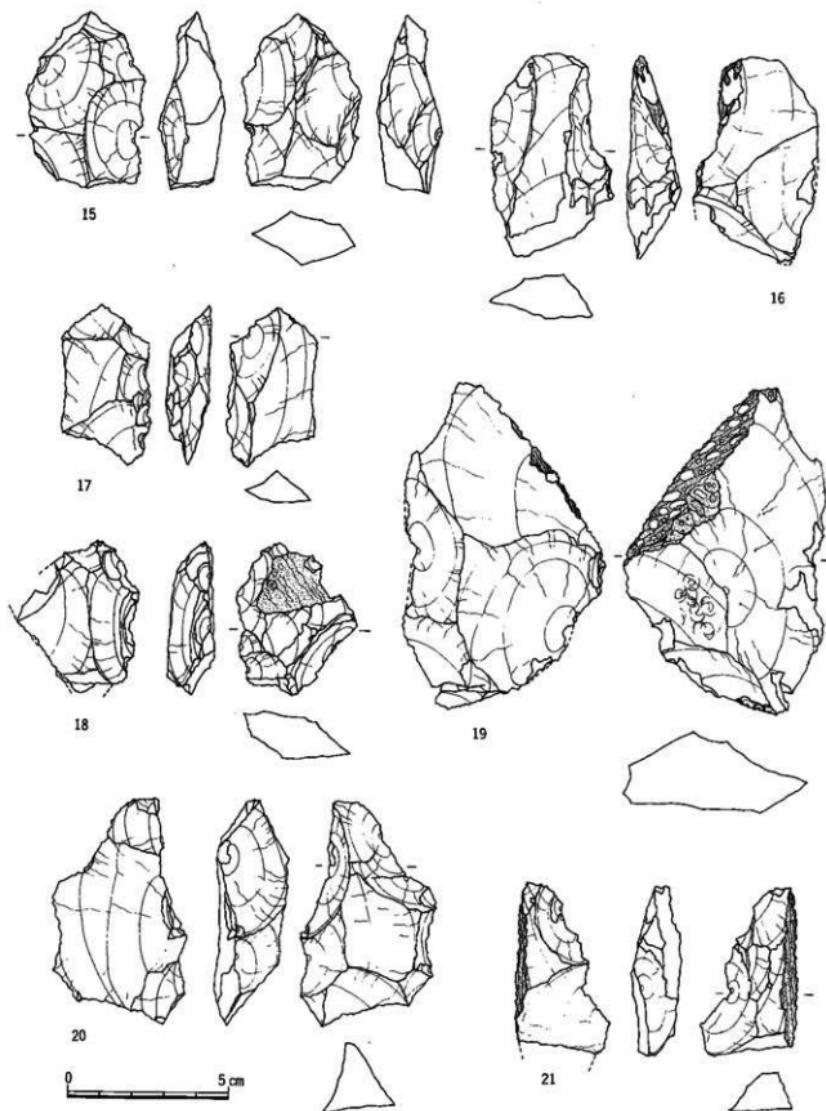
10～29は横長剝片石核と考えられるものである。横長剝片石核のなかで最も多



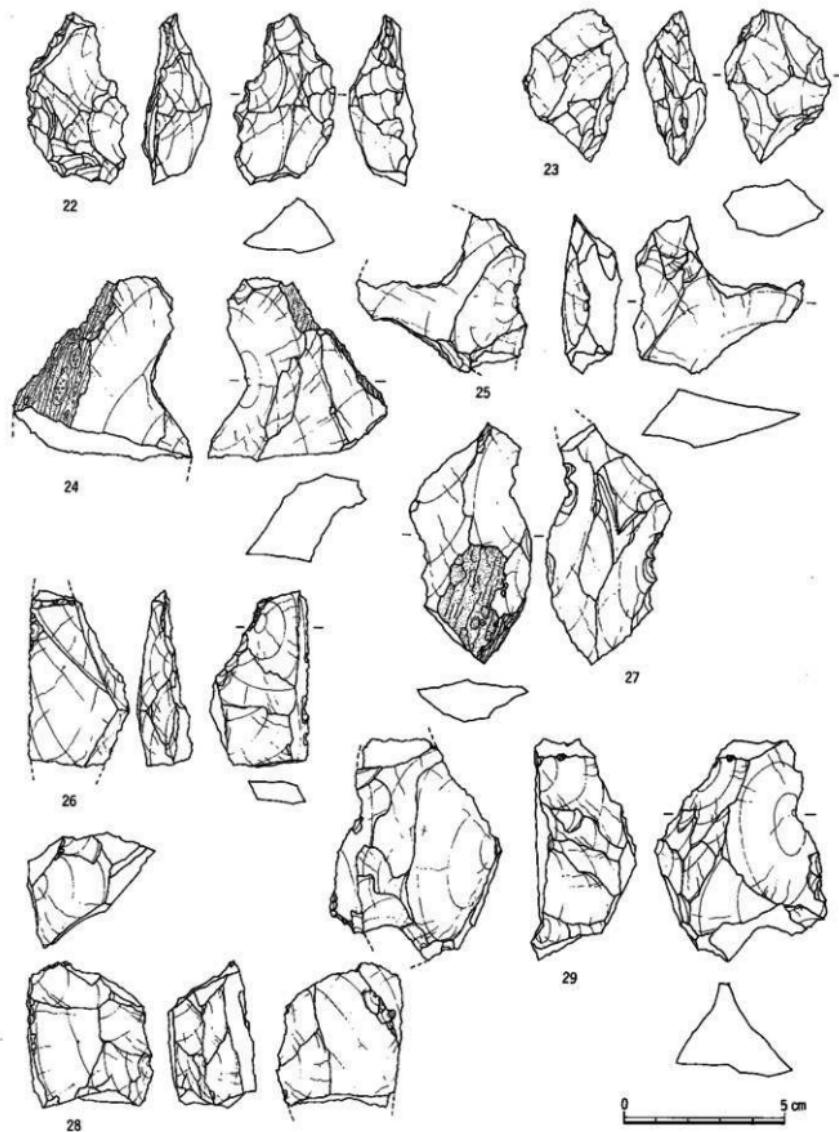
第 29 図 横長剥片石核実測図 (1)



第30図 横長剥片石核実測図 (2)



第 31 図 横長剥片石核実測図 (3)



第 32 図 横長剥片石核実測図 (4)

るよう石理を用いたとは言えず、一方の作業面では底面と平行して、他方の作業面では作業面と平行して石理が走っている。作業面転移の有無によって若干の差異はあるものの、交互剝離石核として一括して扱った場合、底面と平行して石理を用いたものと作業面と平行して石理を用いたものの比は6:1となり、同様の比が1:6を示す翼状剝片石核の場合とは明確に異なる石理の用い方をしていると言えよう。

この観察結果は、松藤和人氏による二上山北麓遺跡群中、鶴峯荘第1地点から出土した翼状剝片石核における石理の観察結果及び藤好史郎氏による大浦遺跡出土の横長剝片石核における石理の観察結果と共通するものである。

石器を製作した古代人が、目的剝片の種類によって石理を意図的に使い分けたものか否かは推測の域を脱しないが、現存する遺物の観察からは興味深い傾向が認められた。

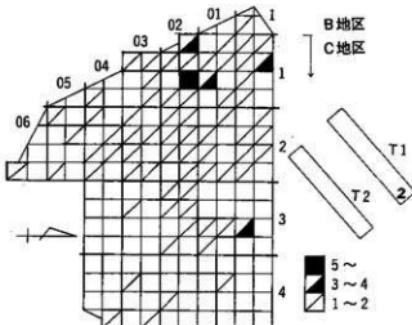
10. 翼状剝片（第34・35図）

ここでいう翼状剝片と次の項で述べる横長剝片（第36～38図）との最大の相違点は、底面を下にして剝片を背面から見た場合、翼状剝片には上部を山形に整形するための意図的な打面調整が背面側から施されていることである。

出土総数は104点である。流紋岩製のものが1点（27）出土したほかはすべてサヌカイト製である。翼状剝片を出土しなかったグリッドはほとんどなく、C02-1・cnで5点出土したのを最高にC02-1・anで4点、C1-1・bn、C01-1・bn、cs、C1-3・csで各3点と、尾根筋丘陵部付近のB1、B01、C1～C03-

1・2の範囲に集中する傾向が見られ70点が出土しているが、これは全体の67%に当たる。出土遺物総点数に占める同範囲での遺物の集中が51%であると比較して、かなり高い集中率を示すと考えて良いだろう。

第34図1～6・8・9は背面に目的剝片剝離痕と底面を各1面ずつ持つ翼状剝片である。1・5の背面上には複数のネガティブな剝離面が見られるが、1の右図上側2面の剝離痕はその大きさからして目的剝片を剝取したものとは考えられず、本来の目的剝片の剝離が大きく歪んで及んだために、次の剝離によって得られる剝片の末端部分が分厚くなるのを整形する意図を持って、石核段階で調整を施した剝片調整痕と考えた方が適切と思われる。背面打面側にある剝離痕も同様の調整痕か。5の背面上の新しい剝離痕も主要剝離面剝離後に施された調整と見られるので、本来の目的剝片の剝離痕は1面として扱った。4の背面側打面縁辺には細かい調整が多数施されているが、これも1と同様に剝片の歪みを整形するために施された剝片調整痕と考えられる。また、底面下半部を折損しているが、その折損面を加熱して主要剝離面に調整を施す。8の打面部は半分は自然面をそのまま用いて、半分のみに打面調整を施して山形に整形したものと考えられる。



第15表 翼状剝片出土分布表

10・11は背面に1面の目的剝片剝離痕と複数の底面を持つ翼状剝片で、これらの剝片を用いてナイフ形石器を製作したならばCタイプの国府型ナイフ形石器となる。

12~19は背面に複数の目的剝片剝離痕と1面の底面を持つ翼状剝片である。この種の翼状剝片を用いればDタイプの国府型ナイフ形石器を製作できるだろう。19の背面側打面縁辺には4と同様な調整痕が複数認められる。

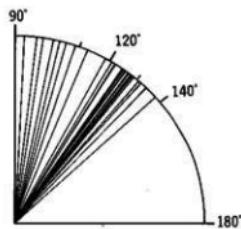
20は背面に複数の目的剝片剝離痕と複数の底面を持つ翼状剝片である。背面側打面縁辺には階段状剝離気味に調整が施されている。

7・21~26は断面が三角形状を呈する翼状剝片である。7・21には底面が痕跡程度に残っているが、他のものは底面を有しない。主要剝離面を剝離する際の加撃角度が深すぎたり、石理の影響や剝離ミス等によって剝離が底面まで達しきらずに、背面側へ蝶番剝離気味に剝離したものと考えられる。主要剝離面を加撃した際の力が一番大きく及んだと考えられる打面と主要剝離面のエッジ部とでなす剝離角度を計測すると、93°~109°の範囲に集中しており、他のタイプの翼状剝片が113°~138°の範囲におさまり、なかでも120°~130°に集中するとの比べて(第33図)剝離角度が小さく、剝離が急角度で及んでいることが分る。21の場合、ネガティブな剝離が異常なほど主要剝離面側へ及んでいるため、主要剝離面の蝶番剝離が他のものに比べて比較的軽くても底面が残らない結果となっている。26の背面側打面縁辺には細かい調整痕が見られる。前述した剝片調整痕か。

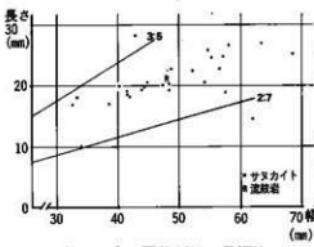
断面が三角形状を呈するナイフ形石器(J・Kタイプ)は今回の調査でも少なからず出土しているが、それらはすべて底面を持ち、ネガティブな剝離面が二次調整によってとばされてしまった結果断面が三角形状になったものであり、翼状剝片で見られるような底面を持たないタイプの断面が三角形状のナイフ形石器は今回の調査では出土していない。

27は流紋岩製の翼状剝片と考えられるもので、剝片剝離工程の比較的初期に剝離されたものと考えられる。

翼状剝片のなかには、打点部あるいは打面部の一部に主要剝離面側から1~数回の打撃を施したもの(2・4・8・17・19)があり、これをナイフ形石器へのプランティングと考えるならば、松藤氏分類による形態Dの翼状剝片の打面側に部分加工を施したナイフ形石器として捉えることもできよう。



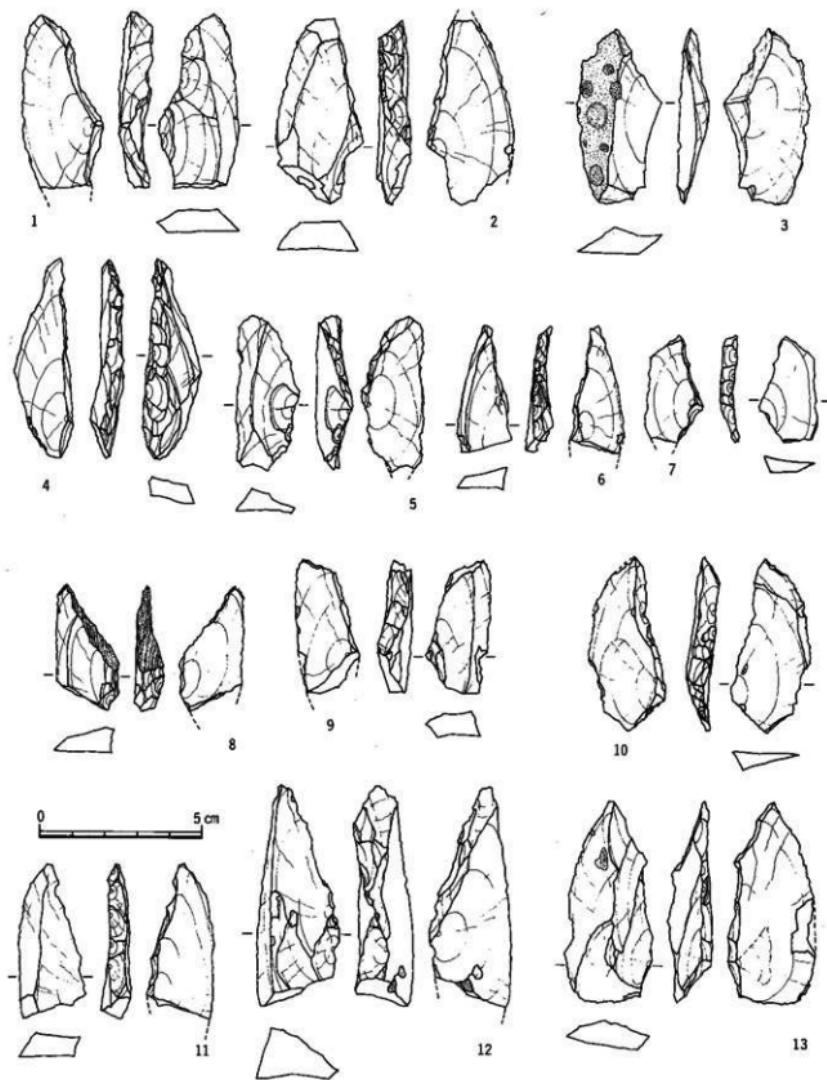
第33図 翼状剝片剝離角度分布図



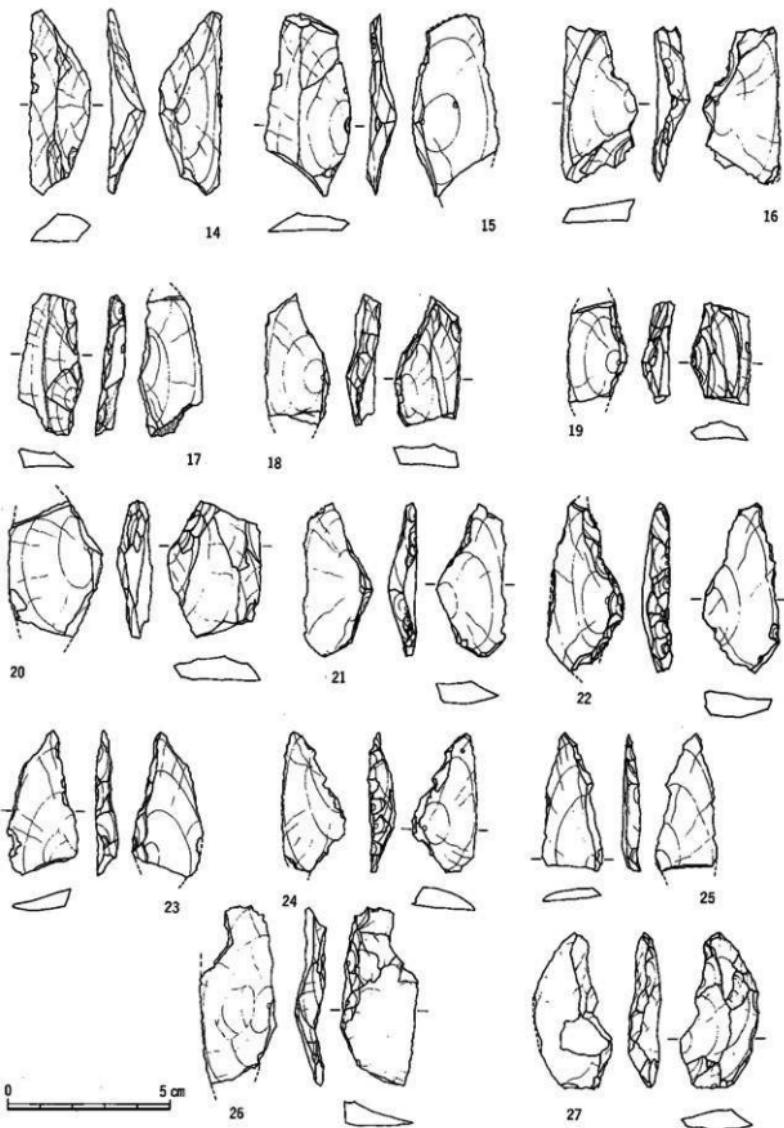
第16表 翼状剝片の長幅比

図示した翼状剝片の打面調整には、粗く大きな調整を施したもの(1・3・14・15・21)があるが、これらは打面調整の粗い翼状剝片石核から剝離された翼状剝片であると考えられると同時に、石核の両面から横長剝片を剥取する交互剝離石核から剝離された横長剝片である可能性も否定できない。図示した翼状剝片の長さは1.5~2.8cm、幅は3~7cmの範囲にほぼおさまる。そのなかでも長さ1.8~2.5cm、幅4~6cm程度のものが多く、長幅比は3:5~2:7の範囲に集中している(第16表)。

遺 物



第 34 図 翼状剥片実測図 (1)



第35図 翼状剝片実測図 (2)

11. 横長剝片（第36～38図）

羽佐島遺跡から出土した旧石器時代の遺物のうち、最も多かったのが大小さまざまな横長剝片である。ここでいう横長剝片とは、横長の剝片から翼状剝片を除いたものである。

第36図1は剥離工程における比較的初期の剝片と考えられるものである。左図右下の調整痕を彫刀面とみなせば彫器の可能性もある。

2～8・15・24は背面側から打面調整が施されているので翼状剝片と考えることもできるが、打面が明確な山形になっていなかったり（2～5・7・24）、背面にある複数の目的剝片剥離痕の加撃方向が左右に大きくずれていったり（6・15）、1回の調整剝離面が大きすぎる（8）ことから、交互剝離石核から剥離した横長剝片と考えた方が妥当であろう。5の打面縁辺には細かな調整が施されている。翼状剝片で見られたのと同様の剝片調整痕か。

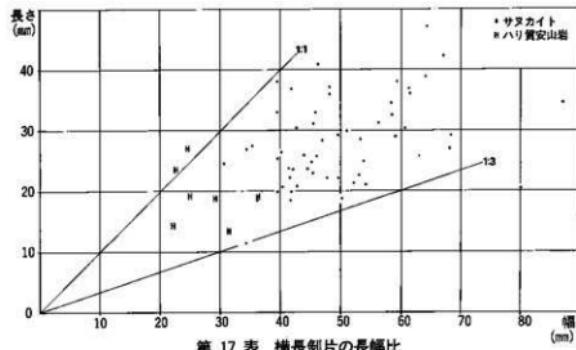
9～11の背面は打点部を持たない平坦かつ大きな剝離面で形成されている。10の打面部及び主要剝離面には複数の調整痕が見られる。

13～15・17・24は打面の稜付近に打点を持つものである。13・15はエッジ部に小数の調整痕を持つ。13は背面側から、15は主要剝離面側からの調整である。24の打面縁辺には剝片調整痕と考えられる調整痕が見られる。

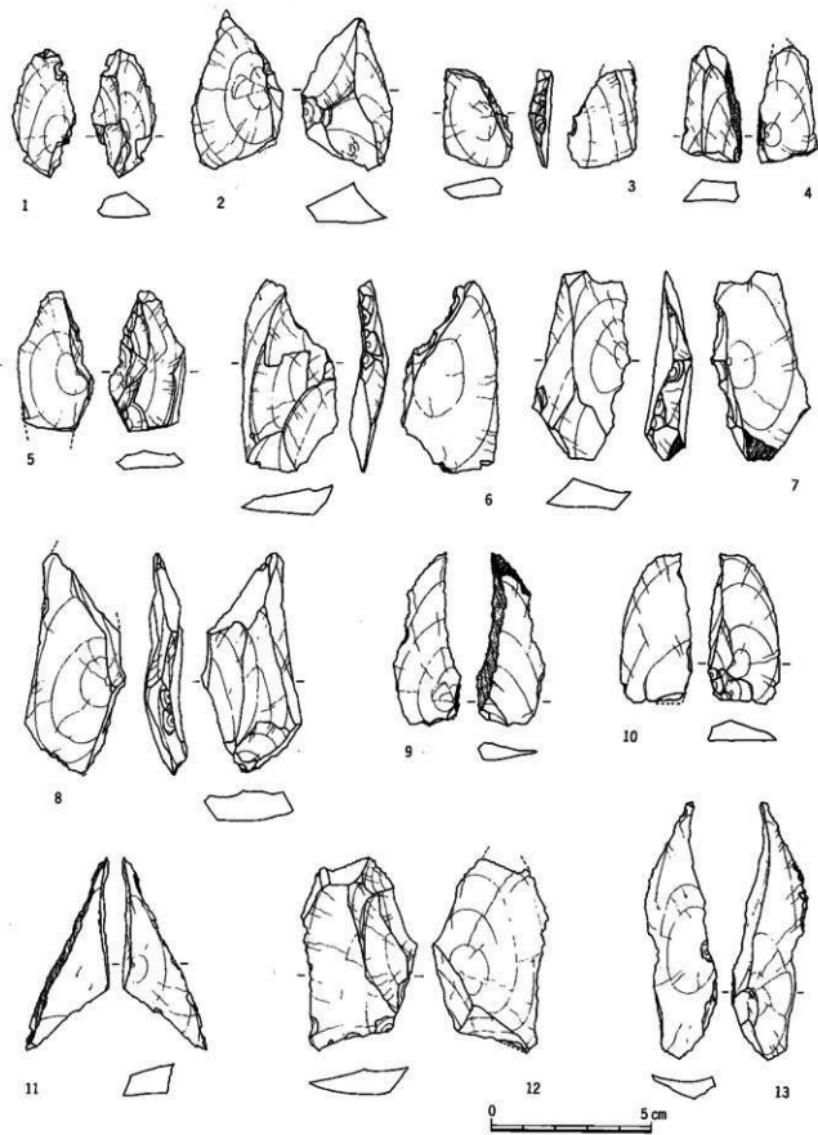
16・18～23・25・26は打面の平坦部に打点を持つものである。19の底面にはつぶれ気味の調整痕が見られる。20・22・23・25・26の打面縁辺には調整が施されている。22以外は主要剝離以前の石核段階で施された剝片調整痕か。

27は自然面を加撃して剥離したものである。打面縁辺には複数の調整痕が見られる。

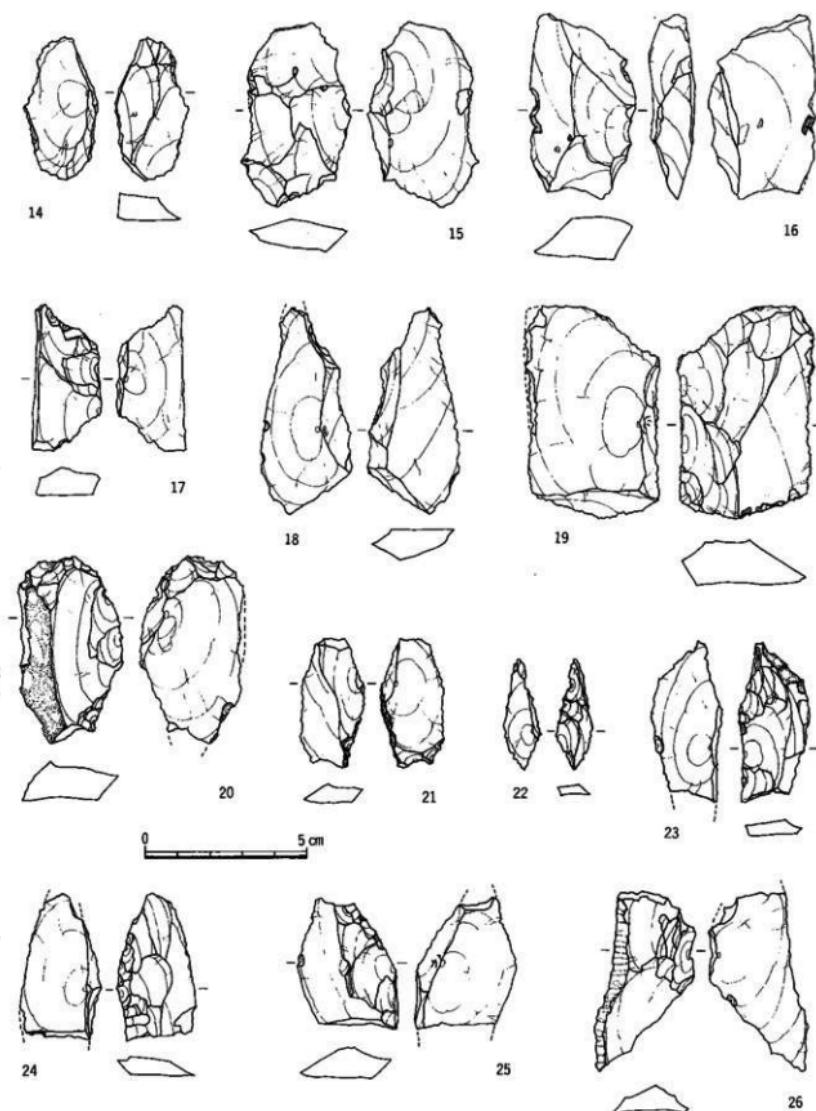
28～33は玻璃質安山岩製の横長剝片である。サヌカイト製のものに比べると全体的に小形である。28のエッジ部の背面には複数の微小な剝離痕が見られる。29・31の背面には自然面が大きく残ることから、ファースト・フレイクと考えられる。29の打面部の背面側には調整痕がある。32は厳密に言えば縦長剝片とすべきかもしれないが、長さと幅の差がほとんどなく、意図的に縦長剝片として剥取されたものとは考えられないで、横長剝片に含めておいた。右図上辺はエッジ状を呈し、使用痕が認められる。33は今回出土した玻璃質安山岩製の横長剝片としては、非常に大形である。背面には縦長の剝離痕が認められるので、縦長剝片石核とみるとこと



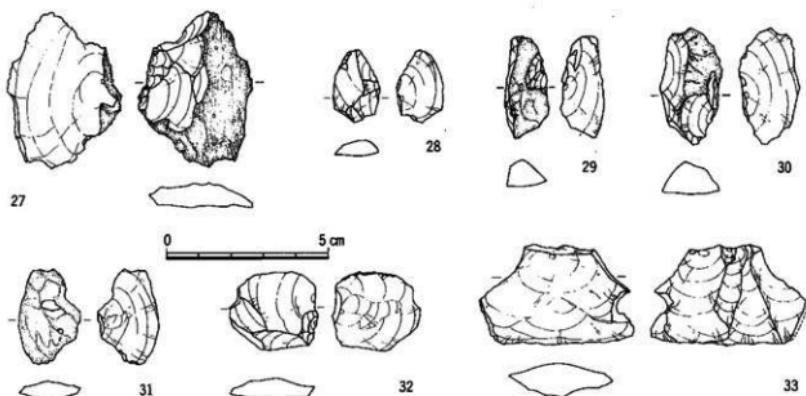
第17表 横長剝片の長幅比



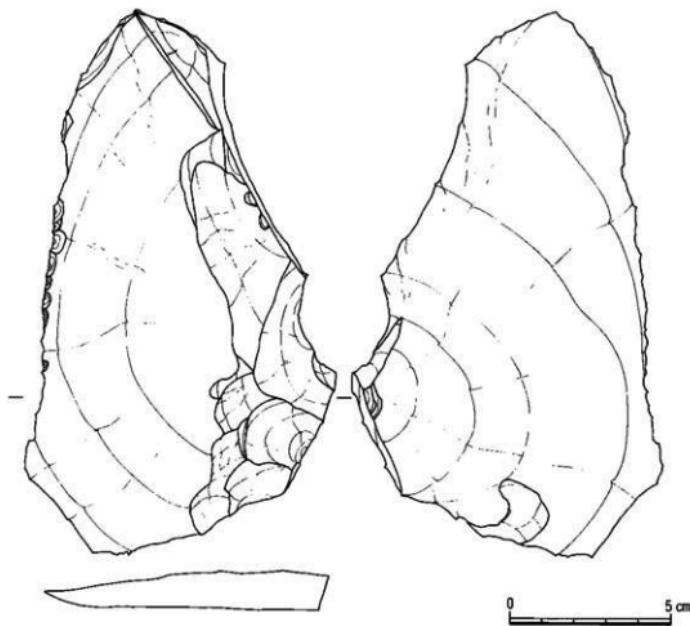
第36図 横長削片実測図(1)



第37図 横長剝片実測図 (2)



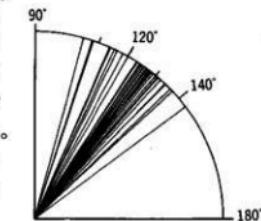
第38図 横長刺片実測図 (3)



第39図 大形刺片実測図

もできるが、今回の調査では細石核を除いて玻璃質安山岩製の石核は1点も出土していない。また、前回の調査において出土した玻璃質安山岩製の横長剥片石核のなかに、縦長の剥離痕を持つものが数点認められることから、33はこうした横長剥片石核から剥離された剥片と考える方が妥当と思われる。

図示した横長剥片の大きさをみると、長さ2~6cm、幅4~6cm程度のものが多い(第17表)。長幅比をみると1:1~1:3の範囲にほぼ納まる。



第40図 横長剥片剥離角度分布図

12. 大形剥片(第39図)

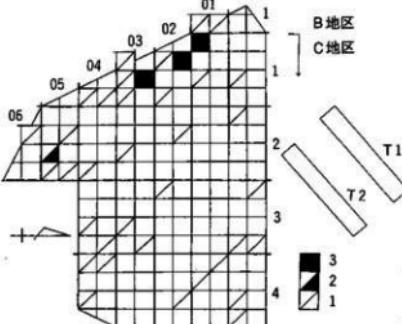
板状を呈する大形の横長剥片である。長さ16.93cm、幅9.3cm、厚さ1.23cm、重さ190gである。C06-2・dnの出土である。著しい風化が見られる。二次調整により打点部が除去されているので、主要剥離面と背面の区別は明確でない。エッジ部には細かい剥離が見られ、削器としての可能性も考えられる。

13. 縦長剥片石核(第41~44図)

縦長剥片剥離痕を残す縦長剥片石核は46点出土している。うち19点を図示した。これらの石核はC01~03-1の西端部に若干集中して出土している。

1~5は板状剥片を素材として用いる。両側面は調整が加えられておらず、かなり平坦な面である。石理に沿った剥離により素材が作製されたと思われる。横口面を作業面とし、剥離面を打面部として打面調整は2を除いてはほとんど施されていない。1・4は上面にも縦長剥片剥離痕がみられ、作業面転移が考えられる。

また、4の作業面には下方からの加撃がなされている。3の上面には打撃痕が認められる。



第18表 縦長剥片石核出土分布表

6~10は柱状を呈する。6・9・10は板状素材の石核と同様なフラットな側面を両側に持つもので、板状素材の石核の剥離作業が進んだために柱状をなすようになったと思われる。

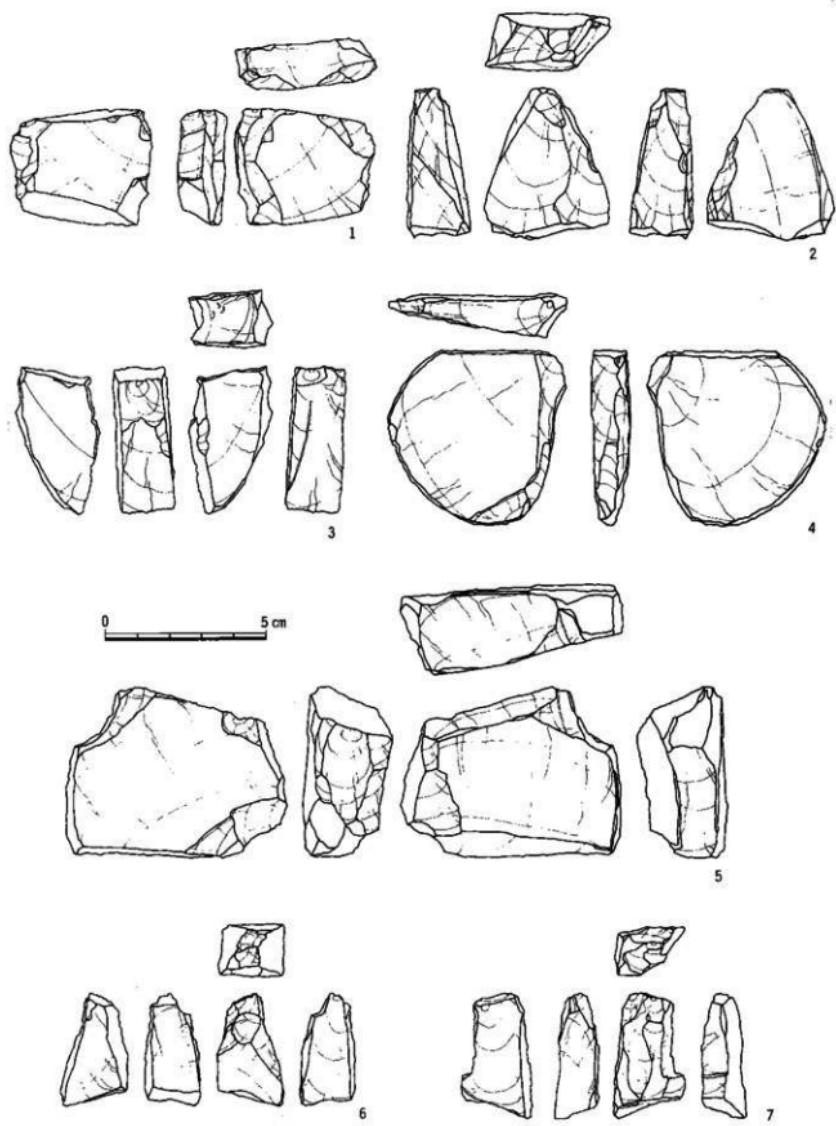
11は正面・後面を作業面とする。側面にも上・下方向からの加撃による剥離痕が見られる。

12~14は大形の縦長剥片の側面を利用している。12・13には若干の打面調整がみられる。14は下方向からの加撃により剥片剥離を行っている。

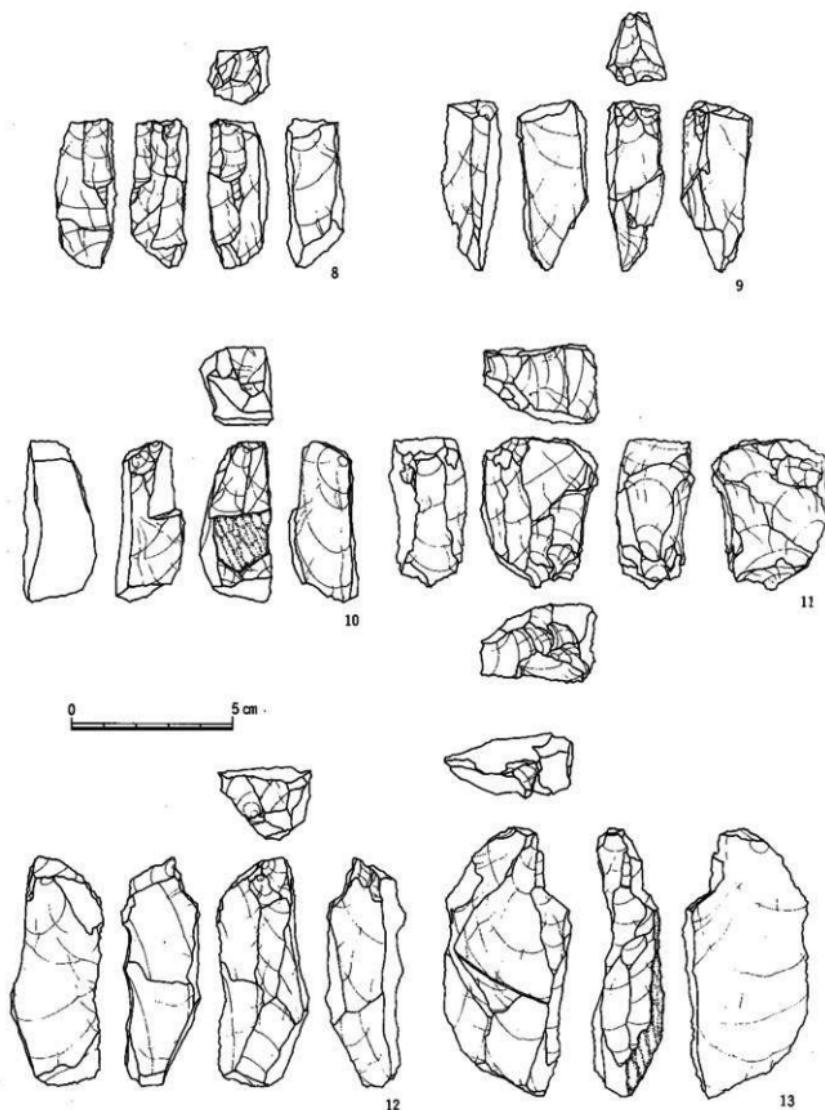
1~13は表面に風化が見られるが、14~17には表面の風化があまり見られない。

15・17は角錐状を呈するもので、15は1側面部、17は2側面部で剥片剥離を行っている。自然面を大きく残すため側辺に自然面のある剥片が剥離されたと思われる。

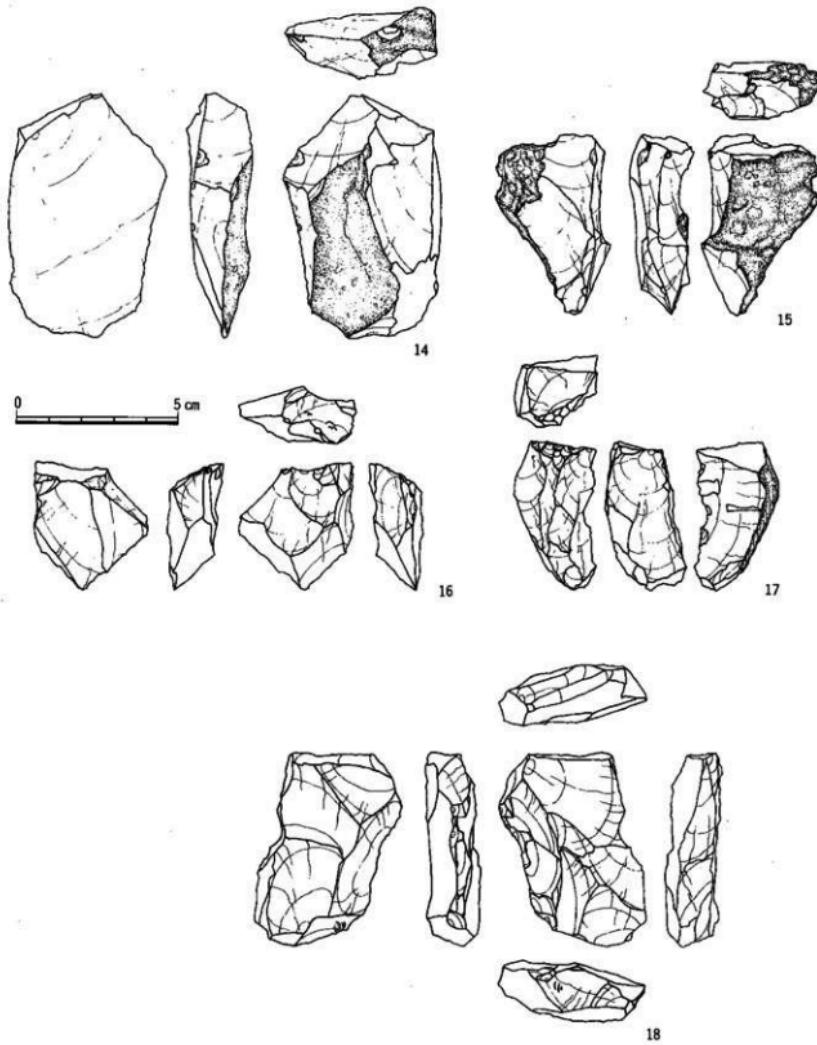
16は長側面部に剥離痕が見られ、上面には打撃痕が認められる。周囲に不定方向からの剥離痕が見られる極めて不安定な石核である。板状を呈する石核がほぼ同一形態の縦長剥片を連続



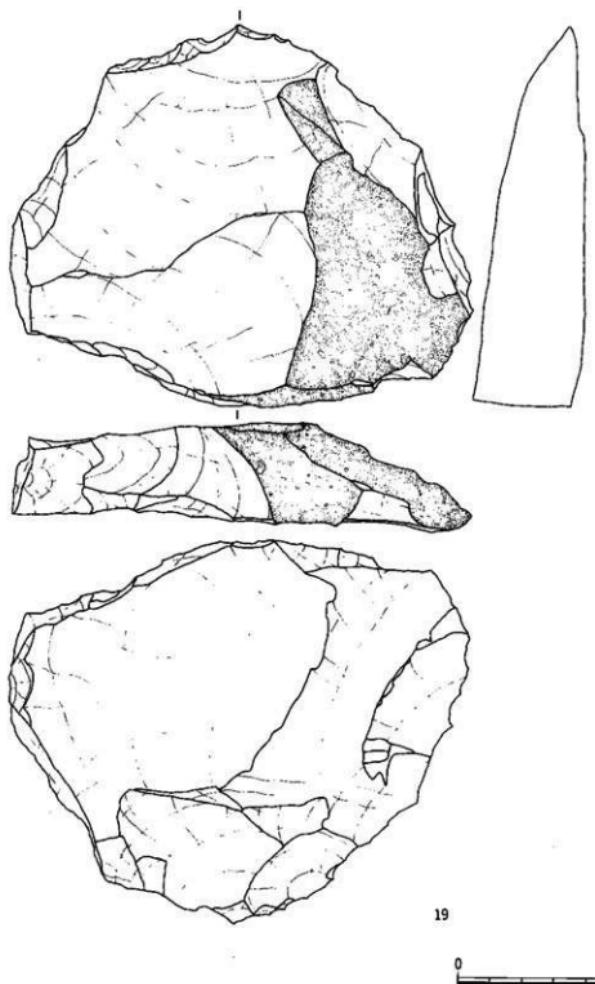
第 41 図 縦長刺片石核実測図 (1)



第 42 図 總長削片石核実測図 (2)



第 43 図 縱長制片石核実測図 (3)



19

第 44 図 縦長剝片石核実測図 (4)

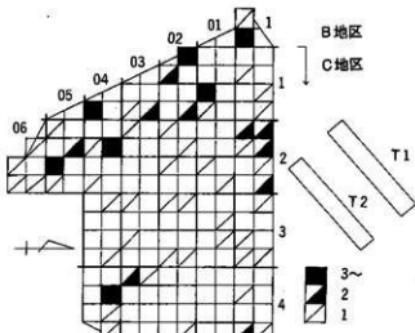
的に剥離することができるので対し、この石核は板状を呈する石核ほど規則正しい剥片は得られない。

18は横長剥片石核を転用したものである。下端部を欠損している。左側縁部を作業面として、上下方向からの加撃による剥離が見られる。裏面にも上方向からの加撃によるやや幅広の縦長剥片剥離痕が認められる。上面には明確な打撃痕が残っている。

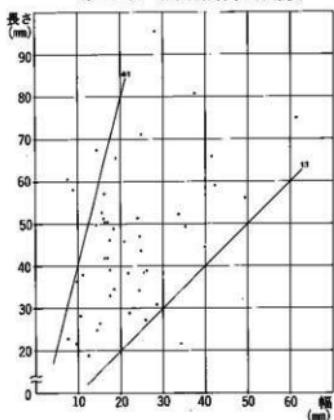
19は石核の素材と思われる。原礫を石理に沿って剥離した分厚い板状の剥片と考えられる。

羽佐島遺跡（I）で指摘されているように、今回出土した縦長剥片石核も板状の素材を用い、その横口面を作業面として両長側面には調整を施さないものが多い。また、これらの石核のほとんどは表面が白色に風化している。白色風化の見られない石核（14～17）は、板状素材の石核に比べて、剥片剥離の条件が一定しない不安定なものを素材としているものが多い。

14. 縦長剥片（第45～46図）



第19表 縦長剥片出土分布表



第20表 縦長剥片の長幅比

86点出土している。縦長剥片の出土が多かったのはC 1-2で10点、C 01-02-1にまたがり9点である。縦長剥片石核はC 01～03-1で集中しており、ほぼ同じ地点での出土傾向を示している。

1～9・12・18は背面に縦長剥片の剥離痕を持たないもので、断面はほとんどのものが三角形を呈する。

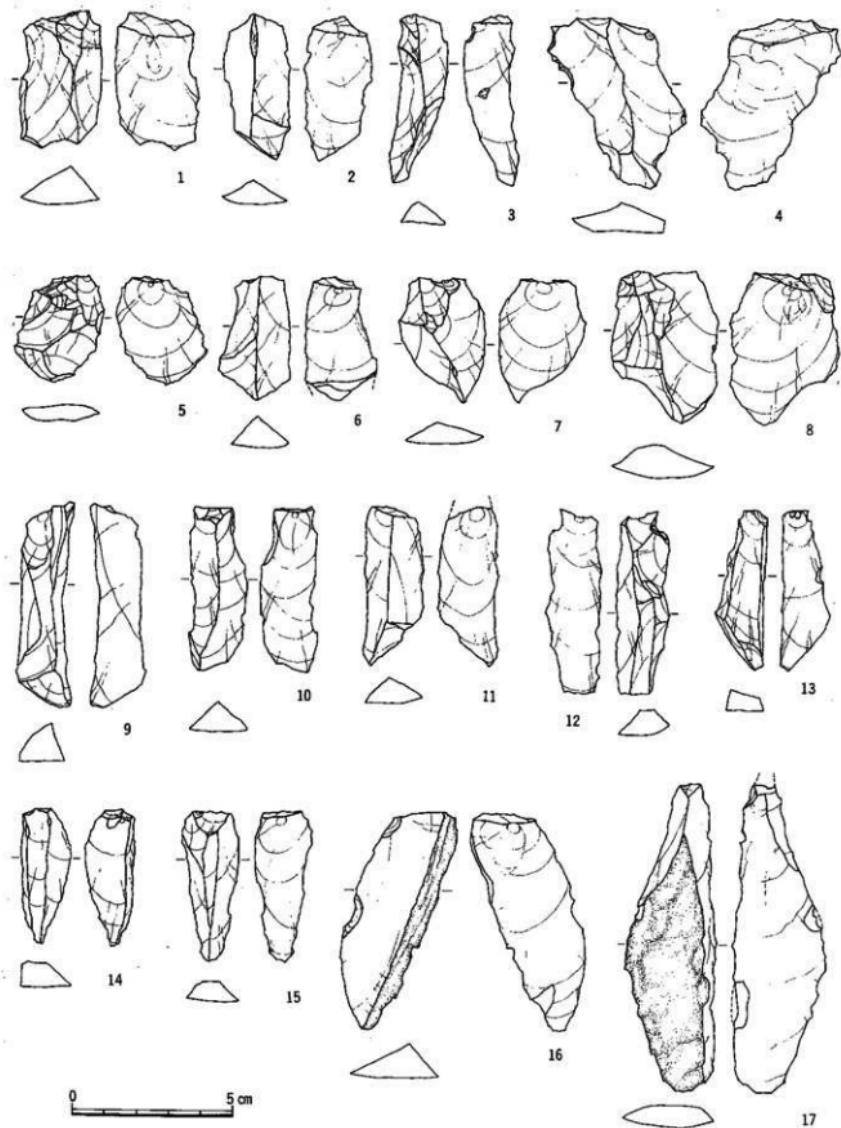
13～15・19～22は背面に縦長剥片の剥離痕を残すもので、断面は四角形あるいは台形を呈する。21は打面部に自然面があり、石核の打面部は自然面をそのまま利用したものと思われる。それに対して22の打面部には石核に施された打面調整が見られ、側面にも石核に施された側面調整が認められる。背面には打点の明確な剥離痕があり、石核から連続して剥離した縦長剥片と考えられる。

16・17は背面に自然面を大きく残すもので、剥離作業初期に生産された剥片と思われる。

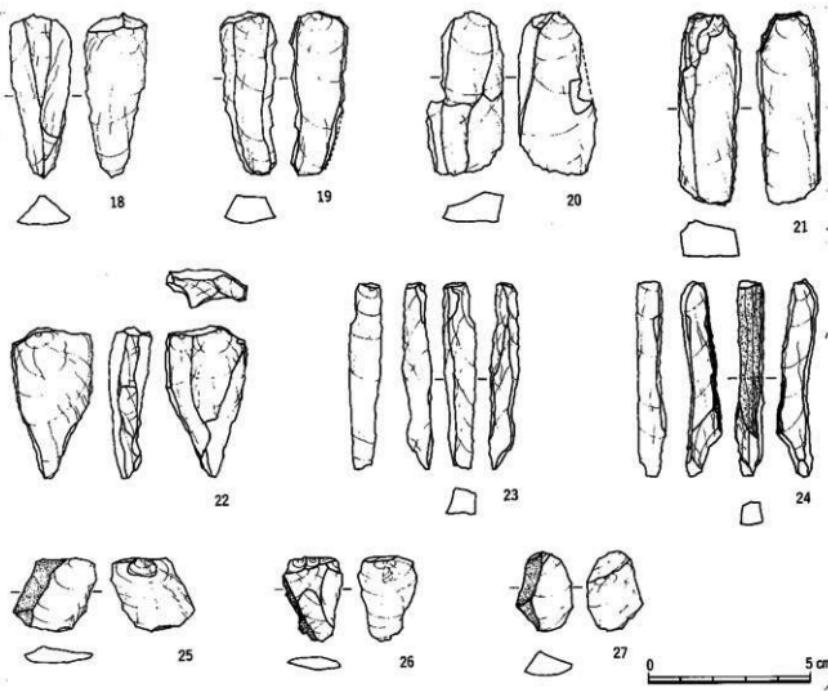
23・24は最も狭長なものである。断面はほぼ正方形を呈する。24は背面に自然面を残し、両側面は石核側面と思われる。石核の幅がそのまま剥片の幅となる薄い板状の縦長剥片石核から剥離されたファースト・フレイクと考えられる。23も同様な石核から剥離されたものと思われる。

25～27は玻璃質安山岩製の縦長剥片である。サヌカイト製のものに比べて長さが短く小形である。25・27は打面部が自然面となっている。

遺物



第45図 縦長削片実測図(1)



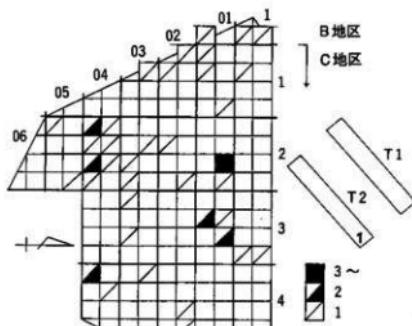
第46図 縦長剝片実測図 (2)

今回出土した縦長剝片は羽佐島遺跡(I)で報告されたものと大きさ・形態等に大きな差異が認められない。

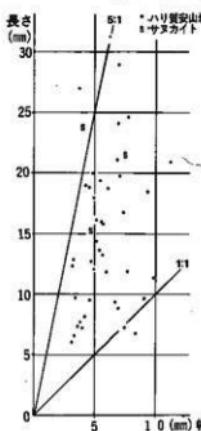
15. 細石核及び細石核関係 (第47~53図)

細石核は46点が出土している。C04-2に比較的集中して、9点出土している。部分的にはC1-2・cnに集中している。玻璃質安山岩製のものがほとんどで、サヌカイト製は2点のみである。

羽佐島遺跡(I)の分類に従い、I類は1原石から1石核あるいは小礫を半截してつくったもの(1・2), II類は角錐状あるいは角柱状を呈するもので、II-Aとして一方の側面に自然面を有し他の側面には素材作製時の古い分割面を残すもの(3~11), II-Bとして側面に自然面を持たないもの(12~20・22・24・35), III類は板状を呈するもので、III-Aとして一方の側面に自然面を有し他の側面には素材作製時の分割面を残すもの(23), III-Bとして両側面が分割面のもの(21・25・26), III-Cとして板状を呈するが複数の剥離面ないしは調整面のもの(27~29・36・37), IV類はサヌカイト製のもの(34・38)の分類を行った。これらの他に、細



第21表 細石核出土分布表



第22表 細石刃剥離痕の長幅比

石核素材となりうるもの(39~42), 打面調整剥片(43), 作業面再生剥片(44)がある。

1は原石を半截して石核としたもの, 2は1原石を1石核として利用したものである。1は素材作製時の分割面が見られ, 打面部には調整が認められる。2は小礫をそのまま用いて打面部及び作業面に調整を施す以外は自然面を残している。II類の石核には側面を作業面とするものと小口面を作業面とするものがある。側面を作業面とするなかには, 小口面を作業面としていた石核の剥離作業の進んだ

石核と思われるものもあるが, 作業面を側面あるいは小口面にするものに差異は認められない。

21・23・25・26の板状を呈するものは打面調整以外はほとんど調整が加えられておらず, 両側面は自然面あるいは分割面がそのままである。

30~33は他のものに比べて作業量が少ない。30・31・33はIII類に, 32はII類に属するものと考えられるが, 原礫の表皮に近い部分を剥ぎ取ったものを素材としていると思われ, 自然面と剥離面とでエッジ状をなす部分に櫛状剥離が見られる。30・31は直交する2面に櫛状剥離が見られ, 彫器の可能性も考えられる。32は櫛状剥離の見られる面が極めて小さく, 打面部も不安定である。

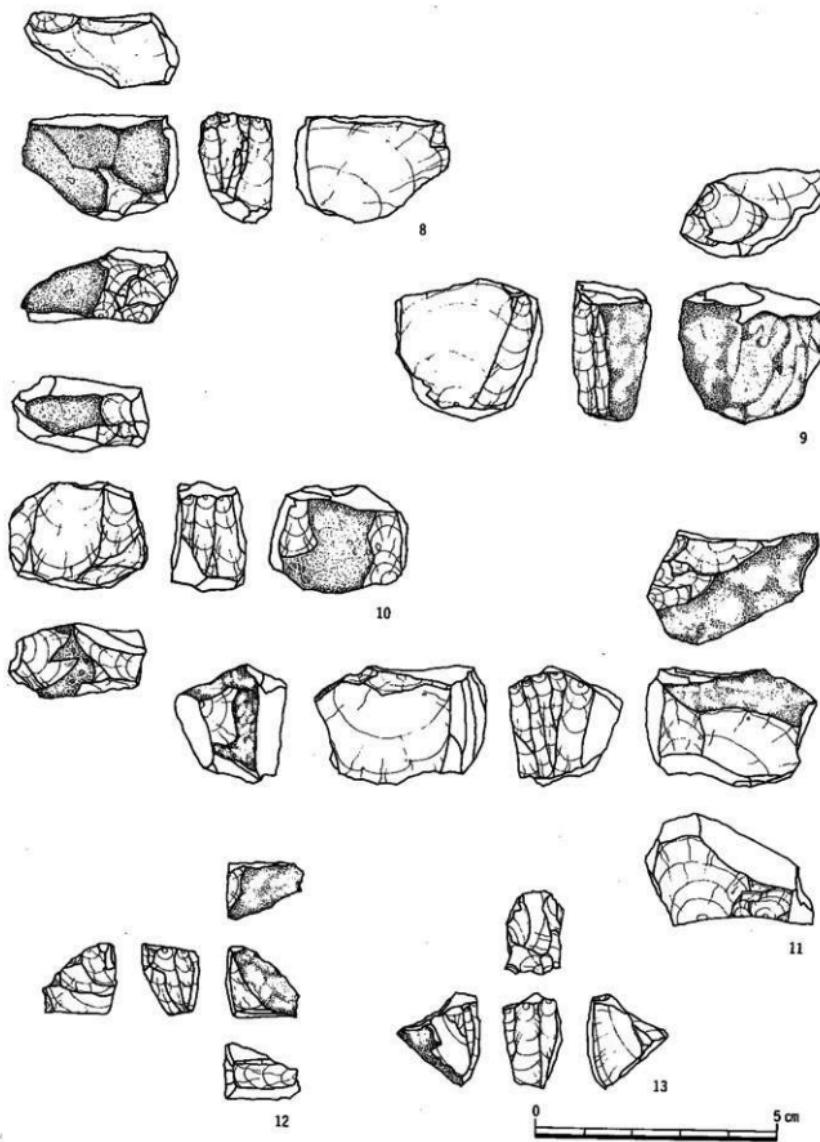
以上の玻璃質安山岩製の細石核は, 16・21を除けばいずれかに自然面を有するものばかりで, 自然礫を加撃して作製された素材が用いられたものと思われる。渡部明夫氏は, 自然礫を加撃して細石核素材を作製する工程模式図を羽佐島遺跡(I)で示しており, 1・2の1原石から1石核を作ったもの, 小礫を半截して2個の細石核を作ったものの以外の細石核はこの工程に従って作製されたことが充分考えられる。

16・27・29・36・37は側面に不定方向の剥離が見られる。この不定方向の剥離は自然面を除去するためのものと思われ, 藤好史郎氏の示した, 自然面を除去した礫を用いて素材を作製していくA系統の工程による細石核とも考えられる。21は自然面を全く有せず, 作業面と打点の明確な調整が打面部に見られる以外は分割面である。自然面を有しないものの自然面を除去した際の剥離も見られず, A系統のものとは断定し難く, 自然礫を加撃しての工程C-3の剥片を素材として打面・作業面を作製してゆけば21のようになる可能性もあるため, いずれの工程による素材を用いたものかは明確でない。36は表面が著しく風化し白色を呈するが, 玻璃質安山岩と思われる。

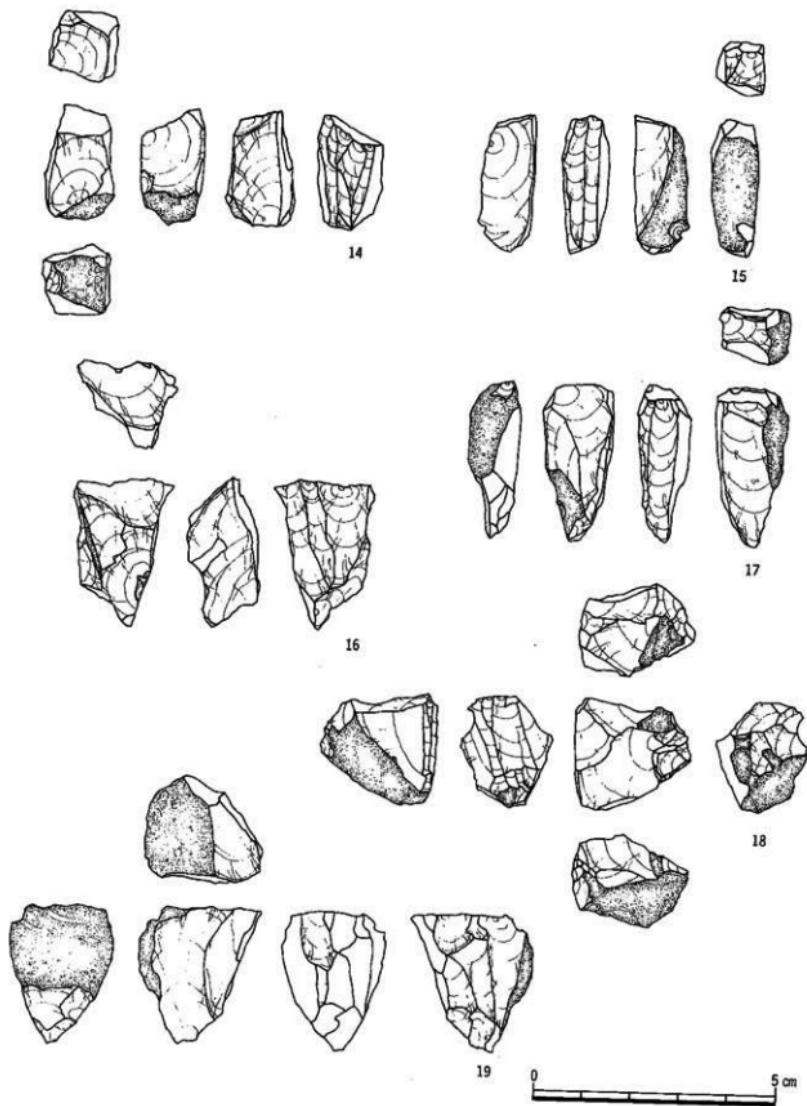
39~42は角柱状あるいは角錐状をなすもので, 分割面・自然面を有し, 若干の細かい調整が見られ, 細石核素材となりうる剥片である。43は打面調整剥片, 44は作業面再生剥片である。



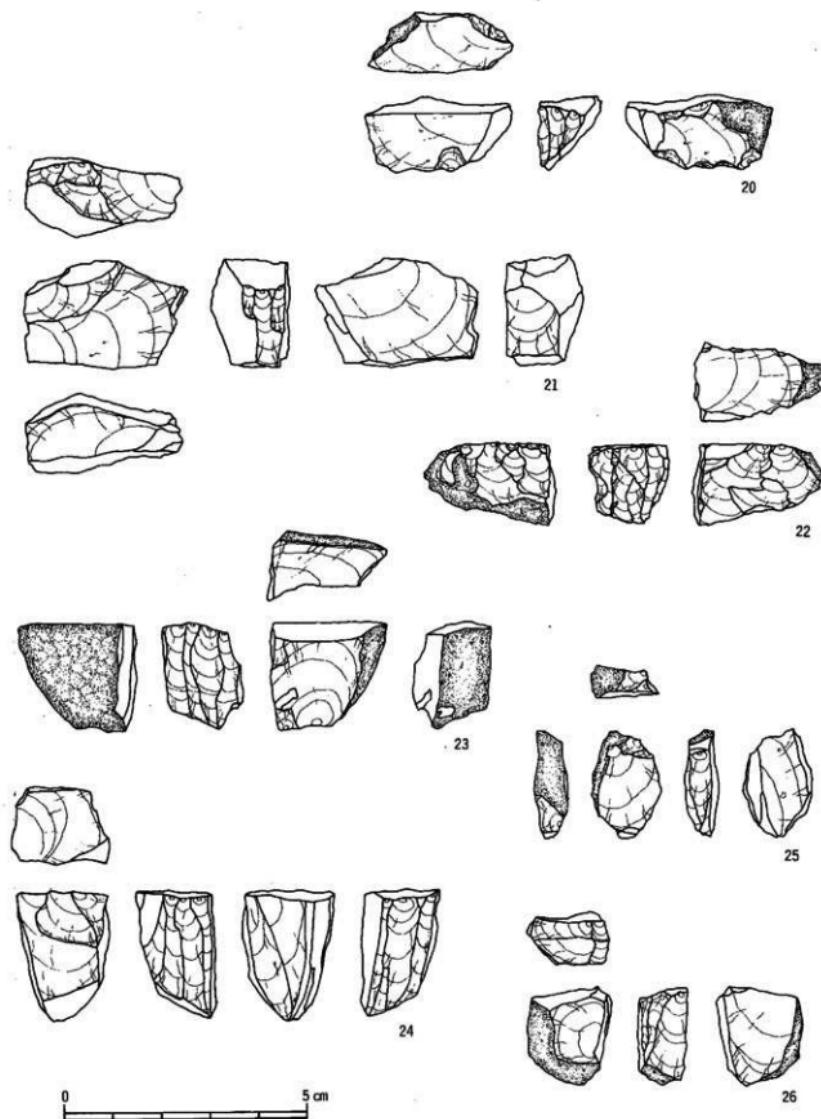
第 47 圖 細石核実測図 (1)



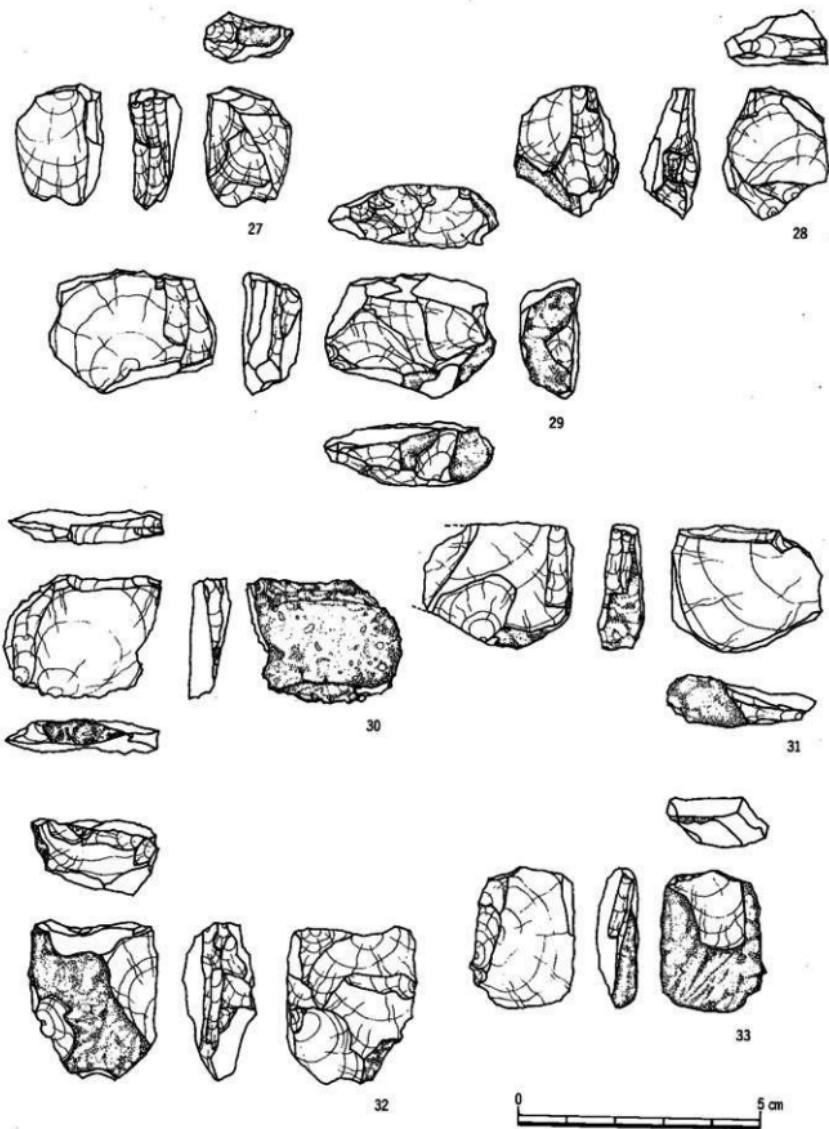
第 48 図 細石核実測図 (2)



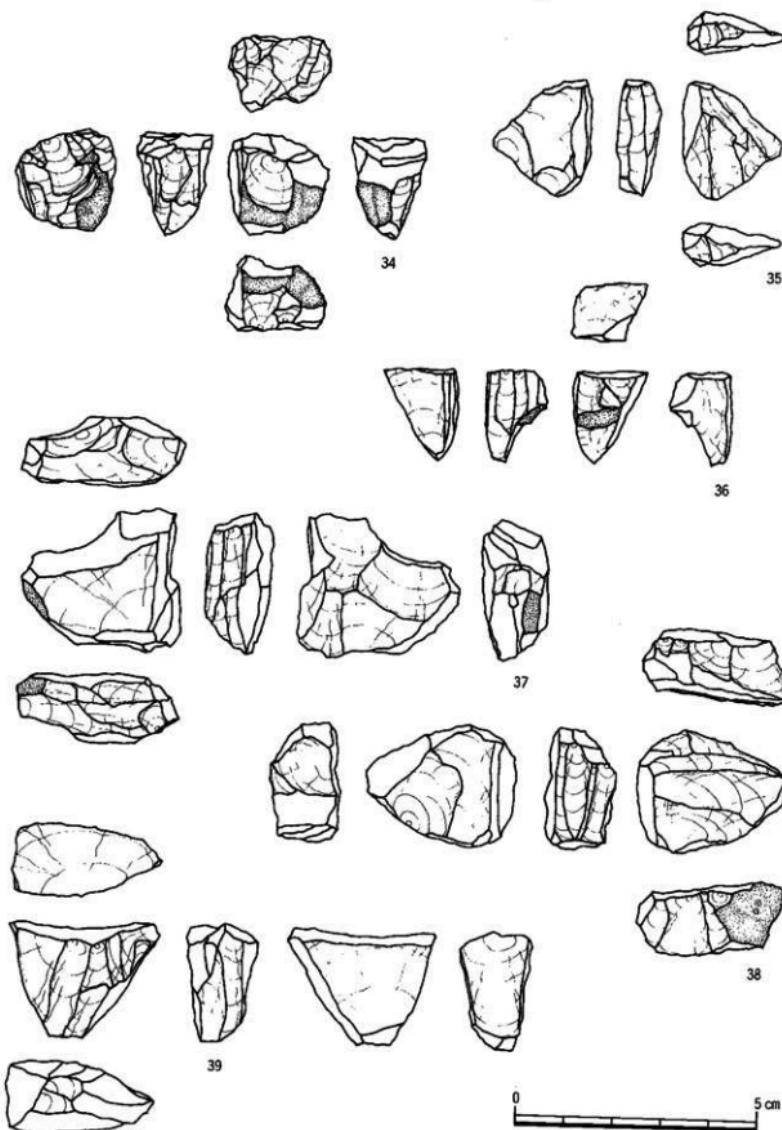
第 49 図 細石核実測図 (3)



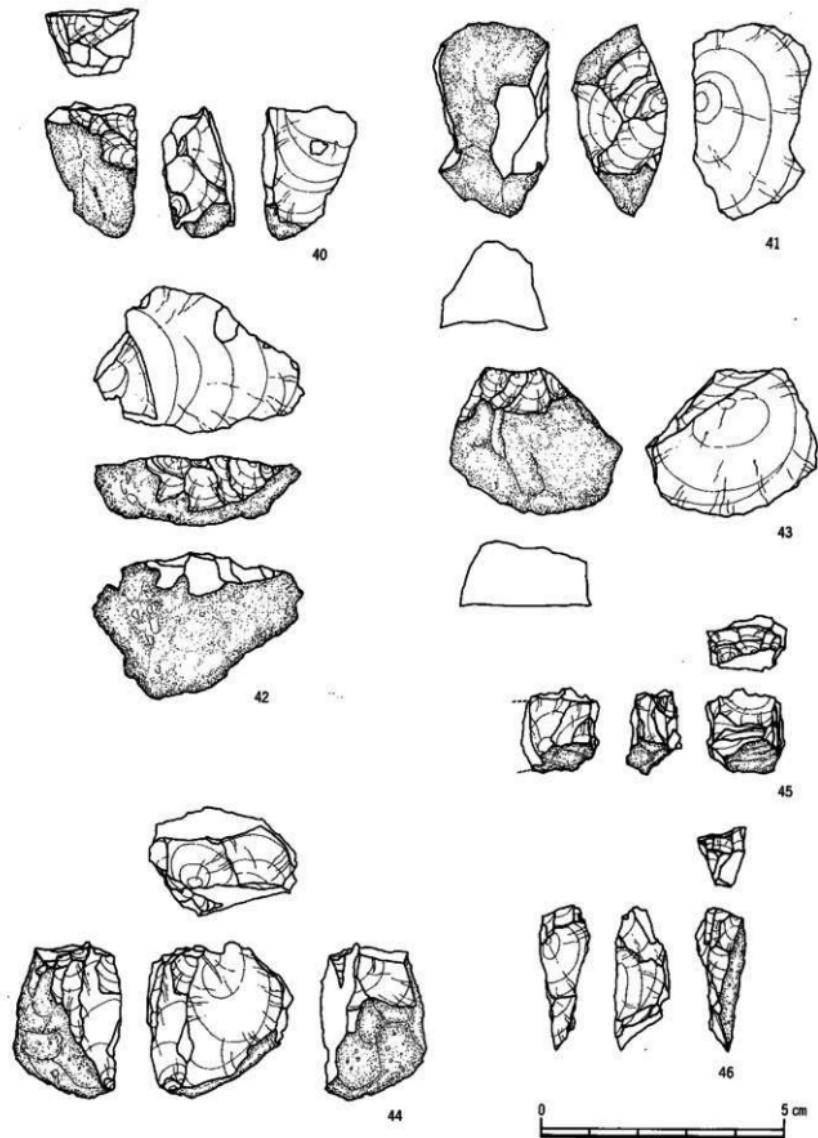
第 50 図 細石核実測図 (4)



第 51 図 細石核実測図 (5)

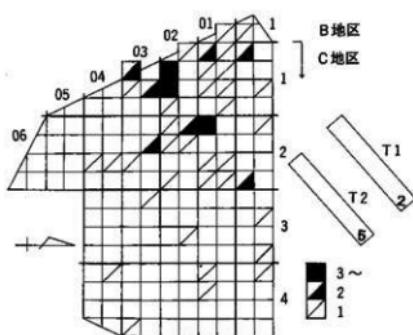


第 52 図 細石核実測図 (6)



第 53 図 細石核実測図 (7)

16. 細石刃 (第54・55図)



第23表 細石刃出土分布表

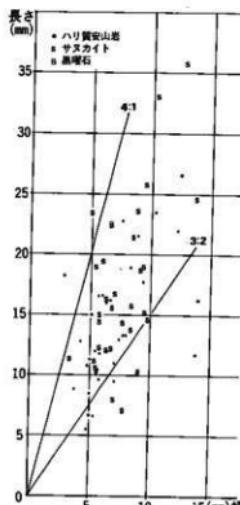
64点の細石刃が出土している。玻璃質安山岩製31点、サヌカイト製32点、黒曜石製1点が出土している。

出土状況は玻璃質安山岩製・サヌカイト製ともにほぼ同じ様相を示し、C01-2・as, C02-2・an, C02-1・as, bs, C03-1・bn付近に集中して出土している。黒曜石製細石刃はC01-1・dnから出土している。細石刃の出土状況は、細石核の集中出土箇所とは若干異なっている。

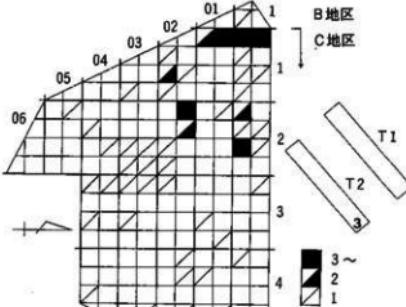
これらの細石刃は完形でないものも含めると、長さ0.5~2.5cm、幅0.5~1.0cm、重さ0.1~0.6gまでのものがほとんどを占める。玻璃質安山岩製細石刃は長さ0.5~1.5cmのものが多いのに対して、サヌカイト製細石刃は長さ1.0~2.0cmのものが多く、サヌカイト製のものがわずかに大きい。重さについても玻璃質安山岩製は0.1~0.4gが多いのに対し、サヌカイト製は0.5g前後のものが多い。

17. 叩き石 (第56~59図)

叩き石は総数66点出土している。これらのなかにはわずかに打撃痕の見えるもの、小さな剝離痕が若干認められるもの等使用痕が明確ではないが、叩き石の可能性が考えられるため叩き石として含めた。叩き石として考えたものの石材は多様であるが、安山岩製のものが特に多い(第26表)。これらの石材のほとんどは香川県周辺において産出するものであるが、輝石安山岩製のもの1点、ホルンフェルス製のもの(17)は香川県以外で産出し



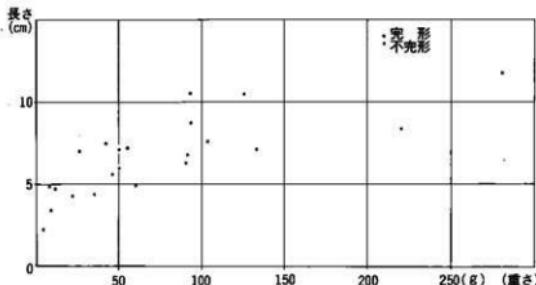
第24表 細石刃の長幅比



第25表 叩き石出土分布表

石 材	数
安山岩	26
砂岩	17
緑色片岩	7
閃綠岩	5
輝石安山岩	4
緑泥片岩	1
玄武岩	1
角閃安山岩	1
石英斑岩	1
結晶片岩	1
ホルンフェルス	1
玢岩	1
合計	66

第26表 石材別叩き石一覧表



第27表 叩き石の長さと重さの比

たものと考えられる。

これらの叩き石は、C1-1, C01-1の西端部で13点と特に集中している。この他にC1-2で9点、C02-1・2にまたがり8点と集中するが、C1-3・4、C01-04-3・4ではあまり出土していない。

66点のうち図示した25点は破片のものも含めて、長さ3.4cmの

小形のものから16.2cmの大形のもの、重さ8gの軽いものから480gの非常に重いものまで出土している。完形のものもそれ以外のものも長さ10.0cm以下、重さ100g未満のものがほとんどを占めるが、完形でないものは長さ5cm前後、重さ50g以下のものが多く、完形のものは長さ7cm前後、重さ50g程度のものが多い。最も軽いものは長さ4.9cm、重さ8gの緑色片岩製のもの(第57図13)で、最も重いものは長さ16.2cm、重さ480gの砂岩製のもの(第57図10)である。

25の扁平な円形のもの以外は棒状のものである。23は棒状を呈するが断面は半円形で、使用前に半截されたものか、使用後に半截されたものかは不明である。

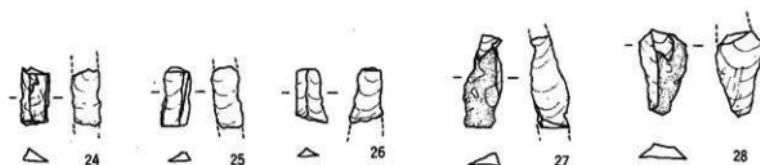
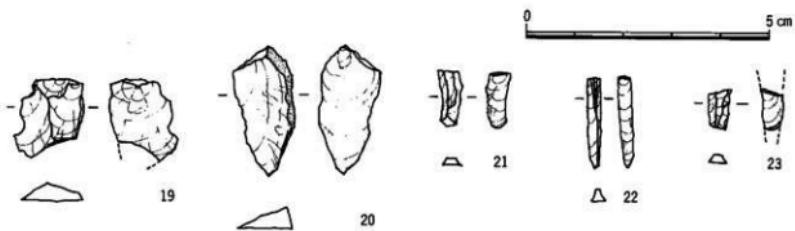
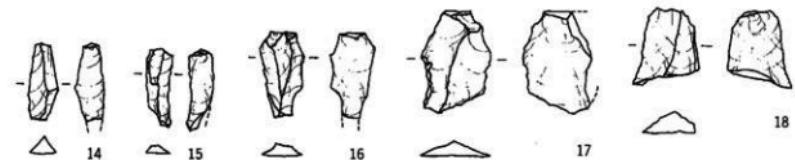
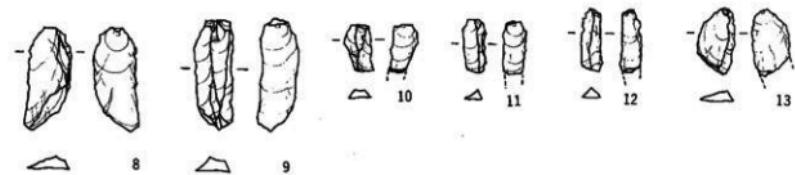
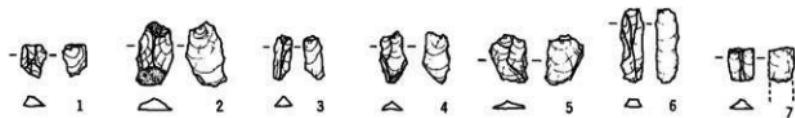
1~6・25は安山岩製である。1は完形の最も軽いもので長さ4.7cm、重さ12gである。下部が太くなる棒状をしており、下部にのみ使用痕が見られる。3は断面が四角形を呈し、上部は断口面を見せている。下部もこれより以前の古い断口面と思われるが、折断面をそのまま利用して叩き石としている。25は扁平な円形のものである。全周に剥離痕を残しており、これは意図的に施されたものか、使用による剥離かは明確でないが、石材から叩き石として考えた。

7~10は砂岩製である。7は断面がきれいな三角形を呈する。他の砂岩製のものに比べて表面が平滑である。9の上部側面には使用痕とも思われる剥離が見られ、上端部は使用中の破損とも考えられる。

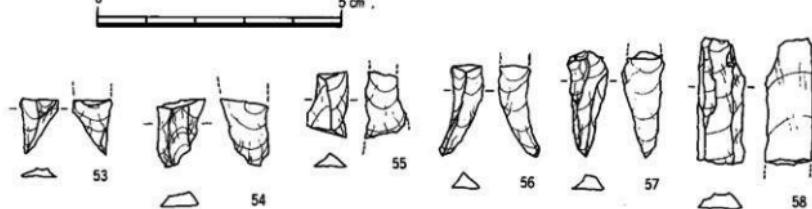
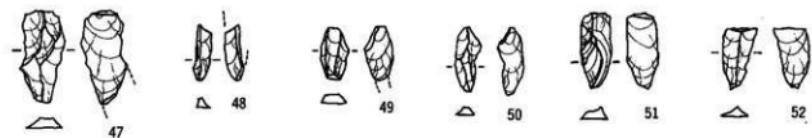
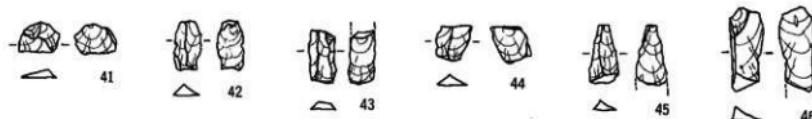
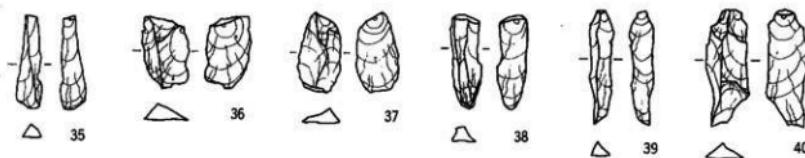
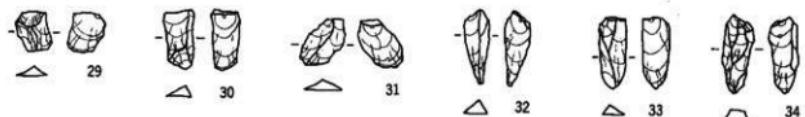
12~14は緑色片岩製である。13は接合資料である。約8m程離れた所から出土しているが、同一グリッド内(C02-2)の同一層位(第2層)の出土である。13には半截された後の使用痕と思われる剥離が見られた。

15~16は輝石安山岩製である。15は上部を欠失、下端部も折損した後に使用されたものと思われる。

遺物

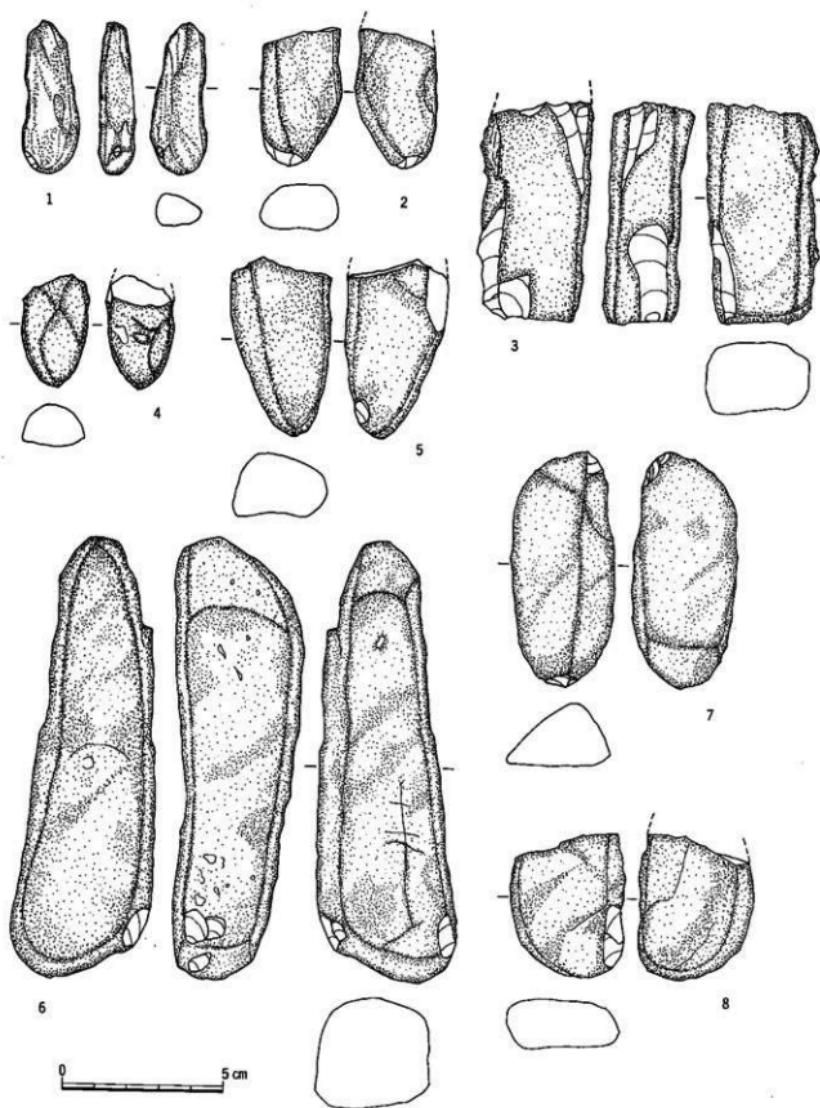


第 54 図 細石刃実測図 (1)

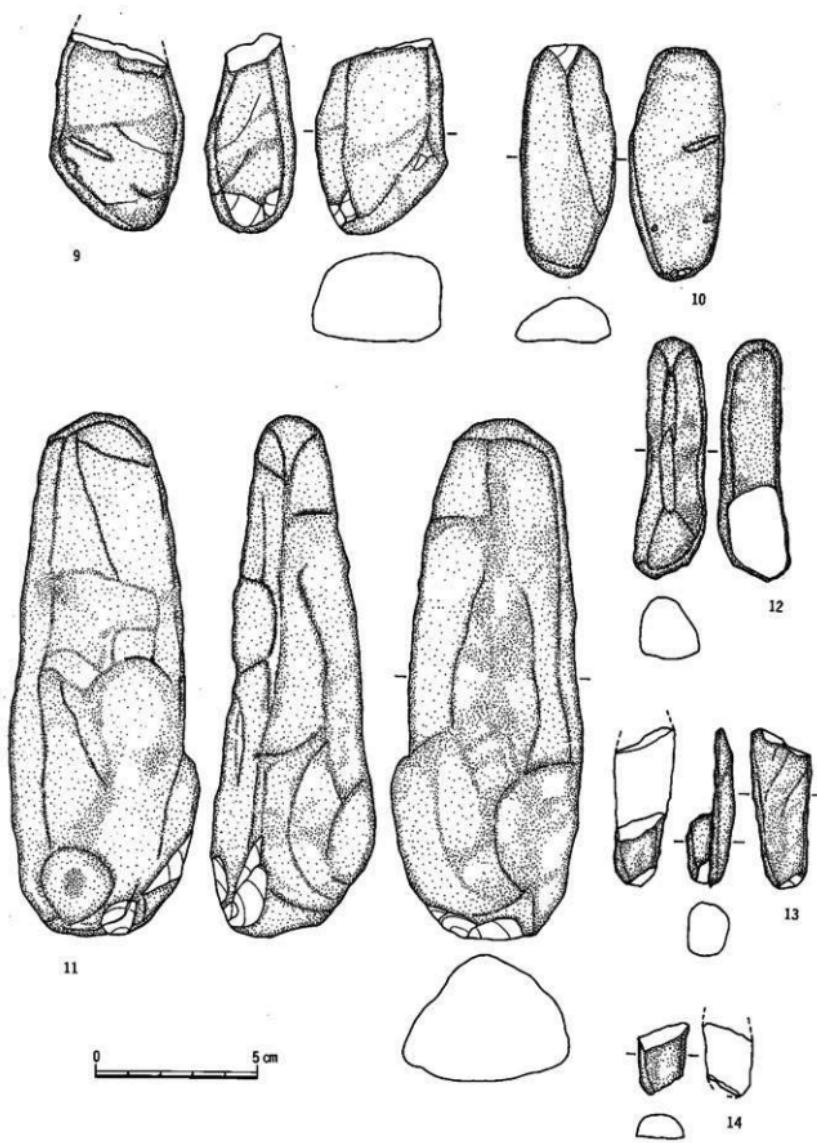


0 5 cm.

第 55 図 細石刃実測図 (2)

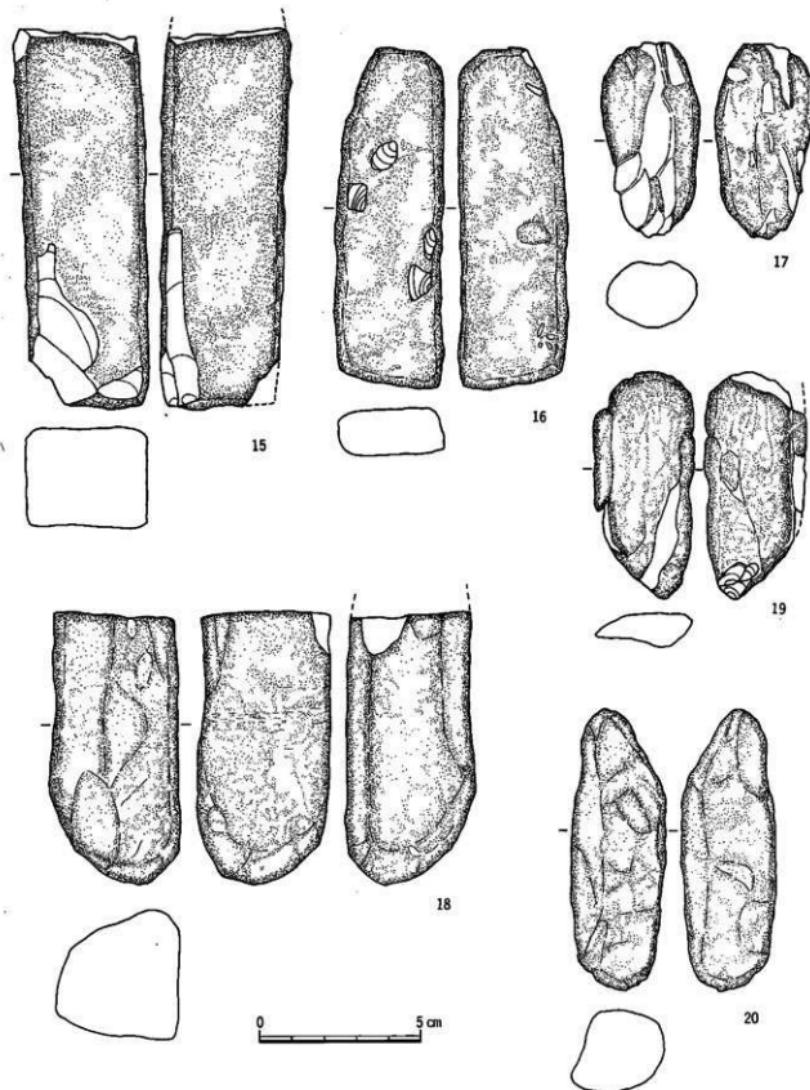


第 56 図 叩き石実測図 (1)

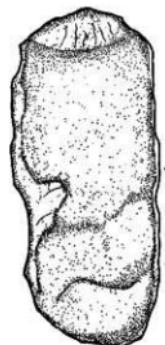


第 57 図 叩き石実測図 (2)

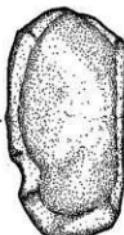
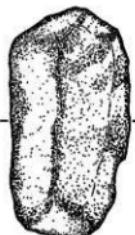
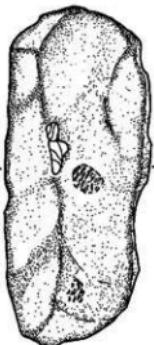
遺物



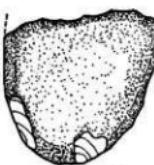
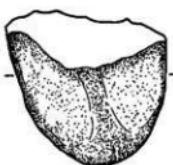
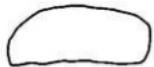
第 58 図 叩き石実測図 (3)



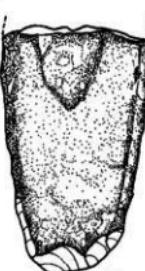
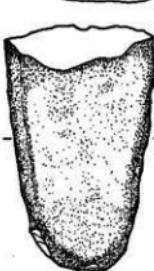
21



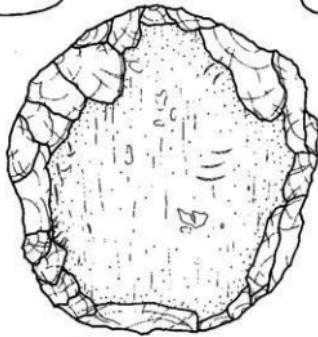
22



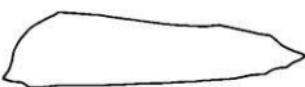
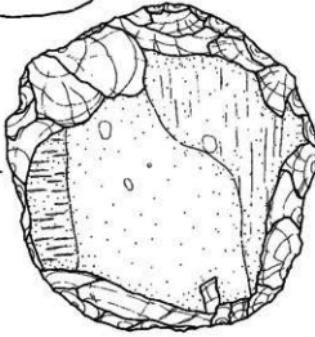
23



24



25



0 5 cm

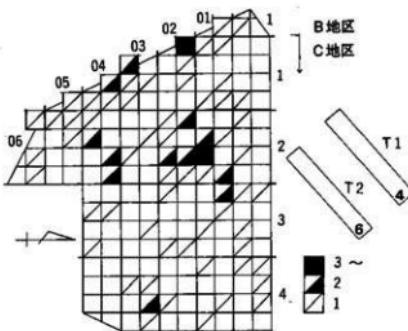
第 59 図 叩き石実測図 (4)

第2節 繩文時代以降の出土遺物

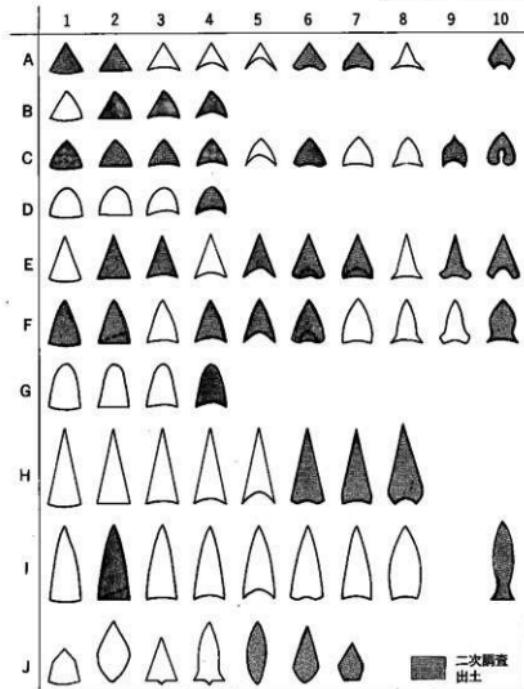
1. 石錐 (第61・62図)

石錐は総数98点出土しており、このうち73点を図示した。調査区全域に散漫に出土しているが、C01・02・2に集中する傾向がある。その他、C04-2, C02-1西端部、C03・04-1西端部に若干集中して出土している。98点のうちサヌカイト製96点、玻璃質安山岩製・流紋岩製のものがそれぞれ1点ずつ出土している。

出土した石錐は、羽佐島遺跡(I)の分類に従って、①長さが幅の1.2倍以下し



第28表 石錐出土分布表



第60図 石錐分類模式図

かなくほぼ正三角形を基本とするもの、②長さが幅の2倍以下長さの二等辺三角形を基本とするもの、③長さが幅の2倍以上の細長い二等辺三角形を基本とするもの、④その他、に大別することができる。さらに分類模式図に従ってA～J類に細分した。

今回出土した石鎌は、長さ1.0～2.5cm、幅1.0～2.0cm、重さ0.5g前後のものが大半を占める。①類のものは小形・軽量のものが多く、特にA類は0.5g以下のものばかりである。最も大きいのは柳葉形(69)の長さ3.4cm、幅2.1cm、重さ5gのものである。

15は長幅比が1.2以下で側辺部が直線をなすA類のものであるが、分類模式図にはあてはまるものがない。逆刺部が角張る鉤形を呈するので、E10類に属する小形のものとしてA10類とした。また、31はC類のものとしては抉部が非常に深く、逆刺部が若干角張りを見せる。C6類あるいは鉤形鎌に属するものとしてC10類とも考えられる。16は15と同じく鉤形を呈するものでE10類に分類される。

8・11・25・28・29の長幅比は1.2以下のものであるが、A～C類のものの中では比較的大きいものである。11・29は正三角形鎌の基部が凹基状になるもので、似かよった形態・つくりをしている。8は先端部を欠くため明確でないが、B類もしくはD類と考えられる。25は粗雑なつくりのB4類のものである。28はC6類の平基式のものである。

42・43は側辺中央部から外湾して逆刺部先端に至るというスパナ状を呈し、E9類とE10類の中間的様相を示している。

51・67・68は有肩鎌である。51は片側だけであるが明確に肩を作り出している。

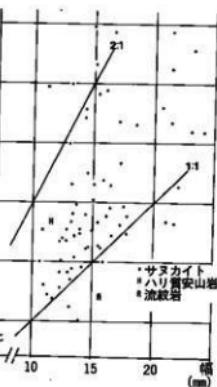
60・66は側辺が一旦狭まり、再び脹らんで先端に至るロケット状を呈する。60はF10類に属するが先端部は尖らないG類のものとなる。66の側辺部はF10類と同様になると思われ、基部を欠損するものの現長で長幅比が2倍以上となる。I10類として分類できる。

59・69は片面に自然面を残す。69は片面中央部にわずかに残すのみであるが、59は中央部から先端部まで大きく残っている。先端部は丁寧に作り出してないため自然面のエッジ部がそのまま尖っていない。69・70は凸基式の基部を持つものである。

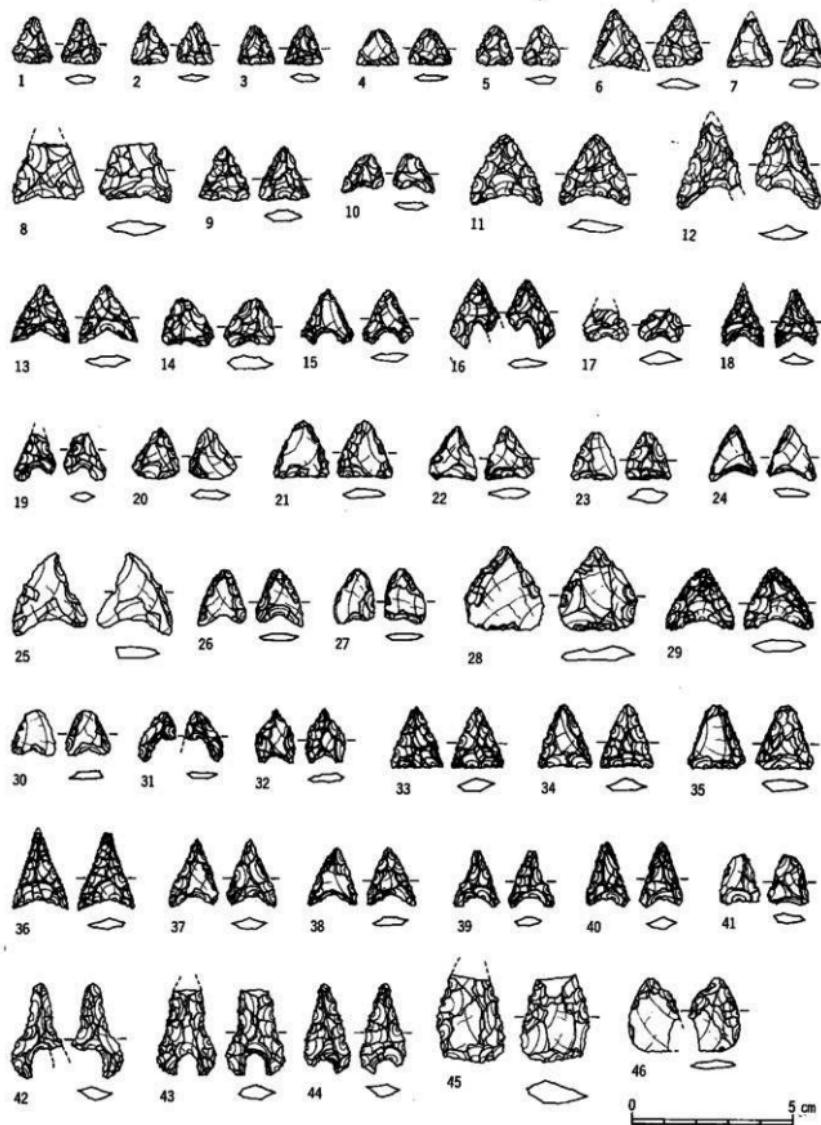
69は基部が半円形を呈し、側辺は直線的な柳葉形のものである。70は先端及び基部が尖り、身部中央で一番脹らみをもつ木葉形を呈しており、尖頭器とも考えられるが、尖頭器とするにはやや小形であるためにここでは石鎌とした。

71は未製品である。側辺部はD類のものである。尖頭器とも思われるが、折損部に打点の近い剝離がみられ、基部が未調整の石鎌と考えられる。

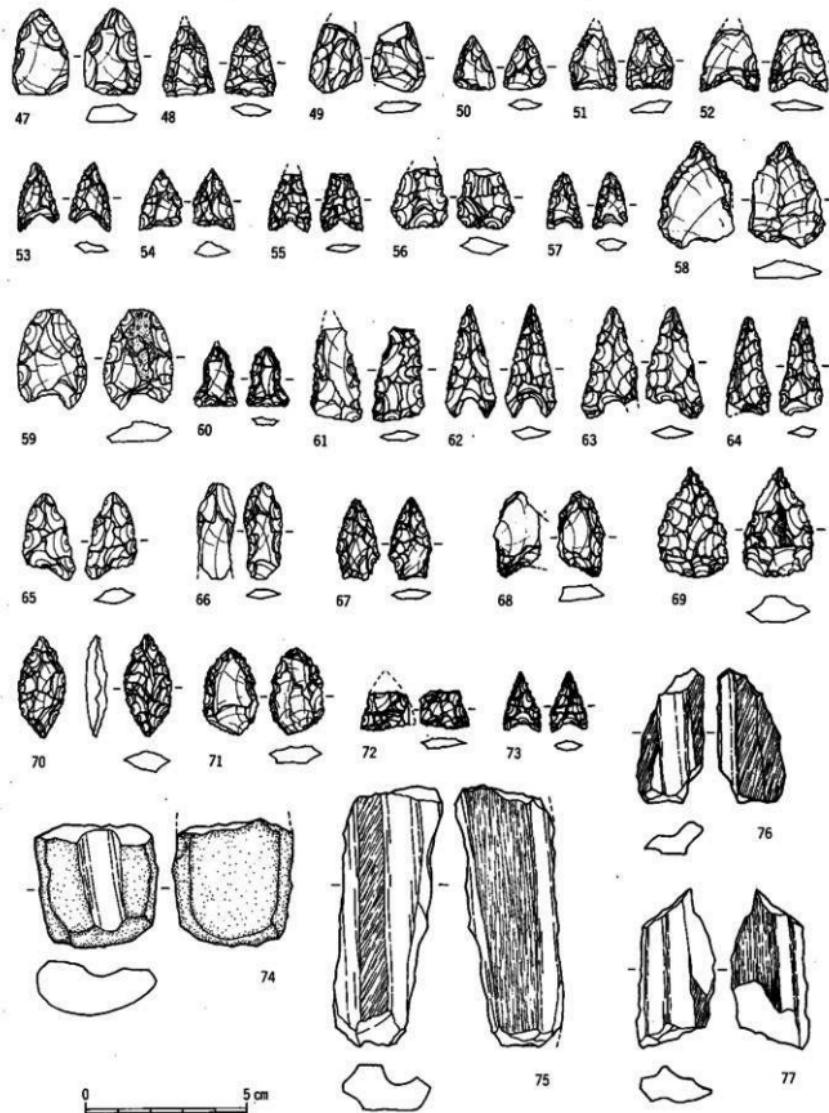
第60回分類模式図は羽佐島遺跡(I)で示されたものに、今回出土した石鎌の型式を加えたものである。J類は前回のものにあてはまるものではなく、新たに出土した型式のものを加えている。A～G類のものがほとんどで、出土点数の約86%を占める。H・I類に分類されるものはわずか5点の出土数である。また、E～I類にあてはまるもののうちでも基部の抉部が深いもの、斜基状になるもの、模式図中の中間的様相を示すものなど、バリエーションに富んでいる。



第29表 石鎌の長幅比



第 61 図 石鏃実測図 (1)



第 62 図 石鎌・矢柄研磨器実測図 (2)

2. 矢柄研磨器（第62図74～77）

4点出土している。いずれも破片で、砂岩製が1点（74）・緑泥片岩製が3点（75～77）である。

74は片面に1条の溝を彫り込むだけであるが、75～77は両面に4～5条の溝が彫り込まれており、特に76は溝状にはなっていないが、全周にわたって磨滅のため表面がなめらかになっている箇所が見られる。また、75と77は色調・石質ともに非常に類似している。

74の砂岩製のものは、溝に擦痕が見られない。溝の数、溝の状態から見ても矢柄研磨器と考えられる。75・76の溝に見られる擦痕は非常に規則正しく直線的で、74のものとは若干性格が異なるものとも考えられる。羽佐島遺跡（I）では75・76に類する緑色片岩製のものは矢柄研磨器として考えられたが、別の用途の可能性も考えられる。

3. その他の遺物（第65図）

石器以外の遺物としては、滑石製勾玉1点、青銅製帶金具1点、綠釉土器片1点、白磁片20点、その他繩文土器と思われる細片から須恵器・土師器片、近・現代に至るまでの陶磁器片が出土している。

〈滑石製勾玉〉（1）

長さ3.9cm、幅1.5cm、厚さ0.45cmの扁平なものである。表面・裏面とともに部分的に剝落面があるが、表裏面・側面の全面にわたって研磨痕が残っている。孔は両側から穿孔されている。

〈青銅製帶金具〉（2）

縦2.6cm、横2.7cmの巡方の表金具である。裏面が凹面をなす厚手の精製品で、磨滅しているが四隅に鉈足の跡が認められる。他にこれに伴うと思われる青銅製品は出土していないため詳細は不明であるが、銅鈎帶A～IV類のものと考えられ、中央下級官吏であるいは地方高級官吏が着用した銅飾帶に伴うものと思われる。

1・2ともにC02-4第2層からの出土で、約2.9m程離れた所から出てきている。

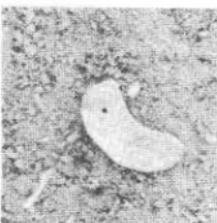
〈綠釉土器〉（3）

椀の口縁部の破片1点のみ出土している。茶灰色を呈する須恵質のもので、外面に薄く緑釉が施され、口縁端部から内面約3cm程までは肌荒れしている。口縁端部は丸く納まる。胎土には砂粒を含まず、外面にはヨコナデ調整が認められる。

羽佐島遺跡（I）で出土した緑釉土器と同一個体と思われるものはない。今回の緑釉土器は釉のかかり具合が薄く、胎土の色に影響された色調を呈する。C01-1第3層からの出土である。 第64図 銅製帶金具出土状況

〈白磁〉（4～7）

4～6は白磁椀の口縁部、7は高台部である。4は玉縁口縁で、玉縁に明確な稜をもつ。胎土は灰茶色で、発色が悪く胎土の色がそのまま出ている。6は口縁端部が外反し、内面に段差をもつ。胎土は灰白色、釉は若干空色を呈する。外面に貫入が見られる。5の口縁部は直線的に延びるもので端部は尖る。胎土は灰白色、釉はやや灰色がかっている。7は6と同時期のも



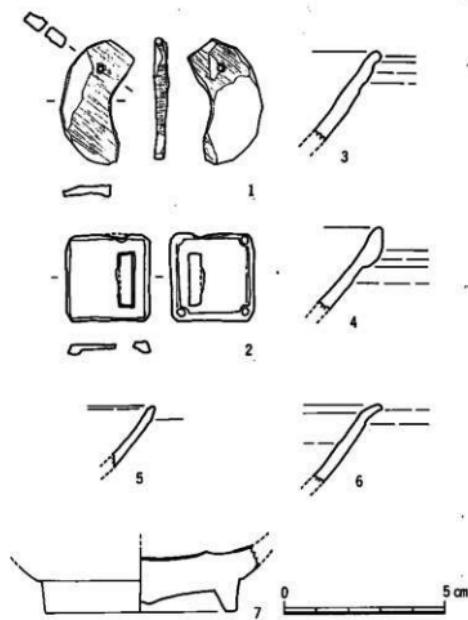
第63図 滑石製勾玉出土状況



第64図 銅製帶金具出土状況

のと思われる高台部である。高台内面は回転ヘラ削りの跡が見られる。高台部は露胎で、外面は高台付近まで釉がかかる。内面見込みの釉がカキ取られている。胎土は灰黄白色を呈し、釉は緑色がかったものである。

4～7の白磁は12～14世紀前半頃のものと思われる。



第 65 図 滑石製勾玉・銅製帶金具・
緑釉土器・白磁実測図

註

- (1) 渡部明夫「ナイフ形石器」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 I 羽佐島遺跡（I）』1984 香川県教育委員会
- (2) 註1と同じ
- (3) 加藤稔・鈴木和夫「越中山K遺跡の接合資料」『考古学研究』22 1976
- (4) これと同様に羽佐島遺跡（I）から出土した尖頭器に、横長剣片を利用して両端の尖ったやや幅広の紡錘形となるものがある。
渡部明夫「尖頭器」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 I 羽佐島遺跡（I）』1984 香川県教育委員会
- (5) 渡部明夫「彫器」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 I 羽佐島遺跡（I）』1984 香川県教育委員会
- (6) 「二次調整ある剣片」の項目で取上げたものは、ここでいう縦点数には含まれていない
- (7) 刃部の調整角度の差は、一線を画するほど明確なものではない。百分量によったので、その可能性が高いという程度の意味で二分した。
- (8) 「削器・搔器」「二次調整ある剣片」の項目で取上げたものは、ここでいう出土数には含まれていな
い。
- (9) 松藤和人「再び“瀬戸内技法”について」『二上山・桜ヶ丘遺跡』 1979 奈良県立橿原考古学研究所
- (10) 藤好史郎「横長剣片石核」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 II 大浦遺跡』 1984 香川県教育委員会
 - (11) 第66図石器計測基準図(90P) 参照
 - (12) 松藤和人「近畿西部・瀬戸内地方におけるナイフ形石器文化の諸様相」『旧石器考古学』21 1980 旧石器文化談話会
 - (13) 渡部明夫「横長剣片」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 I 羽佐島遺跡（I）』1984 香川県教育委員会
 - (14) 叩き石の石材については、五色台自然科学館 古市光信氏より御教示いただいた。なお、輝石安山岩は玄武岩の一類で、第59図22の緑泥片岩製のものは緑色片岩であるとも考えられるとのことである。
 - (15) 註14と同じ
 - (16) 「考察」『平城宮発掘調査報告VI』 奈良国立文化財研究所学報 23 S50+1+31

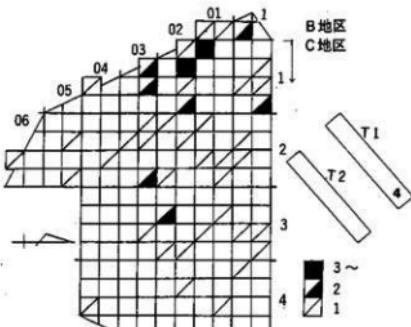
第5章 おわりに

昭和58年度に実施された羽佐島遺跡での第2次発掘調査の結果は前章までに紹介したとおりであるが、ここでは昭和53・54年度に実施された第1次発掘調査の成果もふまえて、羽佐島遺跡の全体を簡単にまとめて結びとしたい。

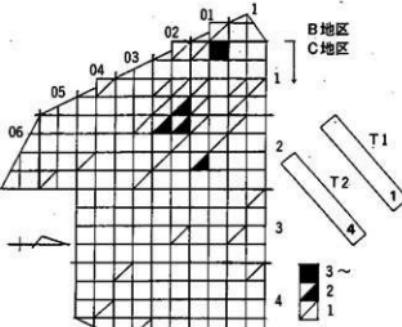
第1次発掘調査は、羽佐島の北側丘陵頂部西斜面から尾根筋鞍部に沿って南側丘陵部北端までを対象区域として実施された。今回の第2次発掘調査は、その南東にあたる南側丘陵頂部の東側斜面が対象区域であった。つまり、2回の発掘調査を通して、羽佐島をほぼ南北に縦貫して調査できたわけである。

第1次発掘調査では、発掘面積4,254m²から約25万点の遺物が出土したが、第2次発掘調査では、発掘面積710m²から約12,000点の遺物が出土したにすぎない。斜面部下位は急崖地であり発掘していないため、単純に比較できない面もあるが、面積比で考えるならば、今回の遺物出土量は前回の1/3にも達しないと言えよう。

第1次発掘調査において、遺物に二次的な移動が認められることが指摘されたが、今回の発掘調査でも表土層から旧石器時代の遺物が出土すると同時に、第3層でも旧石器と土器片が同一面で出土しており、遺物の二次的な移動が認められた。さらに、第2層の同一面で7~8m離れて出土した叩き石が接合する例も見られ、土層の比較的浅い表層部付近では、垂直移動とともに水平移動もあったと考えられる。こうした遺物の二次的な移動には、後世の人の為的な擾乱（畑耕作）等も考えられるが、急崖地を伴う地形的な要因も見逃せないと思われる。羽佐島の全周は切り立ったような急崖地であり、地山の花崗岩が露出している。尾根筋からゆるやかに傾斜する斜面部は下位になるほど急傾斜となるので、土砂の流出も少なくなかつたことが推測できる。急傾斜の斜面部で土が流出した場合、尾根筋からの出土がこれを補うことを繰り返して、現在の羽佐島の地形になったものであろう。そうしたことによって、遺物を層位学的に検出することはできなかった。



第30表 国府形ナイフ形石器出土分布表



第31表 横長剣片利用のナイフ形石器出土分布表

第2次発掘調査における遺物の出土傾向を見ると、ナイフ形石器はC02-1を最高にC1～C01-1・2といった南側丘陵部の尾根筋付近で多く出土している。翼状剣片・横長剣片も同様な出土傾向を示すが、横長剣片石核はC01～C05-2と、尾根筋を少し下った斜面上位のやや南側よりの範囲での出土が多い傾向がある。縦長剣片・同石核・石鐵・削器・搔器も横長剣片石核とほぼ同様の出土傾向を示す。こうした分布の相違がそれぞれ時期的な違いを反映している可能性もあるが、国府型ナイフ形石器と横長剣片素材のナイフ形石器には顕著な分布の相違が認められないで、単に時期的な違いだけで説明することは困難である。

玻璃質安山岩製の遺物の出土傾向を見ると、細石核はC04-2周辺・C01-1周辺・C01-3周辺つまり、南側丘陵部尾根筋・その東側にあたる斜面中位・南側よりの斜面上位と3箇所での出土が多い。細石刃の方はC01～C03-1・2と、尾根筋付近で多く出土しており、これはナイフ形石器に類似した出土傾向である。細石核と細石刃という密接な関係を持った両者であるにもかかわらず、出土傾向は一致しない。玻璃質安山岩製のフレイク・チップは、ナイフ形石器と石鐵の中間的な出土傾向を示し、尾根筋丘陵部から南側よりの斜面上位にかけて多く出土する傾向が見られる。

黒曜石製・流紋岩製・水晶製・チャート製の遺物は、出土点数が少ないとおり明確な出土傾向は示さなかった。

今回の調査での出土傾向と、第1次発掘調査での出土傾向とを合わせて、羽佐島遺跡における遺物の出土傾向を巨視的に捉えてみることにしよう。

ナイフ形石器に代表される国府文化期に属する遺物は、羽佐島の北側丘陵頂部付近で出土の集中がピークとなり、尾根筋鞍部に沿って若干出土が集中する地点が数箇所認められる。今回の調査区で多く出土する南側丘陵頂部は、全体から見れば集中箇所とは見られない。

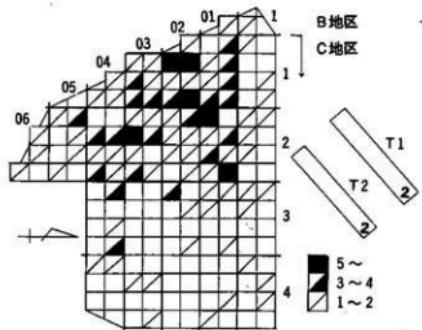
これに対して、縦長剣片・同石核は、羽佐島の中央部に当る尾根筋鞍部での集中が最高であり、南北両丘陵頂部付近で若干集中する箇所が認められる。そして、縦長剣片関係の遺物が集中する箇所には、細石刃・同石核及び玻璃質安山岩製の遺物も多く出土する傾向が見られるが、この傾向は北側丘陵頂部よりも南側丘陵頂部の方がより顕著である。ただ、サヌカイト製の細石刃だけは、北側丘陵頂部付近でも南側丘陵頂部付近に劣らず出土している。

細石核の出土傾向を見ると、遺物の出土量が少ない今回の調査において細石核の出土が極めて多かったことを示すように、2回の調査で出土した細石核の約70%に当る80点が南側丘陵部からの出土である。

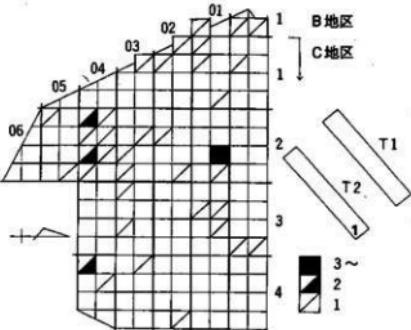
以上の出土傾向から、国府文化期に属する旧石器は羽佐島の北側丘陵部付近で多く出土しており、細石器文化期に属する旧石器となると南側丘陵部付近で多く出土する傾向が認められる。小さな羽佐島において生活環境を変える必要があったか否かは不明であり、現時点では、長期にわたって数多くの遺物集中箇所が重なった結果形成されたものとして認識するにとどめておきたい。

また、今回の調査では、玻璃質安山岩製1点・黒曜石製1点・水晶製2点の計4点のナイフ形石器をはじめ、玻璃質安山岩製1点・流紋岩製1点の計2点の石鐵、チャート製有舌尖頭器1点、流紋岩製舟底形石器1点、黒曜石製細石刃1点の計9点のサヌカイト以外の石材を用いた石器が出土している。特に、水晶製のナイフ形石器・玻璃質安山岩製の石鐵・チャート製の尖頭器は前回の調査では出土しなかったものである。

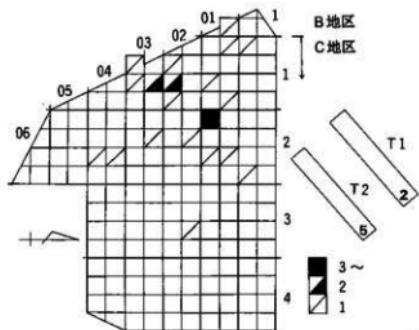
これまで、細石器に伴う比較的短期間に石材として用いられたと考えられていた玻璃質安山



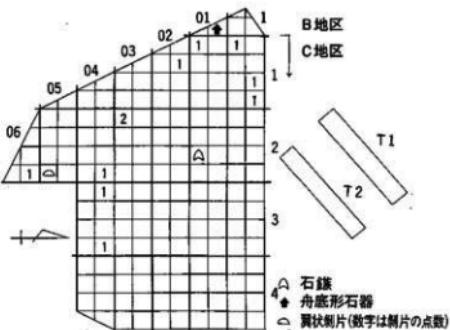
第32表 玻璃質安山岩製剝片出土分布表



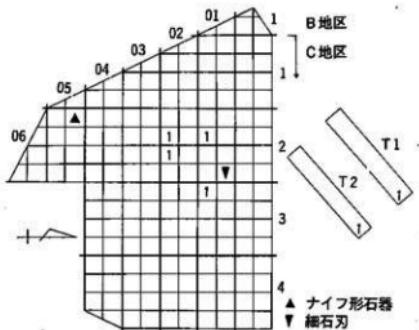
第33表 玻璃質安山岩製細石核出土分布表



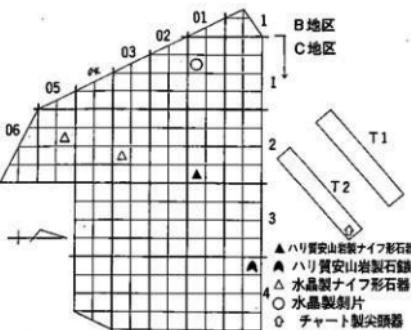
第34表 玻璃質安山岩製細石刃出土分布表



第35表 流紋岩製品・剝片出土分布表



第36表 黒曜石製品・剝片出土分布表



第37表 玻璃質安山岩製ナイフ形石器・石錐及び水晶製剝片・ナイフ形石器・チャート製尖頭器出土分布表

石材	ナイフ形器	石錐	尖頭器	舟底形石器	翼状削片	細石刃	細石核
玻璃質安山岩	1	1				32	43
黒曜石	1					1	
流紋岩		1		1	1		
水晶	2						
チャート			1				

第38表 異石材製品一覧表

岩が石錐として用いられていることは、出土が1点のみであり断言することはできないが、従来の考え方を修正する材料となるものかもしれない。

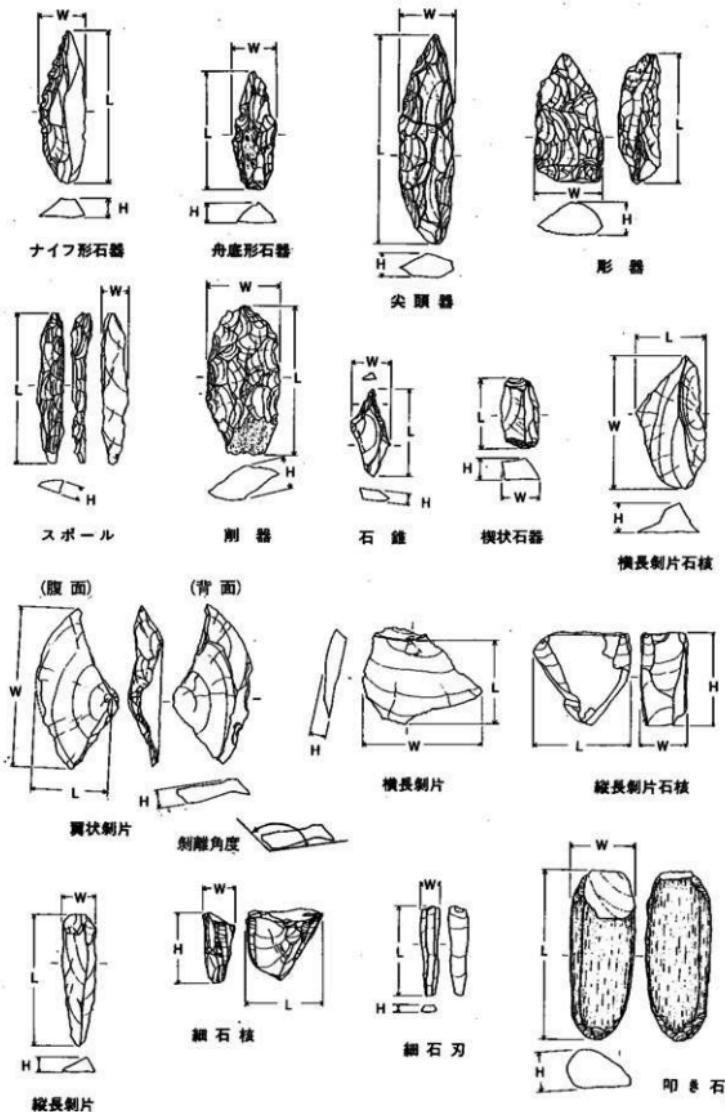
またチャートに関しては、玉城一枝氏の分析によれば、島嶼部遺跡から出土したチャートは色調から青緑色・灰白色・暗褐色を呈する3種類があり、特に青緑色を呈するチャートは敲打により表面がつぶれており、明確な旧石器としては使用されていない可能性が高いとされた。今回出土した有舌尖頭器に用いられたチャートは灰白色を呈しており、大浦遺跡出土の暗褐色チャートを石材とする細石刃と合わせて、チャートも材質によっては石器の石材として用いられていることが明らかとなった。また、今回の調査で青緑色のチャートは出土していないことから、旧石器の石材としては島嶼部では使用されていない可能性が高いことを指摘することができよう。

こうした異石材を用いた石器のほかにも滑石製勾玉・銅製帶金具が各1点出土しており、旧石器時代の遺物が多いなかで注目されるものであろう。

繩文期以降と考えられる土器片も多数出土したが、有溝土錐1点を除きすべて細片であり、明確な遺構も伴わないとから編年的に資料化することはできなかった。

註

藤好史郎・玉城一枝・中本雅之「初田遺跡」「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財調査概報(VI)」 1983 香川県教育委員会



第 66 図 羽佐島遺跡出土主要遺物計測基準図

第39表 ナイフ形石器観察表

実測 図 番 号	法 則	重 量	幅 長さ	厚 き	石 質	残存度	材 素	形 態	施 工	二次調整の範囲		形 状 数	N面 底面 数	断 面 数	出土地点
										打 面	側 面				
1	47.6	16.5	7.5	4.9	サヌカイト	先端部破損 翼状剥片切 開の剥片	基部は幅広。背面下部に自然面あり。基部に打面を残す。	翼状剥片 アースト レイク	先端部を打面に削り、背面に打点を持つ。	先端部から中央にかけて自然面あり。背面に打面を残す。	先端部を打面に削り、背面に打面を残す。	半端部外壁 なし	刃部は内壁 半端部外壁	1	1 台 形 C1・2・b s
2	41.4	14.0	11.5	7.5	n	基部破損 翼状剥片切 開の剥片	背面先端部から中央にかけて自然面あり。背面に打点を持つ。	翼状剥片 アースト レイク	背面先端部の打面を残し、背面に打点を持つ。	背面先端部から中央にかけて自然面あり。背面に打面を残す。	背面先端部の打面を残す。	半端部外壁 なし	刃部は外壁 半端部外壁	1	1 四角形 C331・c n
3	29.2	21.3	9.0	6.2	n	周端破損 翼状剥片切 開の剥片	背面に自然面を大きく残す。	翼状剥片 アースト レイク	背面に自然面を大きく残す。	背面に自然面あり。	背面に自然面あり。	金城 なし	刃部は外壁 半端部外壁	1	1 台 形 C1・1・c n
4	27.4	16.8	10.5	3.5	n	基部破損 翼状剥片切 開の剥片	先端は尖る。背面下部に自然面あり。	翼状剥片 アースト レイク	先端は尖る。背面下部に自然面あり。	背面下部に自然面あり。	全城 なし	刃部は外壁 半端部外壁	1	1 四角形 第1レンチ	
5	52.2	17.0	8.8	6.8	n	刃部を塗か れた剥片	先端部は尖る。基部は尖らない。背面中央から基部 にかけて剥片剥片の打面を残す。底面に打点あり。	翼状剥片 アースト レイク	先端部は尖る。基部は尖らない。背面中央から基部 にかけて剥片剥片の打面を残す。底面に打点あり。	背面中央から基部よりから基部よりから基部より にかけて剥片剥片の打面を残す。	背面中央から基部よりから基部よりから基部より にかけて剥片剥片の打面を残す。	全城 なし	刃部は外壁 半端部外壁	1	1 台 形 C041・d s
6	46.4	16.4	8.1	4.9	n	基部破損 刃部を塗か れた剥片	先端部は尖る。基部は薄くなり幅広。背面下部に打点あり。	翼状剥片 アースト レイク	先端部は尖る。基部は薄くなり幅広。背面下部に打点あり。	背面中央から基部よりから基部よりから基部より にかけて剥片剥片の打面を残す。	背面中央から基部よりから基部よりから基部より にかけて剥片剥片の打面を残す。	全城 なし	刃部は外壁 半端部外壁	1	1 台 形 C321・b n
7	57.6	18.4	6.7	7.4	n	先端破損 翼状剥片切 開の剥片	背面中央先端よりから先端よりから先端より にかけて剥片剥片の打面を残す。	翼状剥片 アースト レイク	背面中央先端よりから先端よりから先端より にかけて剥片剥片の打面を残す。	背面中央先端よりから先端よりから先端より にかけて剥片剥片の打面を残す。	背面中央先端よりから先端よりから先端より にかけて剥片剥片の打面を残す。	全城 なし	刃部は外壁 半端部外壁	1	1 台 形 C332-d n
8	60.0	17.6	9.1	7.8	n	基部を塗か れた剥片	先端部は尖る。背面は薄くなり幅広。背面下部に打点あり。	翼状剥片 アースト レイク	先端部は尖る。背面は薄くなり幅広。背面下部に打点あり。	背面は大きくなり幅広剥片の打面を残す。	背面は大きくなり幅広剥片の打面を残す。	先端部から底面 にかけて剥片剥片の打面を残す。	刃部は外壁 半端部外壁	1	1 台 形 C021・c n
9	44.2	19.7	5.4	4.9	n	周端破損 翼状剥片切 開の剥片	背面は大きくなり幅広剥片の打面を残す。	翼状剥片 アースト レイク	背面は大きくなり幅広剥片の打面を残す。	背面は大きくなり幅広剥片の打面を残す。	背面は大きくなり幅広剥片の打面を残す。	先端部は外壁 半端部外壁	1	1 台 形 C332-b n	
10	42.7	24.2	8.9	9.8	n	基部破損 刃部を塗か れた剥片	先端部は尖る。刃部を塗かれた剥片	翼状剥片 アースト レイク	先端部は尖る。刃部を塗かれた剥片	背面先端部から背面 にかけて剥片剥片の打面を残す。	背面先端部から背面 にかけて剥片剥片の打面を残す。	全城 なし	刃部は外壁 半端部から背面 にかけて剥片剥片の打面を残す。	1	1 台 形 C022-d s
11	39.4	25.5	8.3	7.2	n	基部破損 刃部を塗か れた剥片	先端部は尖る。刃部を塗かれた剥片	翼状剥片 アースト レイク	先端部は尖る。刃部を塗かれた剥片	背面先端部から背面 にかけて剥片剥片の打面を残す。	背面先端部から背面 にかけて剥片剥片の打面を残す。	全城 なし	刃部は外壁 半端部から背面 にかけて剥片剥片の打面を残す。	1	1 四角形 C052-d n
12	41.2	17.8	9.8	7.8	n	先端部破損 刃部を塗か れた剥片	先端部を一部 欠失する。	翼状剥片 アースト レイク	先端部を一部 欠失する。	背面は先端部から中央にかけて剥片剥片の打面を残す。	背面は先端部から中央にかけて剥片剥片の打面を残す。	全城 なし	刃部は外壁 半端部から背面 にかけて剥片剥片の打面を残す。	1	1 台 形 C023-b s
13	36.0	19.4	6.6	4.6	n	周端破損 翼状剥片切 開の剥片	先端部を一部 欠失する。	翼状剥片 アースト レイク	先端部を一部 欠失する。	背面は先端部から中央にかけて剥片剥片の打面を残す。	背面は先端部から中央にかけて剥片剥片の打面を残す。	全城 なし	刃部は外壁 半端部から背面 にかけて剥片剥片の打面を残す。	1	1 台 形 C023-d s
14	63.2	19.9	8.8	8.6	n	基部部破損 翼状剥片切 開の剥片	先端部を一部 欠失する。	翼状剥片 アースト レイク	先端部を一部 欠失する。	背面は先端部から中央にかけて剥片剥片の打面を残す。	背面は先端部から中央にかけて剥片剥片の打面を残す。	全城 なし	刃部は外壁 半端部から背面 にかけて剥片剥片の打面を残す。	1	1 台 形 C023-b n
15	77.7	25.3	9.3	18.4	n	先端部破損 刃部を塗か れた剥片	先端部を一部 欠失する。	翼状剥片 アースト レイク	先端部を一部 欠失する。	背面は幅広。大形 基部は尖らない。背面先端部に複数の小切削痕がある。 基部は尖らない。背面先端部に複数の小切削痕がある。 基部は尖らない。背面先端部に複数の小切削痕がある。	背面は幅広。大形 基部は尖らない。背面先端部に複数の小切削痕がある。 背面は幅広。大形 基部は尖らない。背面先端部に複数の小切削痕がある。	全城 なし	刃部は外壁 半端部外壁	1	1 台 形 C1・1・c s
16	53.3	21.4	10.5	9.9	n	先端部破損 翼状剥片切 開の剥片	先端部を一部 欠失する。	翼状剥片 アースト レイク	先端部を一部 欠失する。	背面は幅広。大形 基部は尖らない。背面先端部に複数の小切削痕がある。 背面は幅広。大形 基部は尖らない。背面先端部に複数の小切削痕がある。	背面は幅広。大形 基部は尖らない。背面先端部に複数の小切削痕がある。	全城 なし	刃部は外壁 半端部外壁	1	1 四角形 C1・1・d n
17	53.5	20.3	8.4	9.2	n	周端破損 翼状剥片切 開の剥片	先端部を一部 欠失する。	翼状剥片 アースト レイク	先端部を一部 欠失する。	背面は幅広。大形 基部は尖らない。背面先端部で削減	背面は幅広。大形 基部は尖らない。背面先端部で削減	全城 なし	刃部は外壁 半端部外壁	1	1 台 形 B11-s

(ナイフ形石器)

東西 番号	法 盤 長さ	幅 締 厚さ	重量 g	石 質	残存度	來 村	形	施	二次整理の範囲			N面 数	断 面	形 状	出 土地 点
									打 面	側 面	刃 部				
18	60.7	13.5	5.8	4.5	サスカイト	完形	翼状剥片	先端部は鋭く尖る。基部は幅広。	全端	なし		1	台	形 Cb1-2-c s	
19	40.2	12.1	5.9	3.7	n	閃晶石質 閃晶石	翼状剥片	先端部に打面が2面見られる。 他の剥離面が2面見られる。	全端	先端部に唇 面から脇 面離接部	万能部が外 露する。	1	台	形 C1-3-d n	
20	55.5	16.4	7.5	5.5	n	完形	翼状剥片	先端部は尖り幅広。打面離接部に 打面を残す。 基部は尖らず自然面を残す。	全端	先端から基 部付近	万能部が外 露する。	1	台	形 C1-3-c n	
21	44.8	16.9	6.6	4.7	n	先端破損	翼状剥片	基部は尖らず自然面を残す。	全端	基部	万能部が外 露する。	1	台	形 C01-1-a s	
22	39.4	20.2	9.9	7.7	n	先端部破損	翼状剥片	基部は尖らず打面側に自然面を残す。	全端	なし	万能部・打面	1	台	形 C04-4-c s	
23	44.6	18.5	6.3	5.2	n	閃晶石質 刃部欠失 剥離部及び 脇部を僅かに 残す。	翼状剥片	主翼部裏面に打面があり。	先端から基 部付近	なし	万能部が外 露する。	1	台	形 C1-2-c s	
24	43.3	19.6	4.4	4.6	n	閃晶石質 刃部欠失 剥離部及び 脇部を僅かに 残す。	翼状剥片	底面基部に打点のない剥離痕が2面見られる。	下半部に見 られる。	なし	万能部が外 露する。	1	台	形 C01-1-a s	
25	42.1	16.7	7.7	5.5	n	基部破損	翼状剥片	先端部は尖る。先端部に打面を残す。	全端	なし	万能部が外 露する。	1	台	形 C02-3-b s	
26	43.4	15.0	6.0	4.2	n	閃晶石質 刃部欠失 剥離部	翼状剥片	基部に僅かに打面を残す。	全端	なし	万能部が外 露する。	1	台	形 C02-1-b n	
27	41.4	18.2	7.4	5.6	n	閃晶石質 刃部欠失 剥離部	翼状剥片	基部付近の主要剥離部は垂直の影響で不規則に及 ぶ。	全端	なし	万能部・打面	1	台	形 C01-3-b n	
28	42.6	13.6	6.8	3.6	n	基部破損	翼状剥片	先端部が尖る。万能部裏面から2 次剥離あり。	全端	基部	万能部が外 露する。	1	台	形 C02-1-b n	
29	38.3	13.9	4.4	1.9	n	基部破損	翼状剥片	先端部は尖る。	全端	なし	万能部が外 露する。	1	台	形 C01-3-b n	
30	42.1	17.4	8.4	5.4	n	先端を僅か に削除 基部破損	翼状剥片	先端部は薄くなる。	先端を削ぎ 全端	なし	万能部が外 露する。	1	台	形 C05-2-b n	
31	39.8	17.6	7.7	4.4	n	基部破損	翼状剥片	先端部は尖る。 上半部はやや肉厚	全端	なし	万能部が外 露する。	1	台	形 C03-2-a n	
32	34.6	19.4	8.8	6.6	n	基部剥離 刃部を一部 欠失	翼状剥片	先端部は尖らず幅広。 (上下逆)	全端	基部	万能部・打面 部共に直面 状	1	台	形 C02-2-a s	
33	37.5	16.2	7.7	5.8	n	基部破損	翼状剥片	先端部を僅かに脇部から脇面から 剥離痕が残る。	下半部	基部及び 脇部	万能部が外 露する。	1	台	形 C02-1-b n	
34	38.3	19.8	8.7	6.7	n	閃晶石質 刃部	翼状剥片	基部折損の後、調整を施した模様あり。	全端	なし	万能部・打面 部共に外 露する。	1	台	形 C06-2-c s	

(ナイフ形石器)

実測 図 番 号	法 量	幅 長さ	厚さ	重量	石 質	残存度	素 材	形 態	二次要素の範囲		形 状 数	N面 底面 数	断 面 数	出土地点
									打 面	側 面				
35	36.6	14.0	9.0	4.0	サスカイト	両端破損	翼状剥片	主張の範囲の片面側には背面側からの剥離痕が多 数見られる。	全城	なし	刃部は内弯 打面側は山彫	1	1	台 形 C1・1・d n
36	33.7	15.6	7.9	4.9	n	両端破損	翼状剥片	基部付近のネガティブな切妻は擦過剥離跡味に及 ぶ。	全城	なし	刃部・打面 共に外弯	1	1	台 形 第1レシチ
37	33.8	13.6	9.6	3.9	n	両端破損	翼状剥片	底面の裏剥離に相当する万部は欠失する。	全城	なし	刃部・打面 偏共に外弯	1	1	四角形 C02・2・b n
38	34.7	18.6	4.6	2.8	n	基部破損	翼状剥片	先端は尖る。扁平。	全城	中央	万部・打面 偏共に外弯	1	1	四角形 C1・4・a s
39	25.6	16.7	9.2	4.2	n	先端破損 基部を傷 からに欠失	翼状剥片	基部は尖らない。主要剥離面の基部に末端方向か らの小剥離痕あり。	全城?	全城?	万部・打面 偏共に外弯	1	1	四角形 C02・1・a n
40	70.1	20.2	9.4	10.5	n	先端破損	翼状剥片	万部は既に尖ら ない。(上下逆) 万部下半部に剥離面から の二次調整あり。	全城	下半部	万部・打面 偏共に外弯	1	2	四角形 C02・1・d n
41	59.2	25.4	10.0	13.3	n	両端破損 刃部を一部 欠失	翼状剥片	上部の底面は、刃部方向からの剥離。刃部下半 部に主張剥離面から の二次調整あり。	全城	下半部	刃部・打面 偏共に外弯	1	2	四角形 C02・1・b n
42	66.8	23.3	7.7	12.0	n	基部破損	翼状剥片	先端は尖る。	全城	なし	刃部・打面 偏共に外弯	3	1	台 形 C02・1・b n
43	40.1	15.3	7.2	4.2	n	刃部を傷か に欠失	翼状剥片	先端は尖る。基部は尖らず打面を利用。	全城	なし	万部・打面 偏共に外弯	1	2	台 形 C01・2・a s
44	60.6	16.3	10.5	9.6	n	基部を傷か に欠失	翼状剥片	先端は既く尖らない。基部は細広。	全城	なし	万部・打面 偏共に外弯	3	1	台 形 C1・3・c s
45	58.5	18.2	8.8	8.0	n	刃部を傷か に欠失	翼状剥片	先端は既く尖らない。基部は既に自然面を残す。底面に背面か らの小剥離痕が前面に見られる。	全城	なし	万部・打面 偏共に外弯	2	1	四角形 C02・1・d n
46	58.7	15.7	6.8	5.4	n	完形	翼状剥片	先端は尖る。基部は細広。基部に打面を残す。 先端から基 部付近	全城	なし	万部・打面 偏共に外弯	3	1	台 形 C03・2・b s
47	50.7	15.0	8.1	6.5	n	両端破損	翼状剥片	打面剥離部に自然面あり。	全城	なし	万部・打面 偏共に外弯	3	1	台 形 C01・2・d n
48	38.1	15.0	7.2	4.0	n	両端破損 刃部先端部 欠失	翼状剥片	刃部に數ヶ所小剥離痕あり。	全城	なし	刃部・打面 偏共に外弯	2	1	四角形 第1レシチ
49	46.9	13.8	7.8	5.6	n	基部破損	翼状剥片	先端は尖る。万部中央部に小剥離痕が数個あり。	全城?	先端	刃部・打面 偏共に外弯	2	1	四角形 C01・2・c n
50	28.6	22.0	7.4	5.2	n	両端破損	翼状剥片	万部側の底面は3回にわたって施す。	全城?	?	1	1	四角形 B1・d s	
51	55.1	29.3	15.8	20.5	n	両端破損	翼状剥片	内厚、大形。	全城	なし	刃部・外弯	2	1	- B01・s

(ナイフ形石器)

実測 番号	法 量	幅 幅	厚さ 厚さ	重量 重さ	石 質	残存度 残存度	素 材	形 態	二次調整の範囲			N面 面数	断面 数	出土地点
									打面側	刃部側	形状			
52	47.3	17.6	8.3	6.4	サヌカイト	阿蘇産 阿蘇産	翼状制片	基部に打面を残す。刃部に小剣縫合あり。	全城	なし	刃部は外壁 打面側は山形 翼	1	1	C013-c s
53	59.1	22.7	11.0	14.7	η	先端破損 翼状制片?	基部は尖る。底面に打点を持つ。刃部の中央部に 小剣縫合?	全城	なし	刃部は外壁 打面側は山形	2	1	四角形 C023-d n	
54	36.6	15.2	6.6	3.5	η	基部破損 (削落せる)	翼状制片?	先端は尖る。背面側基部に未端方削りの剣縫合。 基部に打面を残す。主要剣縫合に打点あり。	全城	なし	刃部付近 打面側は山形	1	1	四角形 C032-d n
55	33.6	22.9	5.4	3.8	η	基部破損 刃部を残すか に欠失	翼状制片?	先端は尖る。底面に打面を残す。刃部に微細な剣縫合 が残る。	全城	なし	刃部は外壁 打面側は山形	1	1	台形 C042-c n
56	55.8	16.8	7.9	6.6	η	先端 基部を残すか に欠失	翼状制片?	刃部が尖る。底面に打面を残す。刃部に微細な剣縫合 が残る。	全城	なし	刃部付近 打面側は山形	4	1	台形 C033-c n
57	47.4	17.7	7.9	5.3	η	先端破損 基部を残すか に欠失	翼状制片?	先端は尖らしない。基部は薄く扁平。	上半部	なし	刃部・打面 側共に外壁	3	1	四角形 C024-b n
58	53.6	17.8	8.5	6.9	η	先端破損 基部を残すか に欠失	翼状制片?	先端は尖らしない。主要剣縫合から剣縫合が残る。	全城	なし	刃部・打面 側共に外壁	1	1	台形 C014-c n
59	42.5	18.0	7.8	5.2	η	先端破損 基部を残すか に欠失	翼状制片?	先端は尖らず扁平。主要剣縫合から剣縫合が残る。	全城	なし	刃部は外壁 打面側は山形	2	1	台形 C031-c n
60	34.0	17.0	10.5	4.4	η	基部破損 基部を残すか に欠失	翼状制片?	先端は尖らない。	全城	なし	刃部・打面 側共に外壁	1	1	三角形 C031-b n
61	34.5	16.4	8.5	3.5	η	先端欠 基部破損 刃部を残すか に欠失	翼状制片?	背面側に底面から剣縫合が残る。底面 に打面側に付ける。刃部は底面から剣縫合が見られる。	全城	なし	刃部は外壁 打面側は山形	1	1	三角形 C011-a s
62	48.1	22.4	11.5	9.2	η	先端破損 刃部を残すか に欠失	翼状制片?	主要剣縫合の基部に打面を残す。刃部は底面 から剣縫合が残る。	基部	なし	刃部は外壁 打面側は山形	1	1	三角形 C011-a s
63	40.0	17.6	5.7	3.9	η	打面側下半 不明 刃部に欠失	翼状制片?	先端は尖らない。背面に打面を残す。主要剣縫合から剣縫合 が残る。	上半部に残 る。	なし	刃部は外壁 打面側は山形	1	1	台形 C013-c s
64	46.0	34.1	9.0	14.9	η	両端破損 不明	不明	細い剣縫合あり。	中央	なし	刃部は底面 打面側は山形	2	1	台形 C011-a s
65	46.6	16.2	7.3	5.6	η	基部破損 刃部及び基 部破損	不明	先端は尖らない。	全城	なし	刃部は外壁 打面側は山形	3	1	四角形 C011-a n
66	36.0	17.7	7.5	3.9	η	先端及び基 部破損	不明	先端は尖らない。刃部全城に主要剣縫合から剣縫合 が残る。	全城	なし	刃部は外壁 打面側は山形	2	1	四角形 C032-a n
67	35.2	16.1	17.6	3.4	η	基部破損 刃部を一部 に欠失	不明	先端は尖る。刃部先端及び中央に小剣縫合あり。	全城	なし	刃部・打面 側共に外壁	1	1	三角形 C023-d n
68	32.0	14.7	8.4	2.4	η	先端欠 基部破損	翼状制片?	刃部に残る所小剣縫合あり。ネガティブな面は既 端的に残る。	全城	なし	刃部は外壁	2	1	台形 C023-d n

(ナイフ形石器)

美國 國 器 番 号	法 量	長 さ	幅 さ	厚 さ	石 質	残 存 度	素 材	形 態	二 次 雕 刻 の 範 囲	刃 部 側	形 状 数	新 面 数	出 土 地 点
69	29.6	15.3	9.3	2.7	サヌカイト	基盤破損	楔長剣片?	先端は尖らない。ネガティブな面は装飾的に残る。	全城	なし	刃部は外壁 打面側は直 角状	2	1 台 形 C04-2-c n
70	34.2	18.2	7.2	3.8	n	基盤破損	不明	先端は尖らず斜面利用か。	全城	なし	刃部は外壁 打面側は直 角状	1	1 台 形 C02-1-b n
71	43.8	20.4	7.2	5.7	n	周端破損	翼状剣片?	底面先端部は刃部方向からの加筆の剥離面。	全城	なし	万部 刀面 側外壁	2	三角形 C04-3-d s
72	53.2	22.8	11.2	9.9	n	先端破損	楔長剣片? 初端	基部は尖る。底面の打点は近い。主要剥離面基部 に先端方向からの剥離痕あり。	先端部	なし	万部 外壁	1	四角形 C1-1-c n
73	53.9	18.2	8.2	7.2	n	周端破損	楔長剣片?	先端部は薄くなる。刃部先端付近に小剥離痕あり。	全城	なし	万部 刀面 側外壁	3	1 四角形 C04-1-c n
74	48.4	15.0	9.1	4.7	n	光形	楔長剣片? 初端	周端が尖る。底面の打点は近い。	中央先端よ りから基部	なし	万部 刀面 側外壁	1	1 四角形 C02-1-d n
75	44.1	18.6	7.4	5.9	n	基部欠失	楔長剣片? 初端	先端は尖る。基部は幅広。背面に打痕を残す。	全城	なし	万部 外壁	1	3 四角形 C01-1-c s
76	37.3	16.6	8.0	4.1	n	先端欠失	楔長剣片	基部は僅くなり幅広。底面の打点は近い。	全城	なし	万部 外壁	1	1 四角形 C1-3-c-s
77	57.2	13.8	8.5	6.0	n	刃部の基部 欠失	楔長剣片	先端は尖らない。基部に僅かに自然面あり。	全城	先端より	万部 刀面 側外壁	1	1 四角形 第2トレンチ
78	45.1	20.2	7.2	4.6	n	周端破損	楔長剣片?	主要剥離面側には大きく打面と打点を残す。底面 は先端方向からの加筆。	全城	なし	万部 刀面 側外壁	1	1 四角形 C1-1-d s
79	41.5	16.5	9.4	4.4	n	周端破損	楔長剣片	主要剥離面には大きく打面と打点を残す。	上半部	なし	万部 外壁	1	1 四角形 C02-2-a n
80	40.2	16.4	7.8	4.2	n	周端破損	楔長剣片?	底面は上半部のみに残る。上半部は下半部に比べ 肉質。	全城	基部	万部 外壁 打面側は直 角状	1	1 四角形 C01-2-b n
81	36.0	16.5	8.0	3.9	n	先端破損	楔長剣片	基部は尖らない。刃部に小剥離痕が見られる。	全城	なし	万部 底面 打面側は外 壁	1	1 四角形 C01-1-a n
82	33.5	15.1	7.4	3.1	n	先形	楔長剣片	先端は尖る。基部は尖らない。刃部に小剥離痕も 有り。	全城	なし	万部 底面 打面側	1	1 四角形 第2トレンチ
83	44.4	13.9	6.2	4.1	n	周端欠失	楔長剣片	底面基部に背面から的小剥離面あり。	先端から基 部より打面側は外 壁	なし	万部 底面 打面側	3	1 四角形 C02-1-d n
84	43.6	17.3	7.2	4.8	n	周端を僅か に欠失	楔長剣片	周端が尖らず幅広。	万部 底面	なし	万部 底面	3	1 台 形 C04-2-c-s
85	44.4	21.6	9.3	7.9	n	周端破損	楔長剣片	主要剥離面側の下半部に打面を持ち打点を有す る。	先端から中 央基部より	なし	万部 打面側は山形	2	1 台 形 C03-4-a-s

(ナイフ形石器)

実測 法 番	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重量 g	石 質	残 存度	素 材	形	態	二次鑿撃の範囲			N面 数	新 面 数	出土地点	
										打面側	刃部側	形 状 数				
86	44.1	17.3	8.9	6.1	サヌカイト	基部破損	楔長剣片	頭部が尖らない。基部に打面あり。	頭部から基部付近にかけて	刃部は外壁	なし	4	1	四角形	C02-2-a s	
87	37.0	14.8	5.2	2.1	II	完形	楔長剣片	頭部が尖る。扁平。刃部先端及び中央部に小切離	先端から中央部にかけて	刃部・打面	なし	3	1	台形	第1レンチ	
88	35.2	13.6	6.6	2.5	II	完形	楔長剣片	先端部は鋭く尖らない。基部は薄くなり幅広。刃部	先端から中央部にかけて	刃部・打面	なし	3	1	台形	第2レンチ	
89	29.8	16.0	6.5	2.3	II	先端破損、刃部欠失	楔長剣片	先端部は細く尖らない。	全端	なし	万能は外壁	3	1	四角形	C02-1-c s	
90	32.7	12.6	6.2	2.2	II	完形	楔長剣片	先端は尖る。基部は尖らない。	全端	なし	万能・打面	2	1	四角形	C01-1-a s	
91	28.3	14.0	4.9	1.6	II	先端破損、基部破損	楔長剣片	先端部に打面を残す。	先端から中央部より	基部	なし	万能・打面	2	1	四角形	C02-2-a s
92	23.3	12.8	6.5	1.6	II	基部破損	楔長剣片	先端は尖らない。小形。	下半部	なし	万能は外壁	2	1	四角形	C03-2-a s	
93	36.6	17.0	8.6	4.2	II	両端破損	楔長剣片	主張割面基部前から末端方向からの剥離面あり。	先端から基部まで	万能は外壁	2	1	四角形	C01-1-a n		
94	48.3	19.5	8.2	7.3	II	先端部破損	楔長剣片	基部は尖る。	先端から中央部まで	万能は外壁	2	2	四角形	C04-1-c n		
95	44.0	17.0	7.8	5.2	II	先端部破損	楔長剣片	基部は細く尖る。	先端から中央部まで	万能は外壁	3	2	四角形	C02-2-b n		
96	49.5	18.2	9.2	6.6	II	両端破損	楔長剣片	基部に打面を残す。	先端から中央部まで	万能は外壁	1	1	四角形	C03-4-d n		
97	35.4	14.0	7.5	3.5	II	基部破損	楔長剣片	先端は尖らず幅広。刃部先端部に小切離痕あり。	全端	なし	万能は直離状	3	1	四角形	C01-2-a s	
98	51.1	24.6	12.4	13.2	II	両端破損	楔長剣片	内厚	全端	基部	万能は直離状	2	1	四角形	C01-1-a n	
99	49.1	15.1	6.9	4.3	II	完形	楔長剣片	頭部が尖る。刃部に微小な剥離痕あり。	先端から中央部より	万能は外壁	なし	万能は直離状	5	1	四角形	C02-2-a n
100	50.7	21.4	9.6	8.3	II	基部破損	楔長剣片	先端は尖らず幅広。	全端	基部	万能は外壁	2	1	四角形	C1-3-a n	
101	45.0	20.9	11.4	10.3	II	先端部欠失	楔長剣片	基部は尖らない。基部に直離面からの剥離面あり。	全端	基部	万能は山形	3	1	四角形	第2レンチ	
102	42.4	16.4	9.7	5.2	II	両端破損	楔長剣片	万能に複数の微小な剥離痕あり。	全端	なし	万能は直離状	3	1	四角形	C02-2-c s	

(ナイフ形石器)

実測 番号	法 長さ	幅 幅	厚さ 厚さ	重量 g	石 質	焼存度	素 材	形 形	形 形	二次調整の範囲			状 状	N面 面数	断面 断面	出土地点
										打面側	刃部側	刃部側				
103	40.3	17.7	9.5	5.4	サヌカイト	先端破損	楔長剣片	基部は幅広。	全城	先端	刃部は直角状 打面側は外縁	刃部が山形 打面側は外縁	2	1	四角形	C021-d s
104	37.0	16.1	9.7	4.8	n	先端破損	楔長剣片	基部は幅広。	全城	なし	刃部は直角状 打面側は外縁	刃部が山形 打面側は外縁	2	1	四角形	C023-c n
105	25.4	15.6	6.4	2.2	n	基部破損	楔長剣片	先端は尖らない。小形。	全城	なし	刃部は直角状 打面側は山形	刃部は直角状 打面側は山形	2	1	四角形	C14-c s
106	61.8	22.6	10.6	12.6	n	刃部を遺失 に欠失	楔長剣片	先端は尖る。基部は尖らない。主要部前面から刃部打面側は外縁	全城	下半部	刃部は直角状 打面側は外縁	刃部は山形 打面側は外縁	2	2	四角形	C012-c s
107	44.1	14.2	8.8	4.3	n	完形	楔長剣片	先端は尖る。基部は尖らない。	全城	下半部	刃部・打面側 打面側は外縫	刃部・打面側 打面側は外縫	2	2	四角形	C12-a s
108	46.1	22.2	7.8	7.4	n	両端破損	楔長剣片	幅広	全城	なし	刃部は直角状 打面側は外縫	刃部は直角状 打面側は外縫	1	1	三角形	C021-d n
109	30.0	18.0	10.0	4.7	n	両端破損	楔長剣片?	主要部側は楔形を複数段に及ぶ。	全城	なし	刃部は外縫 打面側は外縫	刃部は外縫 打面側は外縫	1	1	三角形	C14-a n
110	31.7	10.8	6.8	2.0	n	完形	楔長剣片?	同端が尖らない。	全城	なし	刃部は外縫 打面側は外縫	刃部は外縫 打面側は外縫	1	1	三角形	C021-a n
111	25.6	14.5	4.9	1.4	n	完形	楔長剣片	同端が尖る。小形。	全城	なし	刃部は山形 打面側は外縫	刃部は山形 打面側は外縫	1	1	三角形	C052-d s
112	49.9	19.0	7.6	5.5	n	刃部を一部 欠失	楔長剣片	同端が尖る。基部は加算方向の異なる2面よりなり。	全城	中央先端より 外側に打面なし	刃部共に外縫	刃部共に外縫	2	2	三角形	C032-d n
113	51.8	22.5	11.7	10.4	n	完形	楔長剣片	同端が尖らない。主要部前面下部は刃部前方からの剥離。	全城	先端部を除く全城	刃部は外縫 打面側は外縫	刃部は外縫 打面側は外縫	1	1	四角形	B01-n
114	32.2	16.2	5.9	2.8	n	基部破損 に欠失	楔長剣片	先端は尖らない。刃部側に切り出しが付す。	全城	下半部	刃部は直角状 打面側は外縫	刃部は直角状 打面側は外縫	2	1	四角形	C011-d s
115	67.7	14.7	10.3	9.4	n	先端破損 に欠失	楔長剣片	先端は尖る。基部は幅広。刃部中央及び基部より	全城	なし	刃部は外縫	刃部は外縫	—	—	四角形	C041-c n
116	48.3	18.8	10.2	8.0	n	完形	楔長剣片	に主要部側からの剥離あり。	基部	中央から基 部にかけて	刃部は外縫	刃部は外縫	—	—	四角形	C14-a n
117	53.4	15.6	5.1	4.6	n	先端破損 に欠失	楔長剣片	同端が尖る。	終部	なし	刃部は外縫	刃部は外縫	—	—	台形	C12-d s
118	51.2	16.6	11.0	7.5	n	先端破損	不定形片	基部が尖る。基部は直角状。	中央部	全城	刃部は外縫	刃部は外縫	1	1	四角形	C023-b s
119	31.5	16.2	8.2	3.9	ハリヤマ岩	先端破損	楔長剣片	先端部が斜ら。背面部中央の打面側に背面から刃部打面側は外縫あり。	先端部を除く全城	全城	刃部は直角状 打面側は外縫	刃部は直角状 打面側は外縫	3	2	四角形	C012-c s

(ナイフ形石器)

実測 番号	法 量	幅 幅 厚さ	重量	石 質	残存度	材 料	形 態	二次側面の範囲			N面 面 数	新 面	出土地点	
								打 面	刃 部	側				
120	39.0	16.4	8.6	4.3	黒 曜 石	光 形	斜長斜片	先端は尖る。基部は幅広。底面は自然面。	上半部	先端部	刀部は外斜 刃部は内斜	-	四角形	C15*2・a n
121	33.4	20.2	9.4	4.9	水 晶	光 形	斜長斜片	先端は尖り出しがある。基部は尖らない。	-	-	刀部は直線状	-	四角形	C03*2・c s
122	22.8	27.7	8.8	5.4	水 晶	基部破損 刃部欠失	斜長斜片	不明	-	-	-	-	四角形	C15*2・b n

第40表 沖底形石器觀察表

測量 箇所 番号	法 量	幅 mm	厚さ mm	重量 g	石 質	甲板面	底 面	側 面	整 面	横 面	備 考	出土地点
1	57.1	16.1	9.5	8.4	サヌカイト	2	2	全周	台形			C1・b s
2	59.1	16.4	14.5	10.1	η	1	2	一側刃	三角形	基盤より先端に向う剥離あり。		C10・c s
3	49.6	18.6	10.4	9.5	η	1	2	全周	台形			C11・b s
4	46.9	15.1	9.0	4.6	η	1	2	一部鋒	η			C15・d s
5	38.0	16.1	9.5	5.0	流紋岩	1	2	η	η			B9・n
6	49.1	18.5	8.6	8.4	サヌカイト	1	4	η	η			C1・b s

第41表 尖頭器觀察表

測量 箇所 番号	法 量	幅 mm	厚さ mm	重量 g	石 質	形 態	素 材	調 整	面	横 面	備 考	出土地点
7	63.0	28.4	13.8	19.4	サヌカイト	木	木	同	面	③	橢長削片石核同面	C01・b s
8	66.0	14.3	6.6	4.9	η	η	擴長錐片石核	片	面	④	台形	C15・c s
9	44.9	27.7	7.6	11.8	サヌカイト	—	—	—	面	①	平行四辺形	C03・c s
10	31.5	19.3	6.7	5.2	η	—	—	—	片	①	四角形	C1・b s
11	22.6	23.5	4.3	2.5	η	—	—	—	同	①	舌状及び基部欠失。	C1・b n
12	44.3	29.8	8.5	10.5	η	η	—	—	片	①	三角形	C03・3・a s
13	44.2	18.9	6.7	5.0	チャート青	舌	—	—	同	下半部欠失。	C1・a s	
14	48.5	27.8	6.5	20.3	η	—	擴長錐片	—	—	—	未製品	C10・2・レ・ンチ 第2
												C15・2・c s

第42表 削器・ rasp觀察表

実測 番号	法 量	幅 幅	厚さ 厚さ	石 質	材 料	刃部形態	調整位置	調 整 量	備 考	出土地点
1	53.0	22.9	16.2	14.3	サスカイト	横長削片石核	内	湾 刃	器 片	面
2	63.0	36.0	13.2	27.2	n	横長削片石核	内	湾 刃	器 片	面 石器の可能性もある。
3	42.7	43.0	13.4	19.2	n	横長削片石核	外	湾 刃	器 片	面
4	65.8	31.2	7.4	18.5	n	不定形削片	内	湾 刃	器 片	面
5	78.5	54.4	9.3	52.4	n	横 長 削 片 外	湾 刃	器 片	面	C04-2-c n
6	81.7	41.5	15.3	60.2	n	不定形削片 外	湾 刃	器 片	面 両面加工の石器か。	C07-4-b n
7	44.5	25.4	8.4	9.7	n	横 長 刻 片 直	線 刃	器 片	面	C06-2-c n
8	165.1	50.6	6.4	40.8	n	横 長 刻 片 直	線 刃	器 片	面	C01-2-d n
9	66.9	38.4	7.0	21.1	n	横 長 刻 片 外	湾 刃	器 片	面	C06-2-d s
10	26.2	29.2	6.1	4.0	n	横 長 刻 片 直	線 撥	器 片	面	C1-2-b n
11	50.2	56.1	7.6	22.4	n	横 長 刻 片 直	線 撥	器 片	面 折れ面に調整を施す。	C1-2-a n
12	66.1	31.9	7.0	18.1	n	横 長 刻 片 直	線 刃	器 片	面	C01-4-a n
13	50.4	22.0	4.9	6.8	n	横 長 刻 片 直	線 刃	器 片	面	C01-3-c s
14	49.7	29.8	7.1	10.7	n	横 長 刻 片 直	線 刃	器 片	面	C08-2-d n
15	85.5	46.3	17.7	67.5	n	不定形削片 内	線 撥	器 片	面	C1-2-b n
16	93.0	69.1	5.8	37.3	n	横 長 刻 片 内	湾 刃	器 片	面	C06-2-d n
17	36.4	29.6	9.6	10.6	n	不定形削片 内	形 形 撥 器 片	面 截断面ある石器の素材とも考えられる。	C1-2-c s	
18	56.7	40.8	5.3	14.8	n	横 長 刻 片 内	形 形 撥 器 片	面	C04-3-b n	
19	81.1	43.0	8.6	30.9	n	横 長 刻 片 半 円	形 形 撥 器 片	面	C05-2-b s	
20	106.1	75.4	22.7	108.0	n	横長削片石核	外	湾 刃	器 片	C01-4-c s
21	73.6	35.1	10.7	22.3	n	横 長 刻 片 内	湾 刃	器 片	面 石器の可能性もある。	C1-4-b n
22	35.9	24.3	11.7	12.3	n	異 形 刻 片		(使用感ある刻片)	C1-2-c s	発2レンチ
23	58.6	21.4	11.4	12.6	n	横 長 刻 片				
24	46.1	18.7	4.7	4.1	n	異 形 刻 片		"		C01-2-b s
25	39.5	25.1	5.6	4.3	n	横 長 刻 片		"		C01-4-d n
26	55.7	40.3	8.8	16.9	n	横 長 刻 片		"		C1-3-c s

发掘 番号	法 量	幅 厚さ mm	重量 g	石 質	木 材	刃部形態	調整位置	調 整 機	備 考	出土地点
27	36.0	22.0	5.8	2.9	サスカイト	彫 長 刺 片			(使用歴ある刷片)	C011-a s
28	44.1	22.1	8.0	6.7	n	彫 長 刺 片				C022-c n
29	61.8	42.6	10.1	28.4	n	彫 長 刺 片 面	彫 削 前	彫 片 面		C052-d s

第43表 横状石器計測表

第44表 二次調整ある剝片計測表

実測 番号	法 量			石 質	出土地点	法 量	幅 長さ mm	幅 厚さ mm	測定 幅 厚さ mm	石 質	素 材	出土地点
	長さ mm	幅 mm	厚さ mm									
1	19.2	17.7	6.1	2.6 サヌカイト	C031-d n	1	51.9	36.5	13.3	22.5 サヌカイト	鋼製剝片石板	C022-a n
2	21.6	24.9	7.2	4.5	n	2	42.2	34.6	12.8	19.9	n	n
3	37.9	30.9	8.8	10.4	n	3	32.2	38.8	11.0	16.8	n	n
4	30.0	26.9	7.2	5.2	n	4	51.1	26.0	7.7	7.4	n	鋼長剝片
5	27.1	33.2	10.0	10.9	n	5	83.4	32.3	11.6	30.6	n	鋼長剝片石板
6	41.6	30.1	7.6	9.6	n	6	29.0	16.8	4.7	2.3	n	C012-c n
7	42.1	52.7	9.0	26.0	n	7	28.8	20.0	3.0	2.1	n	C021-c n
8	20.7	26.8	4.8	3.1	n	8	29.3	27.0	3.8	3.4	n	C062-d n
9	24.8	26.8	6.0	4.8	n	9	41.6	13.4	8.1	3.2	n	不定形剝片
10	27.5	21.0	7.0	4.5	n	10	43.3	22.0	7.9	6.7	n	C042-b s
11	38.8	38.1	8.2	12.6	n	11	62.0	20.4	9.6	14.8	n	鋼長剝片
12	27.8	21.2	5.5	4.5	n	12	61.0	20.4	9.6	14.8	n	B01-n
13	90.8	97.9	19.6	161.0	n	13	90.8	97.9	19.6	161.0	n	C014-a n
14	39.0	21.5	5.0	3.2	n	14	39.0	21.5	5.0	3.2	n	C012-b s
15	25.0	32.8	8.2	6.8	n	15	33.5	32.0	5.6	5.6	n	C031-b s
16	32.4	28.8	6.8	7.1	n	16	33.9	48.9	12.4	24.8	n	C043-a n
17	17.4	30.5	4.8	3.1	n	17	17.4	30.5	4.8	3.1	n	C052-a n
18	22.1	22.8	4.7	3.2	n	18	22.1	22.8	4.7	3.2	n	C044-a s
19	33.5	32.0	5.6	5.6	n	19	33.5	32.0	5.6	5.6	n	C023-s a s
20	33.9	48.9	12.4	24.8	n	20	33.9	48.9	12.4	24.8	n	C014-d s
21	37.0	22.1	5.8	5.8	n	21	37.0	22.1	5.8	5.8	n	C043-a n
22	40.3	19.8	5.3	4.9	n	22	40.3	19.8	5.3	4.9	n	C023-s a s
23	36.3	50.2	9.5	19.1	n	23	36.3	50.2	9.5	19.1	n	C024-c s
24	34.5	23.4	3.8	3.7	n	24	34.5	23.4	3.8	3.7	n	C13-c s
25	40.6	72.4	15.0	29.2	n	25	40.6	72.4	15.0	29.2	n	C052-d s
26	59.0	72.6	39.4	140.0	n	26	59.0	72.6	39.4	140.0	n	C11-a s

第45表 横長剥片石核観察表

系譜 番号	名 称	法 量	長さ 幅	厚さ 高さ	石 質	重 量	剥 離 率	剥 離 率	次 失 部	厚 さ	自 然 面	打 面	剥 離 面	剥 離 剥 片	打 離 面	出土地点	
1	實長剥片石核	79.1	31.0	17.6	36.4 サズカイト	66.2	—	—	—	—	—	—	—	—	C012-a s		
2	η	69.8	43.2	15.6	46.4	η	27.6	66.0	下端に一部	分厚い	背面下端	山形に調整	1	—	—	—	
3	η	61.9	38.3	20.9	57.5	η	11.3	22.5	下端に一部	分厚い	背面中央	山形に調整	1	—	—	—	
4	η	70.5	56.8	15.1	47.1	η	28.4	57.6	背面左側に一部	分厚い	背面中央	山形に調整	1	—	—	—	
5	η	43.6	33.1	13.8	22.0	η	9.2	31.9	上半部	分厚い	背面の大半	山形に調整	2	—	—	C033-c n	
6	η	58.7	43.7	16.4	37.7	η	26.6	41.6	背面とごくところに	分厚い	背面右側	山形に調整	2	—	—	C11-d n	
7	η	66.7	30.7	12.3	23.0	η	14.1	39.2	下端部	分厚い	背面下端	山形に調整	1	—	—	C023-b s	
8	η	69.6	47.2	19.4	48.2	η	21.8	37.4	背面下端	分厚い	背面下端	山形に調整	2	(1)	—	C022-a n	
9	η	72.1	41.3	17.9	35.4	η	19.9	53.4	高面右側	分厚い	背面中央	山形に調整	1	—	—	C013-d s	
10	橢長剥片石核	59.8	33.9	20.2	35.8	η	24.4	46.8	上端	分厚い	背面中央	檢 上	—	3	—	C012-c n	
11	η	51.9	22.6	13.5	22.3	η	15.9	31.6	—	—	—	—	—	—	—	C012-b s	
12	η	95.3	25.2	20.3	56.3	η	29.3	33.3	上端に一部	分厚い	背面下端	上端に近い芯面の一部	檢 上	—	2	—	C012-b s
13	η	59.2	36.8	10.1	17.0	η	22.2	68.9	—	—	—	—	—	—	5	—	C11-d n
14	η	68.9	31.2	16.8	32.7	η	22.7	50.0	—	分厚い	背面	剥離面	—	1	—	C052-b n	
15	η	54.5	36.6	16.1	30.0	η	21.6	33.3	上端に一部	分厚い	背面	剥離面	—	3	—	C11-d n	
16	η	63.4	39.0	14.1	28.3	η	20.5	47.5	上端に一部	分厚い	背面左上端部	剥離面	—	4	—	C042-c n	
17	η	50.2	28.3	12.5	15.4	η	14.9	31.7	上端にごく一部	分厚い	背面左上端部	剥離面	—	2	—	C012-b n	
18	η	47.7	38.3	13.8	20.3	η	19.4	38.0	上端に一部	分厚い	背面下端	剥離面	—	2	—	C032-c n	
19	η	101.6	62.2	22.6	117.0	η	49.0	51.7	背面左側に一部	分厚い	背面左上端	剥離面	—	2	—	C032-b n	
20	η	70.3	42.3	22.8	50.6	η	23.0	43.7	背面左側に一部	分厚い	背面左上端	剥離面	—	3	—	C042-a n	
21	η	55.2	29.4	14.5	17.6	η	20.7	36.7	上端に一部	分厚い	背面左側	剥離面	—	2	—	C032-a s	
22	η	53.5	30.1	18.4	22.1	η	20.7	25.1	上端に一部	分厚い	—	檢 上	—	4	—	C031-d s	
23	η	48.4	31.3	16.7	20.3	η	16.0	20.5	上端に一部	分厚い	—	—	—	2	—	C042-b s	
24	η	66.2	59.2	25.4	59.1	η	17.0	26.1	—	分厚い	—	—	—	3	—	C052-a n	
25	η	49.3	55.3	17.9	27.9	η	26.4	32.2	—	分厚い	—	—	—	1	—	C052-b n	
26	η	54.9	30.4	12.9	25.1	η	10.8	32.8	—	—	—	—	—	2	—	C032-c n	

(機長剣片石核)

発掘 番号	名 称	法 量	石 質	剝離質 長さ 幅	欠 失 部	厚さ 幅	自 然 面	打 面	剝 離 質 質 面	打 面 剝 離 片	出土地点
27	機長剣片石核	75.0	36.2	15.8	38.3	51.8	骨頭左端に一部 骨頭左端に一部	骨頭下端	—	3	C04*3*b n
28	n	44.7	42.3	24.1	51.0	41.5	骨頭左端に一部 骨頭左端に一部	—	上	2	B01*n
29	n	71.2	54.3	34.5	82.7	41.8	骨頭下端に一部	—	上	1	C1*2*a s

第46表 翼状剥片観察表

番号	英語名	法 量	縦 幅	厚 さ	重 量	石 質	残存度	形 態	打 面	削 面	形 状	刃部 数	刃部 打面部	外 輪 山 形	内 輪 山 形	断 面	制 度	出土地点	
1	(23.2)	55.0	7.2	16.2	10.4	サスカイト	下端破損	主要剝離面の打点は山形に調整された頂点にある。	粗く施した削面部を外輪山形に複数箇所に施す。	外 輪 山 形	3	1	四 角 形	128°	C02*2-a s				
2	(24.8)	56.0	5.6	19.5	6.4	H	下端破損	刃部を一部欠く。主要剝離面の打点は山形に調整された頂点にある。	粗く施した削面部を外輪山形に複数箇所に施す。	外 輪 山 形	1	1	台 形	126°	C02*4-c s				
3	(26.8)	57.8	5.6	19.5	6.4	H	下端破損	主要剝離面の打点は山形に調整された頂点にある。	粗く施した削面部を外輪山形に複数箇所に施す。	外 輪 山 形	1	1	四 角 形	128°	C1-1-c s				
4	(20.0)	54.5	8.0	11.5	8.8	H	光形	上端は尖る。底面は自然面。	大きめの2面削す。	外 輪 山 形	1	1	四 角 形	128°	C03*2-d s				
5	(12.5)	61.8	5.6	19.5	6.4	H	光形	背面打面側には、多數のミガティープ的な剝離面があり底面下部は折れ曲がりである。	山形からなる主要剝離面を上半部からなる主要剝離面へと変化する。刃部からなる主要剝離面が主として外輪山形である。	山 形	直線状	1	1	平行四辺形	125°	C04*1-d s			
6	(19.4)	48.2	7.9	15.4	7.0	H	下端破損	背面打面側下半部は主要剝離面からの剥離面であり、底面は下端方向からの剥離面。	山形からなる主要剝離面は主として外輪山形である。	山 形	直線状	1	1	平行四辺形	131°	C04*2-d s			
7	(14.6)	38.4	7.0	12.6	3.8	H	下端破損	上端は尖らない。	全体に丁寧に施された。	山 形	直線状	1	1	平行四辺形	131°	C04*1-d s			
8	(15.4)	32.4	4.0	17.3	2.4	H	両端破損	底面は下部に僅かに残る。	全体に丁寧に施す。	山 形	直線状	1	1	四 角 形	98°	C1-1-c s			
9	(17.6)	41.4	7.4	—	4.9	H	下端破損	主要剝離面の打点は除去されている。	上部は自然面から下部は主に削離面からなる二次剥離面である。	山 形	直線状	1	1	四 角 形	113°	C1-1-b s			
10	(18.4)	41.8	8.4	15.6	8.1	H	下端破損	上端に自然面残る。	3面見られる。	外 輪 山 形	1	1	四 角 形	138°	C02*2-a s				
11	(20.2)	53.9	6.8	23.3	7.2	H	刃部を複数箇所欠く。	底面は上端面にのみ残る。	全体に丁寧に施す。	外 輪 山 形	1	2	三 角 形	121°	C01*1-c s				
12	(23.3)	68.2	16.6	25.2	27.6	H	下端破損	上端は尖る。内厚で大差ある。	上端部は幅広で大いに削離する。	外 輪 山 形	4	1	四 角 形	125°	C02*1-b s				
13	(25.4)	63.2	9.2	12.1	15.5	H	刃部を一部欠く。	上端は尖る。下端は薄く細広。	全体に施す。	外 輪 山 形	4	1	四 角 形	122°	C04*2-c s				
14	(16.9)	57.3	8.6	12.0	8.2	H	刃部を一部欠く。	刃部が尖らない。	上端部は自然面からなる頂点にある。	直線状	山 形	3	1	四 角 形	128°	C02*2-b n			
15	(14.5)	56.9	5.6	11.5	8.4	H	下端破損	刃部が尖らない。	上端部は山形に調整された頂点にある。	直線状	山 形	2	1	平行四辺形	119°	C03*1-c n			
16	(20.0)	48.5	7.0	17.0	8.2	H	光形?	上端が端面。	粗く施す。	直線状	山 形	3	1	平行四辺形	127°	C02*1-c n			
17	(23.0)	44.2	5.6	—	5.2	H	上端破損	下端部に自然面にのみ剥離する。	下端部に施す。	外 輪 山 形	3	1	平行四辺形	125°	C01*1-c s				

(幾状網片)

実測 番号	法 盤 幅 長さ mm	幅 厚さ mm	重量 g	石 質	保存度	形 態	打 面 調 査	形 状	刃部 打削部 数	底面 数	断 面	剝離 角度	出土地点
18 (18.6) 20.0	40.1 7.3	7.3 18.0	7.9 サヌカイト	青田打面側下部に複数の小剝離面あり。 背面打面側下部に複数の小剝離面が黒れ る。	全体に粗く施す。	直線状	山 形	3 1	四 角 形	126°	C1-2-c n		
19 (12.0) 18.2	33.2 6.5	13.0 4.2	n	背面打面側、刃部 を僅かに欠失。	全体に細かく施 す。	直線状	山 形	4 1	四 角 形	125°	C01-2-d s		
20 (23.8) 28.4	42.7 7.8	20.0 10.8	n	両側等損 縮合。	全体に粗く施す。	外 壁 山 形	3 2	四 角 形	134°	C1-1-a s			
21 (19.8) 20.2	47.1 6.8	— 6.3	n	裏面を僅かに欠 失。	大きさ2面が1面で底面は見ら れ2面。	内 壁 山 形	1	なし	平行四辺形	104°	C1-1-d s		
22 (18.7) 22.6	52.0 6.8	18.7 8.2	n	背面は大きさ2面が1面。 刃部欠失。	全体に粗 く2面重複。周 囲は細かい剝離面がある。	外 壁 山 形	1	なし	四 角 形	109°	B1-d s		
23 (19.6) 20.7	44.7 5.8	— 4.0	n	上端は尖る。 刃部等損。	上端は尖る。底面は細かに残る。 刃部の一部欠失。	直線状	1	1	四 角 形	97°	C03-4-d n		
24 (19.5) 43.8	43.8 7.6	— 5.3	n	下端部破損。	上端は尖る。背面は大きなネガ面。 下端部は見られない。	直線状	山 形	1	なし	三 角 形	102°	C02-3-a s	
25 18.8	41.5 4.0	— 3.4	n	下端部破損。	上端は尖る。背面は大きなネガ面1面。 中央部は大きい。	外 壁 外 輪	1	なし	四 角 形	106°	C02-3-c n		
26 (21.6) 22.9	56.4 8.3	7.6 11.5	— 7.5	流 紋 岩	刃部打面側上端部に複数の剝離面あり。 刃部等部破損。	全体に粗く施す。	外 壁 山 形	2	なし	台 形	93°	C02-1-c n	
27 (14.1) 21.3	47.9 8.3	— 11.5	8.2 n	刃部を一部欠 失。	背面が尖らぐ。 背面下端部には末端方 向からの剝離面あり。	全体に粗く施す。	外 壁 山 形	2 1	四 角 形	122°	C05-2-d s		

第47表 横長剥片計測表

実測 面 積 番号	法 量	石 質	斜 度	出土地点 番号	法 量		石 質	斜 度	出土地点			
					幅	厚さ						
1	19.8	39.7	7.6	4.5	サヌカイト	137	C1-1-c n	27	35.9 48.1	9.2	13.0 サヌカイト	128° C06-2-d n
2	28.3	47.0	12.1	11.2	n	126°	C04-1-d n	28	14.3 22.2	4.8	1.3 ハリガラ	108° C02-1-b s
3	24.6	30.7	5.7	3.7	n	126°	C02-4-c n	29	13.4 31.5	7.8	3.0 n	124° C04-2-c s
4	18.4	36.2	7.3	5.6	n	124°	C02-2-b n	30	19.0 36.3	9.2	5.0 n	129° C02-1-d n
5	23.8	43.9	5.9	6.7	n	136°	C01-1-a s	31	18.7 29.2	5.8	2.7 n	114° C03-1-b s
6	29.3	59.8	8.7	13.2	n	128°	C04-4-d n	32	26.3 25.5	8.8	5.1 n	114° C04-2-d s
7	28.9	59.1	10.5	15.8	n	127°	C02-3-a s	33	30.2 47.4	10.3	14.2 n	105° B1-d s
8	29.1	68.4	9.4	18.7	n	127°	C04-2-d n					
9	21.5	53.1	5.5	5.2	n	132°	C06-2-c n					
10	22.1	47.8	7.6	6.9	n	134°	C02-2-a n					
11	25.6	63.0	9.3	8.3	n	125°	C03-1-c n					
12	36.8	61.3	9.4	18.1	n	123°	C03-3-d n					
13	20.4	80.0	9.4	10.5	n	130°	C1-4-d s					
14	23.6	44.6	8.4	7.5	n	131°	C06-2-c n					
15	34.5	58.4	9.3	15.6	n	118°	C01-2-a n					
16	33.4	54.3	13.0	25.6	n	115°	C01-2-a s					
17	22.9	45.4	8.7	7.6	n	127°	C01-4-c n					
18	38.7	64.1	9.3	12.6	n	120°	C04-4-b n					
19	42.2	67.0	14.9	41.6	n	128°	C01-4-a n					
20	32.4	58.4	11.9	22.1	n	131°	C02-1-d s					
21	20.7	40.5	8.5	6.2	n	127°	C04-1-d n					
22	11.3	34.3	3.5	1.1	n	116°	C1-1-a s					
23	22.0	49.8	5.1	5.5	n	108°	C02-1-c n					
24	24.8	45.2	5.8	7.6	n	143°	C02-4-b n					
25	30.4	42.8	10.2	14.3	n	134°	C02-1-d n					
26	31.1	56.3	9.3	9.3	n	123°	C03-2-c s					

第48表 継長剝片石核観察表

実測 箇所 番号	法 盛	幅 長さ mm	重さ g	石 質	形 態	作業面 状	作業面 長さ mm	打 面 幅 mm	打 面 面 割 面 状	側 面 左 右 面 割 面 状	風化度 等	備 考	出土地点
1	36.0	13.1	43.4	32.7	サヌカイト	板 状	1	13.3	6.2 分 割 面	F	F	高	C01・1・c s
2	46.3	16.8	39.9	35.3	n	板 状	1	44.1	11.6 分 割 面	F	F	高	C04・4・a n
3	42.0	16.9	23.1	27.9	n	板 状	1	15.6	15.4 分 割 面	F	F	高	C1・3・d n
4	54.5	12.2	56.3	43.9	n	板 状	1	42.3	11.8 分 割 面	F	F	高	C03・3・c s
5	52.2	23.8	67.8	120.0	n	板 状	2	31.1	16.4 分 割 面	F	F	高	C04・2・d s
6	35.2	16.2	21.4	14.3	n	角 柱 状	1	35.3	15.6 分 割 面	F	F	高	C1・3・d s
7	39.3	24.9	13.3	12.5	n	角 柱 状	1	34.0	13.4 分 割 面	F	調整面	高	C03・1・b s
8	46.6	19.0	20.6	19.4	n	角 柱 状	2	27.6	11.1 調 整 面	—	作業面	高	C05・1・d s
9	52.9	17.2	21.4	20.6	n	角 柱 状	1	28.8	14.6 調 整 面	F	F	高	C01・2
10	49.5	24.4	20.6	27.8	n	角 柱 状	1	25.3	15.0 分 割 面	作業面	—	高	C01・1・d s
11	46.7	22.6	35.8	53.2	n	角 柱 状	2	30.6	19.9 調 整 面	作業面	調整面	高	B01・s
12	71.1	25.8	21.0	50.9	n	角 柱 状	1	47.0	9.0 調 整 面	調 整 面	調整面	高	C01・1・a s
13	82.0	20.5	40.0	61.4	n	剝 片	1	45.9	11.3 調 整 面	調 整 面	び じ 面	高	C04・3・c s
14	75.2	47.9	17.7	68.1	n	剝 片	1	32.8	35.0 分 割 面	自然面	び じ 面	—	C02・4・c n
15	55.0	16.5	36.5	31.0	n	不 定 形	1	29.0	14.0 調 整 面	自然面	自然面	—	B01・n
16	42.6	35.7	15.4	20.5	n	不 定 形	1	19.3	16.2 分 割 面	自然面	—	不定形の剥片素材。	
17	48.0	19.3	25.2	24.3	n	角 柱 状	2	32.9	11.0 分 割 面	作業面	分割面	—	C04・1・d n
18	106.9	33.2	32.8	114.0	n	—	1	38.0	16.3 分 割 面	—	—	高	塊長剝片石標記用。
19	144.1	116.9	30.2	574.0	n	板 状	—	—	—	—	—	高	塊長剝片石標記用。

第49表 線長削片觀察表

測量 番号	法 量	幅 長さ mm	幅 厚さ mm	石 質	断 面	石核側面浮 右 左	主要剝離 面打点	打面 調査	風化層	備 考	出土地點
						サスカイト	三角形	○	—	高	
1	43.8	24.7	11.9	12.6	サスカイト	—	—	○	—	高	C013-c n
2	45.9	20.8	7.4	6.2	H	—	—	○	—	H	C023-c n
3	52.5	15.7	6.9	4.5	H	—	—	—	—	H	C052-c s
4	52.3	33.8	9.1	12.7	H	—	—	○	—	H	C041-d s
5	34.1	24.2	5.7	3.8	H	—	—	○	—	H	C12-a s
6	38.1	21.9	10.6	8.1	H	—	—	○	—	H	C021-a n
7	38.8	26.0	6.9	5.5	H	—	—	○	—	H	C021-d n
8	49.2	35.2	9.6	13.3	H	台形	—	○	—	H	C031-d n
9	63.4	18.7	12.1	12.7	H	三角形	—	—	—	H	C042-b n
10	51.2	16.1	11.9	8.1	H	—	—	○	—	H	C044-d s
11	48.9	18.5	7.1	6.6	H	—	—	○	—	H	C011-c s
12	57.0	16.2	7.9	7.0	H	台形	—	○	—	H	C14-d s
13	48.9	14.2	7.6	5.2	H	—	—	○	—	H	C021-a n
14	41.9	16.5	7.8	5.3	H	—	—	—	—	H	C12-d n
15	46.2	17.5	6.8	5.3	H	—	—	○	—	H	C12-a n
16	71.1	24.8	9.4	16.5	H	三角形	—	自然面	○	—	C023-c n
17	95.7	27.9	9.1	18.1	H	—	—	—	—	H	C042-d s
18	50.6	18.4	8.1	9.0	H	台形	—	—	○	—	C013-b n
19	50.5	16.8	9.7	10.5	H	調査	調整面	○	—	H	C052-c s
20	51.2	23.9	8.6	11.9	H	調査	調整面	○	—	H	C13-c s
21	59.8	19.3	11.4	18.6	H	四角形	F	F	○	自然面	C052-a n
22	47.0	25.5	10.5	12.8	H	五角形	調整面	○	有	高	C062-d n
23	58.0	9.1	8.2	4.9	H	四角形	F	F	○	—	C052-a s
24	74.8	61.2	18.7	92.3	H	—	—	—	—	H	C043-a n
25	22.6	25.8	5.4	2.4	ハリヤ山岩	三角形	自然面	—	○	自然面	—
26	26.2	18.4	4.8	1.8	H	台形	自然面	—	○	—	C012-a n

(縱長剖片)

編號 順序	法 全 長	全 幅	重量 kg	厚さ mm	石 質	斷 面	石核側面換序		主要特點	打圓 面打點	圓 整	風化度	考 查	出土地點
							右	左						
27	22.9	20.0	7.8	2.7	八角 圓盤山岩	三角形	自然面	—	○	自然面	—	—	—	C014+ c s

第50表 線石核観察表

番号	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重量 g	石質	自然面	來材 面	作業 面	剥離度 長さ mm	打面 幅 mm	打面 面積 mm ²	右側面	左側面	前面	背面	側面	備考	出土地点	
													(正面)	(右側面)	(左側面)	(前面)	(背面)		
1	33.8	11.6	10.9	10.9	ハマ碧安山岩	有 半鏡	1	小礫の 半鏡	11.8	6.0	1	自然面 分離面+剥離(正面)	自然面 分離面(上部)	自然面 分離面(下部)	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C1・b s		
2	29.1	15.4	23.6	10.8	"	有 1塊石	1	8.1	4.2	1	(正面)	自然面 分離面+剥離(正面)	自然面 分離面(上部)	自然面 分離面(下部)	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	B01・s		
3	17.3	12.9	4.2	4.2	"	有 角 鏡	1	16.1	5.2	1	(右側面)	分離面 自然面	分離面 自然面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C04・4・b n		
4	28.6	14.4	14.2	5.6	"	有 角 鏡	1	28.8	7.0	1	分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	調整がほとんど残 る。		
5	14.2	15.5	13.4	5.6	"	有 角 鏡?	1	14.3	5.2	1	分離面	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C1・3・d s		
6	14.9	14.4	15.5	32.0	7.2	"	有 角 鏡?	1	自然面+剥離(正面)	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	調整がほとんど残 る。				
7	21.0	9.9	32.1	9.1	"	有 角 鏡	1	9.7	3.4	1	分離面	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C05・2・d n		
8	22.8	10.0	11.9	2.7	"	有 角 鏡	1	6.0	3.1	1	分離面	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C01・2・c n		
9	20.1	14.2	22.2	11.4	"	有 板 款	1	18.4	9.4	1	分離面	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C04・2・c n		
10	21.8	14.8	32.4	11.5	"	有 角 柱	1	11.5	—	—	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C04・2・b s		
11	22.7	21.2	28.3	12.2	"	有 角 柱	1	16.7	7.4	1	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C01・2・d n		
12	15.2	24.0	36.4	20.0	"	有 角 柱	1	18.9	4.3	1	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C04・2・c s		
13	16.9	15.4	28.3	21.2	"	有 角 柱	1	12.8	3.3	1	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C01・1・b s		
14	22.7	21.2	36.4	20.0	"	有 角 柱	1	16.7	7.4	1	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C01・1・a n		
15	15.2	12.0	24.0	2.3	"	有 角 柱	1	11.5	—	—	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C02・1・s		
16	16.2	12.0	15.0	3.8	"	有 角 柱	1	18.8	4.6	1	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C1・3・d n		
17	16.9	15.5	17.6	3.8	"	有 角 柱	1	7.6	3.8	1	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C03・2・b n		
18	23.4	12.7	14.0	5.3	"	有 角 柱	1	26.9	3.8	1	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	B1・d n		
19	25.7	9.4	10.0	3.7	"	有 角 柱	1	20.8	11.3	1	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C02・2・d n		
20	25.4	20.8	16.2	7.3	"	有 角 柱	1	12.7	4.8	1	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C01・2・c n		
21	32.6	8.6	5.1	5.1	"	有 角 柱	1	31.1	6.3	1	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C01・1・d s		
22	32.6	12.3	29.8	5.1	"	有 角 柱	1	21.0	6.9	1	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C04・2・d s		
23	29.5	24.1	24.2	8.2	"	有 角 柱	1	7.2	7.5	1	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C02・2・b s		
24	29.7	24.6	21.7	14.1	"	有 角 柱	1	12.7	4.8	1	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C01・2・c n		
25	14.7	10.8	16.2	7.5	"	有 角 柱	1	18.7	6.1	1	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C02・2・b s		
26	15.4	12.3	30.4	14.1	"	無 角 柱	1	9.3	6.7	1	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C02・2・b s		
27	16.7	16.5	26.0	7.5	"	有 角 柱	1	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 分離面	自然面 自然面	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	自然面 (左側面)	自然面 (右側面)	C02・2・b s	

(注) 側面 (側面) の内 () 内は加算方向

前面 (前面)

背面 (背面)

左側面 (左側面)

右側面 (右側面)

前面 (前面)

背面 (背面)

左側面 (左側面)

右側面 (右側面)

前面 (前面)

背面 (背面)

左側面 (左側面)

右側面 (右側面)

実測 法 番号	量 重 量 g	幅 長さ mm	厚さ mm	石 質	自然面	來村 面	作業 面	刮削痕 長さ mm	打面 幅 mm	刮削痕 幅 mm	右側面		左側面		背面		下面		出土地点
											右側面	左側面	右側面	左側面	背面	下面	下面	備 考	
23	21.9	17.1	23.7	8.7	ハリ質安山岩	有	板状	1	19.9	4.9	1	分離面 自然面+面整(下部)	分離面 自然面+十分磨耗(上部)	分離面 自然面+面整(上部)	分離面 自然面	自然面	自然面	C03-2-c s	
24	25.3	15.4	9.9	n	有?	角柱	2	24.0	7.0	1	分離面	分離面 自然面+十分磨耗(上部)	分離面 自然面+面整(上部)	分離面 自然面	分離面 自然面	自然面	—	C04-2-a s	
25	26.6	16.8	19.1	6.5	6.5	2.1	n	有	板状	1	15.8	5.7	1	(正面)	分離面 自然面	分離面 自然面	分離面 自然面	—	C01-1-a s
26	19.2	11.4	6.1	14.8	6.1	n	有	n	n	1	13.2	5.7	1	(右側面)	分離面 自然面	分離面 自然面	分離面 自然面	—	C04-4-a s
26	20.6	11.4	17.1	4.3	n	有	n	n	n	1	13.2	5.7	1	(左側面)	分離面 自然面	分離面 自然面	分離面 自然面	—	C03-4-a n
27	23.4	9.8	17.5	4.4	n	有	n	n	1	7.2	4.0	1	正面	分離面 自然面	分離面 自然面	分離面 自然面	—	C04-4-a s	
28	26.8	12.2	21.2	5.7	n	有	n	n	1	6.5	3.3	1	正面	分離面 自然面+面整(上部)	分離面 自然面+面整(上部)	分離面 自然面	自然面	自然面	
29	18.5	10.8	11.2	11.2	11.9	n	有	n	2	13.6	5.4	1	正面	分離面 自然面+面整(下部)	分離面 自然面+面整(下部)	分離面 自然面	自然面	自然面	
30	23.5	5.3	5.3	6.5	n	有	n	n	2	19.3	5.5	2	(正面,右側面)	分離面 自然面	分離面 自然面	分離面 自然面	—	毛器の可能性あり C03-3-c s	
30	32.8	5.9	25.5	6.5	n	有	n	n	2	19.3	5.5	2	(正面,右側面)	分離面 自然面	分離面 自然面	分離面 自然面	—	C03-3-c s	
31	16.9	7.7	6.8	n	有	n	n	n	1	15.9	5.6	1	折損面	分離面 自然面+新しい磨耗?(下部)	分離面 自然面+新しい磨耗?(下部)	折損面 自然面	自然面	C05-2-a s	
32	26.5	3.5	31.2	13.5	n	有	角柱	1	7.3	3.6	1	折損面	分離面 自然面+面整(上部)	分離面 自然面+面整(上部)	折損面 (右側面)	—	C01-2-c n		
32	32.5	14.9	27.2	13.5	n	有	板状	1	12.3	3.2	1	(左側面)	分離面 自然面	分離面 自然面	分離面 (右側面)	—	C04-2-a n		
33	19.6	4.6	8.0	22.0	5.8	n	有	n	n	1	13.0	4.6	1	(左側面)	分離面 自然面	分離面 自然面	分離面 (正面)	—	C01-3-b s
34	24.3	8.2	8.2	3.8	サヌカイト	無	n	n	1	23.7	4.1	1	(正面)	分離面 自然面+面整(上部)	分離面 自然面+面整(上部)	分離面 自然面	—	C01-3-b s	
35	19.3	11.6	16.6	3.4	ハリ質安山岩	有	角柱	1	12.0	5.0	1	分離面	分離面 自然面	分離面 自然面	分離面 自然面	—	C01-3-b s		
36	27.2	10.3	13.4	13.4	サヌカイト	有	角柱	1	15.2	4.7	1	(正面)	分離面 自然面	分離面 自然面	分離面 (正面,下部)	—	C01-3-c n		
37	22.1	13.3	13.4	32.0	12.6	ハリ質安山岩	有	角柱	1	19.7	7.1	3?	(左側面,正面)	分離面 自然面+面整(上部)	分離面 自然面+面整(上部)	分離面 自然面	—	C01-3-b n	
38	22.0	13.7	11.1	11.1	サヌカイト	無	板状	1	21.4	7.6	1	分離面	分離面 自然面	分離面 自然面	分離面 (左側面)	—	C02-4-c n		
39	15.0	18.2	30.8	15.1	7.6	ハリ質安山岩	有	角柱	1	9.6	9.1	2	分離面 (正面)	分離面 自然面	分離面 自然面	分離面 自然面	—	C02-1-b s	
40	19.7	27.0	18.5	27.8	13.1	n	有	板状	1	6.7	8.4	1	分離面	分離面 自然面	分離面 自然面	分離面 自然面	—	C04-2-b n	
41	12.8	22.4	32.9	38.6	19.1	14.9	n	有	角柱	1	8.8	7.0	1	分離面	分離面 自然面	分離面 自然面	分離面 自然面	—	C02-4-d n
42	31.6	20.5	30.7	22.6	n	有	角柱	1	17.9	5.0	2?	(右側面)	分離面 自然面	分離面 自然面	分離面 自然面	—	C03-1-b n		
43	12.1	17.2	34.3	13.5	14.5	n	有	板状	1	11.3	9.9	2?	分離面 (正面)	分離面 自然面	分離面 自然面	分離面 自然面	—	C03-3-a s	

(注) 個面
下部は作業面
内は加算方向法面
下段は石核

第51表 織石刃観察表

測定 番号	法 量	幅 長さ	幅 厚さ	重量	石 質	断 面	主要剖面 面の打点	折 損	機 械	考	出土地点
1	6.7	5.0	1.6	0.1	ハバチ安山岩	台形	有	—	—	C021-c s	
2	13.0	7.5	2.2	0.2	u	三角形	有	—	—	C012-a s	
3	8.9	3.8	1.5	0.1	u	三角形	有	—	—	C021-d s	
4	10.4	5.7	2.3	0.1	u	三角形	有	—	—	C021-c s	
5	22.8	7.6	4.5	0.6	u	台形	有	—	—	第2トレンチ	
6	15.0	5.1	1.9	0.1	u	台形	有	—	—	C012-c s	
7	6.6	5.4	1.5	0.1	u	台形	有	—	—	C021-b s	
8	21.5	8.9	4.1	0.6	u	台形	有	有	—	C031-c s	
9	11.7	13.8	3.2	0.5	u	三角形	有	有	—	第2トレンチ	
10	9.6	5.8	1.7	0.1	u	台形	有	有	—	C12-d s	
11	10.8	4.8	1.9	0.1	u	三角形	有	有	—	C031-c n	
12	12.8	4.3	2.0	0.1	u	三角形	有	有	—	C11-a s	
13	13.3	7.8	1.8	0.2	u	三角形	有	有	—	C032-b n	
14	16.0	6.3	3.6	0.2	u	三角形	有	有	—	C042-c n	
15	16.5	5.7	2.8	0.1	u	台形	有	有	—	第1トレンチ	
16	17.7	9.4	2.5	0.3	u	台形	有	有	—	C012-a s	
17	14.6	8.2	3.4	0.2	u	三角形	有	有	—	B1-d s	
18	16.2	13.9	5.4	0.8	u	三角形	有	有	—	C011-c s	
19	13.4	4.1	2.5	0.1	u	三角形	有	有	—	C013-a n	
20	26.6	12.4	5.2	1.1	u	三角形	有	—	—	B01-n	
21	11.3	5.0	1.8	0.1	u	台形	—	有	—	C012-c n	
22	18.2	2.8	2.6	0.1	u	台形	—	有	—	C012-a s	
23	8.5	5.0	1.2	0.1	u	台形	—	有	—	第2トレンチ	
24	11.8	5.9	2.0	0.1	u	三角形	—	有	—	第2トレンチ	
25	12.0	5.5	1.5	0.1	u	台形	—	有	—	C023-c n	
26	11.0	7.0	2.2	0.1	u	三角形	—	有	—	C031-b s	

実測 番号	法 量	幅 長さ	厚さ	重畳	石質	断面	主要剥離 面の打点	折損	備 考	出土地点
27	18.9	8.3	3.2	0.4	ハリガラ 寶安山岩	三角形	—	有		
28	22.5	9.6	2.9	0.5	η	台形	—	有	C013-a n	
29	8.0	7.0	1.6	0.1	サヌカイト	三角形	背	—	C022-d s	
30	12.3	5.8	2.7	0.2	η	三角形	有	—	C014-b s	
31	10.4	9.1	2.3	0.1	η	三角形	有	—	C011-b s	
32	25.5	5.3	3.5	0.4	η	三角形	有	—	C024-c n	
33	14.5	5.8	1.8	0.2	η	三角形	有	—	C011-a s	
34	16.2	6.3	3.7	0.2	η	三角形	—	有	C021-c s	
35	19.0	5.4	2.7	0.2	η	三角形	有	—	C012-d s	
36	15.2	9.5	3.6	0.4	η	三角形	有	—	C021-b s	
37	15.8	8.4	2.5	0.4	η	三角形	有	有	C044-a n	
38	19.4	6.0	2.9	0.4	η	台形	有	—	C12-d s	
39	23.4	5.0	2.4	0.2	η	三角形	有	—	C11-c n	
40	23.6	8.8	3.2	0.5	η	三角形	有	—	C14-a n	
41	6.3	8.5	1.5	0.2	η	三角形	有	有	C12-b s	
42	10.2	5.6	2.0	0.1	η	三角形	有	有	C021-a n	
43	10.6	5.5	1.9	0.1	η	台形	—	有	C032-b n	
44	7.1	7.8	1.7	0.1	η	三角形	—	有	C11-a s	
45	12.1	6.4	2.6	0.1	η	三角形	有	有	C021-b s	
46	16.7	7.0	2.5	0.3	η	三角形	有	有	C014-a s	
47	18.9	9.3	2.5	0.3	η	台形	有	有	C13-d n	
48	11.4	3.3	2.2	0.1	η	台形	—	有	C022-a n	
49	11.1	5.4	1.8	0.1	η	台形	—	有	C022-a n	
50	13.5	5.2	1.8	0.1	η	台形	—	有	C14-a n	
51	15.6	6.8	3.7	0.2	η	台形	—	有	C011-b n	
52	12.2	6.7	1.9	0.1	η	三角形	—	有	C011-c n	

米國 圖 案 番 号	法 量	量	幅	厚 さ	重 量	石 質	断 面	主要剥離 面の打点	折 損	横 挫	考 考	出土地点
53	12.1	7.5	1.8	0.1	0.1	サスカタイト	台	形	—	有		C1023-a s
54	14.6	9.7	2.7	0.3	n	台	形	—	有		B1-d s	
55	13.8	8.4	3.0	0.3	n	三 角	形	—	有		C1032-c s	
56	18.8	9.2	2.9	0.3	n	三 角	形	—	有		C1011-a s	
57	21.4	8.5	3.1	0.4	n	台	形	—	有		C112-a n	
58	25.8	9.5	2.6	0.9	n	台	形	—	有		C1021-k s	

第52表 叩き石観察表

実測 番号	法 量	幅 長さ mm	厚さ mm	重量 g	石質	完形	形態	使用痕の位置 上端部 下端部 側面	横		考	出土地点
									側面	横		
1	47.1	16.9	11.2	12	安山岩	○	塊状	—	○	—	三 角 形	C03-2-d n
2	43.8	24.8	13.4	22	u	x	u	—	○	○	菱 形	C04-4-c s
3	68.5	31.9	25.6	91	u	x	u	○	○	—	四 角 形	C03-3-a n
4	34.5	20.6	14.1	9	u	x	u	—	○	半円 形	C02-1-c s	
5	55.7	28.4	20.4	46	u	x	u	—	○	—	四 角 形	C1-1-c s
6	137.5	38.1	39.0	320	u	○	u	—	○	—	u	C05-2-a n
7	72.8	31.6	20.4	55	砂 岩	○	u	○	○	—	三 角 形	C04-3-c s
8	44.2	35.2	17.4	35	u	x	—	—	○	—	四 角 形	C1-2-a n
9	63.3	41.9	28.4	90	u	x	块状	—	○	—	u	上部側面に使用痕か。
10	161.9	52.3	48.8	480	u	○	u	—	○	—	三 角 形	C01-2-a n
11	71.8	28.4	14.0	50	綠色片岩	○	u	○	○	—	u	C1-1-a s
12	75.0	18.2	19.1	42	u	○	u	—	○	—	半圓円形	C02-4-d n
13	49.4	16.8	7.4	8	u	x	u	—	○	—	半円 形	—
14	22.0	14.4	7.8	4	u	x	u	—	—	—	u	C02-2-a n
15	118.5	37.5	32.2	280	輝石安山岩	×	u	—	○	—	四 角 形	C02-2-d s
16	105.2	31.7	15.2	93	u	○	u	—	—	○	u	C03-2-c n
17	59.8	29.9	21.3	50	ホルンブ	○	u	—	—	—	横 形	C02-2-b n
18	70.3	30.9	10.5	26	結晶片岩	x	u	—	○	—	三 角 形	C01-1-a n
19	80.6	39.0	39.6	220	粉 岩	x	u	—	—	○	u	新2トレンチ
20	88.3	26.2	27.2	93	玄武岩	○	u	—	○	—	四 角 形	C03-2-d s
21	105.4	46.0	20.1	125	角閃安山岩	○	u	—	—	○	半円 形	C01-1-a s
22	71.0	37.5	33.1	134	閃 緑 岩	○	u	—	—	—	横 形	C1-1-d s
23	49.4	47.9	25.6	60	石英斑岩	x	u	—	○	—	三 角 形	B1-d s
24	76.2	43.0	18.4	103	綠泥片岩	x	块状	—	○	—	横 形	C03-1-d s
25	97.5	102.0	23.5	235	安 山 岩	○	盤状	周 横	—	—	台 形	新2トレンチ

第53表 石錐觀察表

実測 箇 所 番号	法 量	幅 長さ	厚さ	重量	石 質	分類	基部 風化度	備 考	出土地點
1	14.1	12.3	2.9	0.4	サヌカイト	A	凸	高	C05・2・d s
2	13.0	11.0	2.2	0.2	h	A	平	高	C01・2・c s
3	11.9	11.7	2.4	0.3	h	B	平	-	C01・2・b s
4	11.2	13.1	2.1	0.3	h	C	平	高	C01・2・d n
5	12.2	11.3	2.8	0.3	h	C	平	高	C05・1・d n
6	18.3	15.4	3.0	0.7	h	B	平	-	C05・1・b n
7	14.4	13.3	2.5	0.4	h	A	平	高	C04・1・d n
8	18.2	21.7	4.2	1.6	h	B	凹	-	C04・3・b n
9	16.2	15.6	3.7	0.6	h	B	平	-	C1・4・b n
10	12.8	12.3	2.5	0.3	h	C	凹	-	C01・1・d n
11	21.3	22.0	4.2	1.2	h	A	凹	-	C04・2・d n
12	28.0	20.6	4.3	1.3	h	E	凹	-	C01・2・b s
13	17.4	17.8	3.6	0.7	h	C	凹	-	C05・3・d s
14	15.0	15.9	4.2	1.0	h	B	凹	高 物形端	C04・3・d s
15	16.3	15.5	2.5	0.4	h	A	凹	-	C01・4・d s
16	20.2	15.0	2.4	0.4	h	E	凹	-	C01・2・c s
17	16.1	13.9	4.0	0.5	h	A	凹	-	C1・2・c s
18	17.2	13.5	3.0	0.4	h	E	凹	-	第2 レンヂ C01・1・c n
19	14.1	12.9	3.0	0.3	h	A	凹	高 先端部欠失。	C04・2・c n
20	15.3	13.5	2.9	0.6	h	C	凸	高	C04・2・d n
21	17.2	16.5	2.2	0.5	h	B	平	-	C06・2・a n
22	16.1	14.5	2.8	0.5	h	A	平	-	C1・3・c s
23	14.6	14.1	4.5	0.8	h	C	平	高	C01・4・c n
24	16.2	14.6	2.0	0.3	h	B	凹	-	B01・s
25	26.0	23.1	3.9	1.6	h	B	凹	高 片長脚。	第2 レンヂ
26	17.7	13.9	2.4	0.4	h	B	凹	高	

(石 繖)

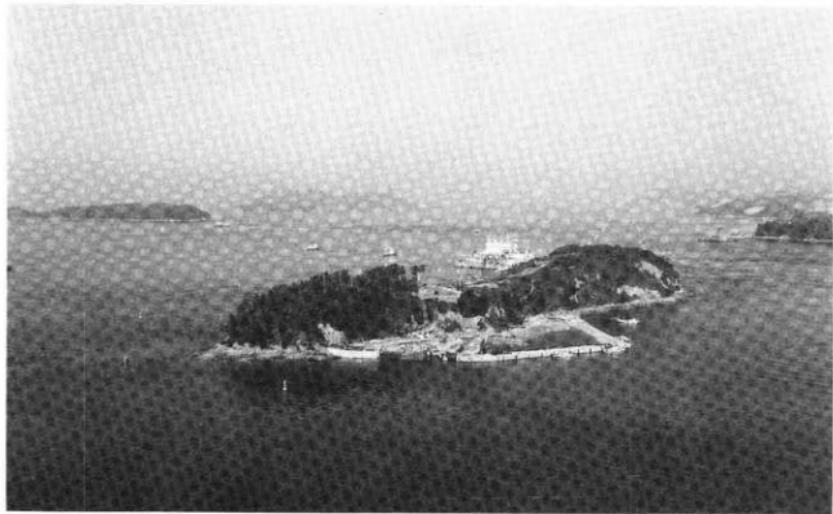
実測 番号	法 量	幅 幅	重さ kg	厚さ mm	石 質	分類	基部 風化度	備 考	出土地点
27	16.9	12.4	2.0	0.4	サヌカイト	B	凹	高	先端部欠失。
28	25.9	24.1	4.6	2.6	u	C	平	高	
29	18.4	21.0	3.8	1.1	u	D	凹	-	
30	13.5	13.2	2.4	0.4	u	A	凹	高	
31	15.0	10.6	2.3	0.2	u	A	凹	高	片剥離部欠失。
32	16.7	12.3	2.6	0.4	u	A	凹	高	
33	18.8	16.1	4.1	0.9	u	E	平	-	
34	19.5	16.4	3.7	0.8	u	E	平	高	
35	19.6	17.5	4.4	1.4	u	E	平	高	先端部欠失。
36	23.3	17.2	3.1	0.7	u	E	凹	-	先端部欠失。
37	21.5	15.1	3.7	0.7	u	E	凹	-	
38	17.6	14.9	2.7	0.5	u	E	凹	高	
39	17.4	13.9	3.3	0.5	u	E	凹	高	先端部欠失。
40	19.8	13.6	4.2	0.7	u	E	凹	高	
41	15.1	12.4	3.2	0.5	u	E	凹	高	先端部欠失。
42	29.4	16.0	3.9	0.9	u	E	凹	高	スバナ状。
43	26.5	18.5	4.6	1.6	u	E	凹	-	先端部欠失。スバナ状。
44	27.8	14.3	3.8	1.0	u	E	凹	-	片長削。
45	26.7	21.4	7.2	3.8	u	F	平	-	先端部欠失。
46	22.4	14.5	2.6	0.8	u	F	平	-	片剥離部欠失。
47	26.8	17.1	5.7	3.1	u	F	凸	高	片剥離部欠失。
48	21.8	15.8	3.5	1.1	u	F	平	-	先端部欠失。
49	21.4	16.4	3.9	1.3	u	F	斜	高	先端部欠失。
50	16.8	12.8	3.1	0.5	u	F	凸	高	
51	18.9	14.4	4.2	1.0	u	J	平	-	先端部欠失。
52	18.8	17.8	2.9	0.9	u	F	凹	-	

番号	法 線	幅 mm	厚さ mm	重量	石 質	分類	基部	風化度	備	考	出土地点
53	21.5	13.2	3.4	0.6	サヌカイト	F	凹	-		C032・c s	
54	19.0	13.3	4.3	0.8	/	F	凹	-		C052・b n	
55	17.7	12.8	2.6	0.5	/	F	凹	-		C034・c n	
56	18.1	17.2	5.0	1.6	/	F	平	-		C041・c n	
57	17.7	10.8	3.8	0.6	/	F	凹	-		C012・d s	
58	32.8	23.2	5.8	3.8	/	F	凹	高		C021・a n	
59	31.2	21.4	6.3	4.1	/	G	凹	高	片長脚。	C041・c n	
60	18.3	13.2	2.4	0.5	/	F	平	高	先端部はG標?	第1 トレンチ	
61	29.1	15.4	3.3	1.4	/	I	斜	-	先端部欠失。	第1 トレンチ	
62	34.8	14.9	4.2	1.3	/	H	凹	-		C012・b s	
63	34.3	16.6	4.0	1.7	/	H	凹	-	片逆側部欠失。	C031・c n	
64	29.9	13.1	3.5	1.1	/	H	凹	-		C023・d n	
65	27.1	14.3	5.2	1.4	/	G	凹	高		C013・b n	
66	29.7	11.1	3.4	1.2	/	I	一	高		C031・c s	
67	24.9	13.0	2.8	0.8	/	J	凹	高		C022・a n	
68	26.8	14.8	5.3	2.6	/	J	凹	-		C013・a n	
69	34.3	21.4	8.7	5.0	/	J	凸	-		C021・a n	
70	31.6	15.1	6.3	2.5	/	J	凸	-		C022・a n	
71	27.2	17.4	5.9	3.0	/	米製品	平	-		C022・c s	
72	12.1	15.6	3.2	0.6	流紋岩	C	凹	-		C012・c s	
73	18.4	11.5	3.4	0.5	ハリ	石	凸	-		C14・a n	

第54表 矛柄研磨器

編號	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重量 g	石 質	溝 数	断面 形	幅 mm	備 考		出土地点
									左	右	
74	39.4	36.8	15.7	23.3	砂	1	半円形	1.0~1.2			C012-c n
75	79.2	29.0	13.8	46.3	綠泥片岩	4	n	1.0~1.1	77±色調・石質25颗粒%		C022-c s
76	43.3	20.1	9.2	8.5	n	5	n	0.9			C024-d n
77	47.7	23.0	12.1	13.5	n	5	n	0.6~0.8	75±色調・石質25颗粒%		C032-d n

図 版 編



(1) 羽佐島遠景

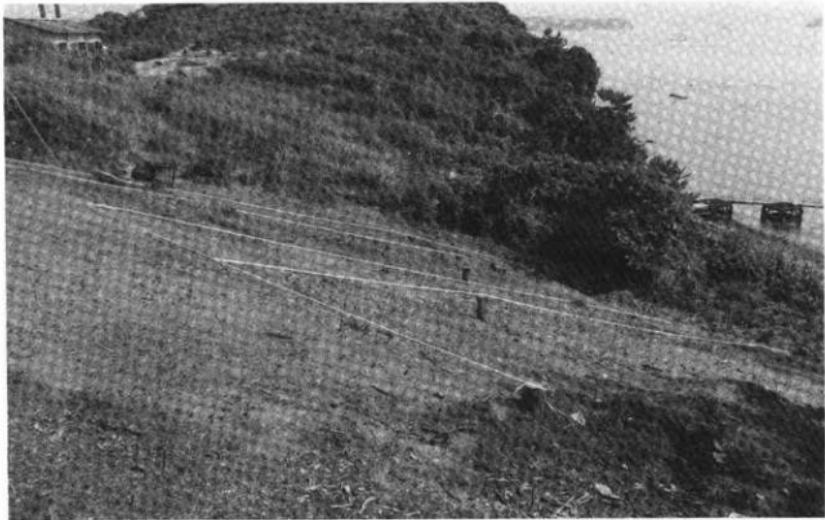


(2) 調査区遠景（伐採前）

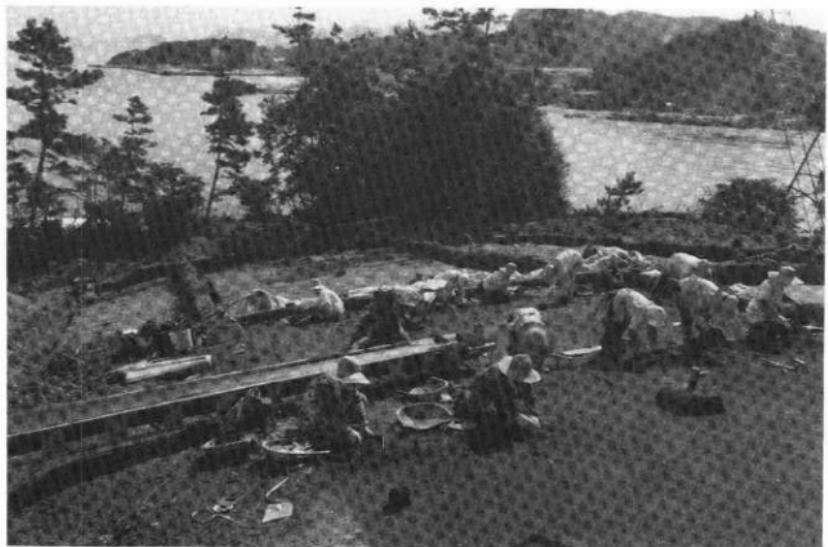
図版 2



(1) 伐採作業風景



(2) グリッド設定 (第1・2トレンチ)



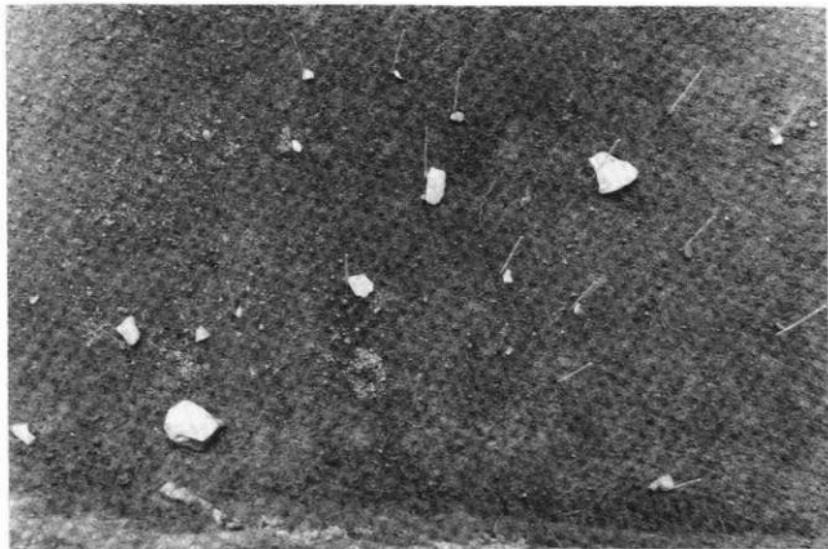
(1) 発掘作業風景 (C01, 02-1, 2グリッド)



(2) 発掘作業風景 (C05, 06-2グリッド)



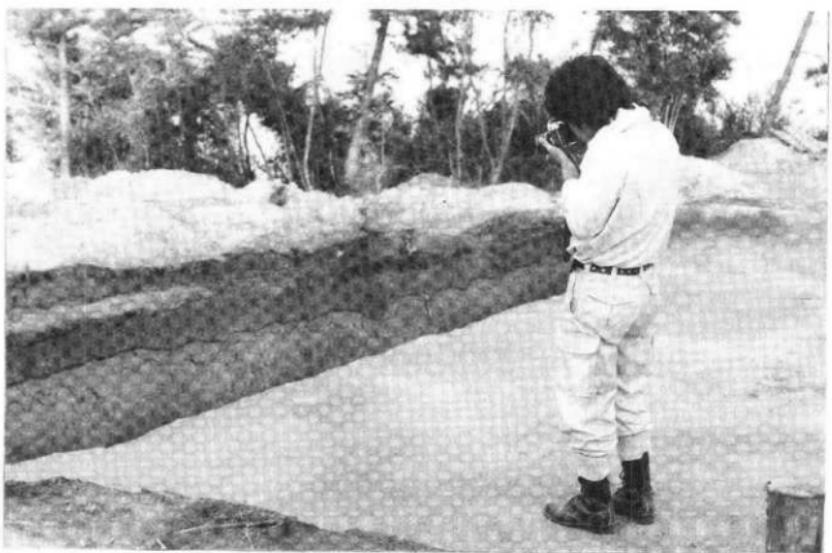
(1) 遺物出土状況 (C01, 02-1, 2 東より)



(2) 遺物出土状況 (C01, 02-1 北より)



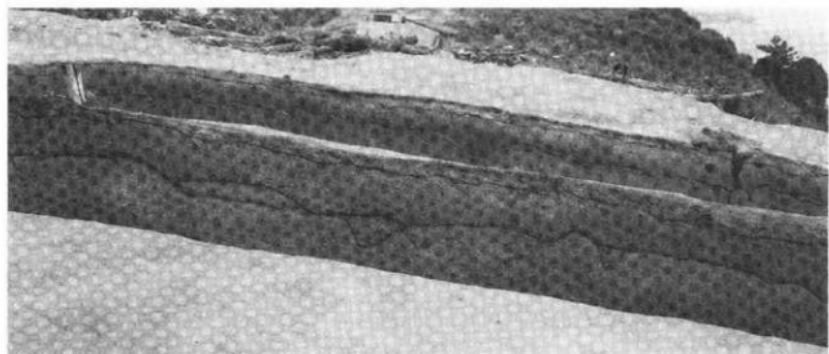
(1) 土層線引作業



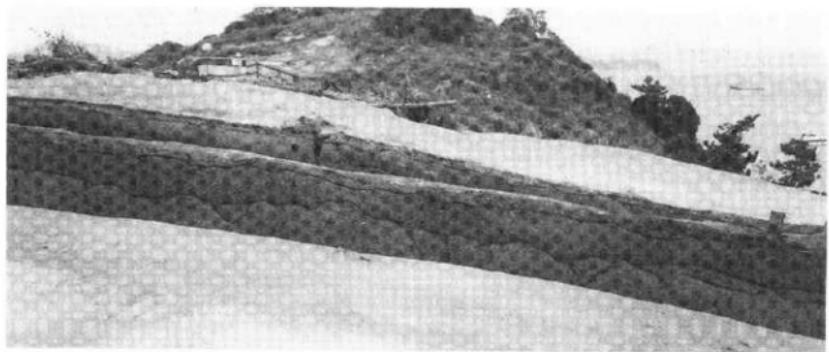
(2) 写真撮影作業



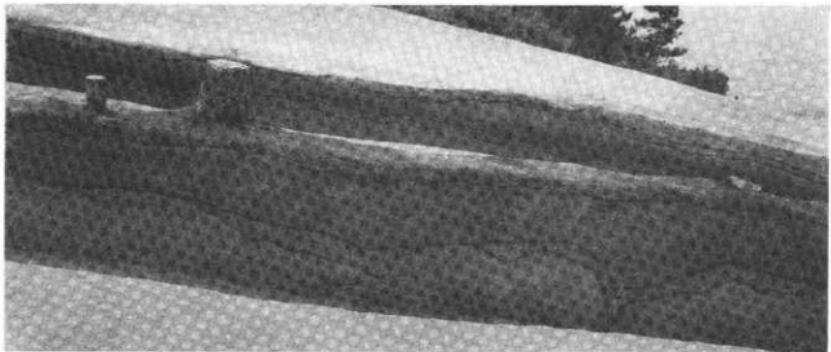
(1) 土層, B01-n 北壁



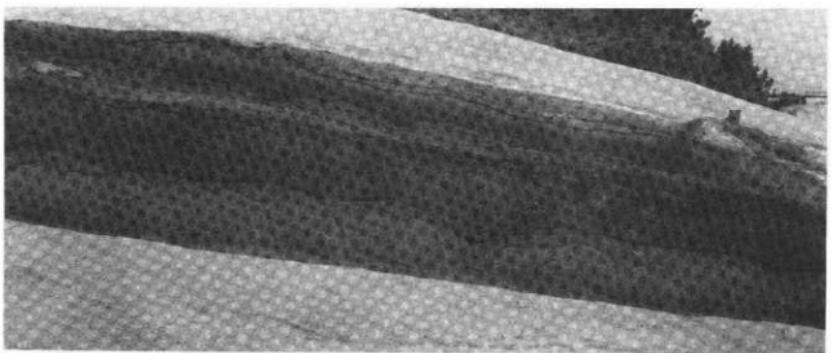
(2) 土層, C01-1+a n, b n 北壁



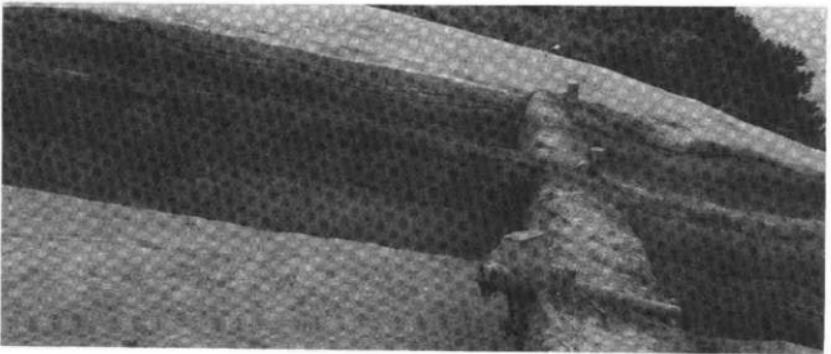
(3) 土層, C01-1+c n, d n 北壁



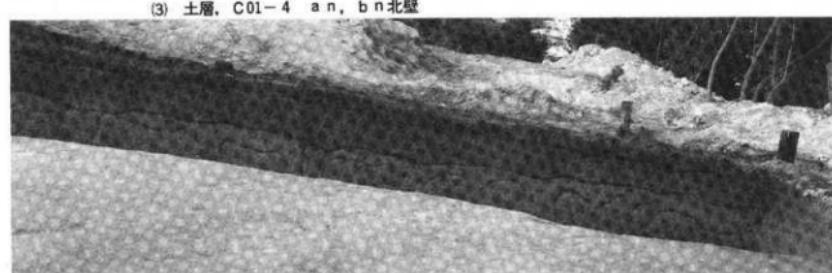
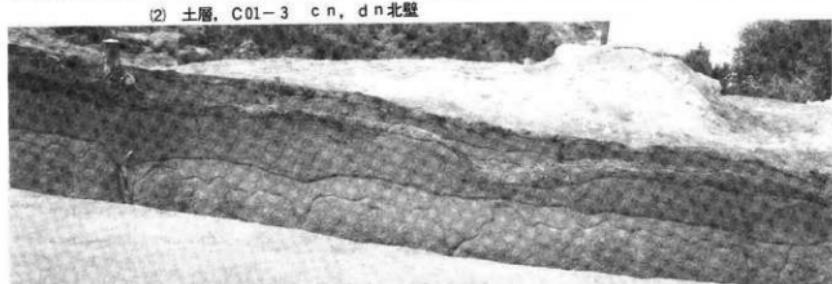
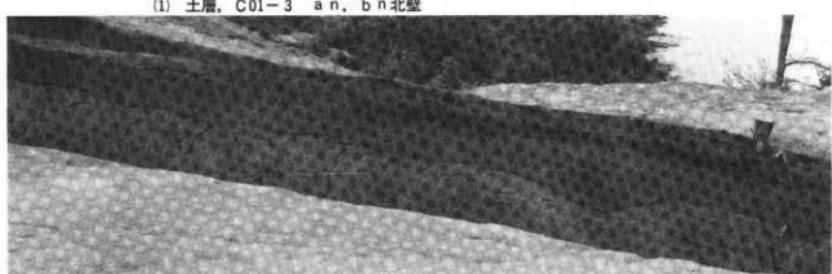
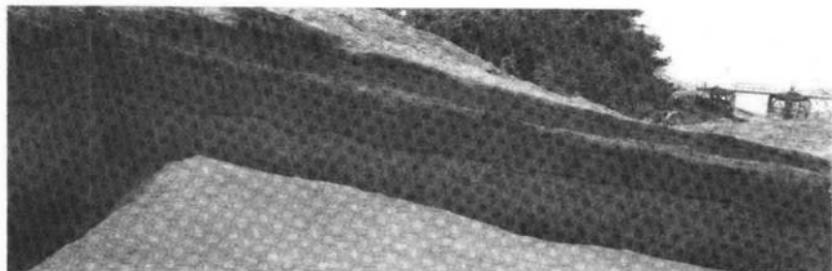
(1) 土層, C01-2 + a n, b n 北壁

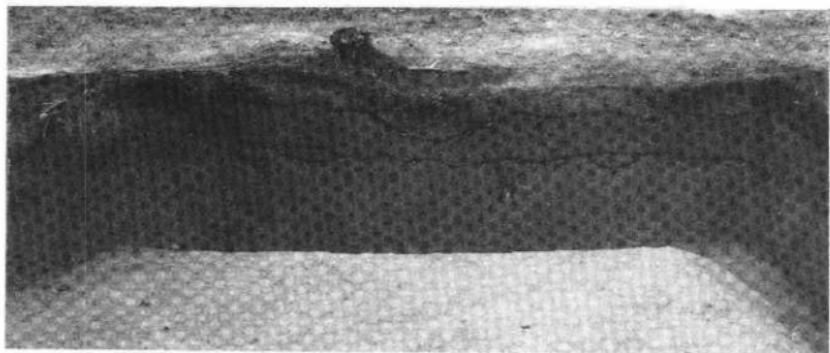


(2) 土層, C01-2 + b n, c n 北壁

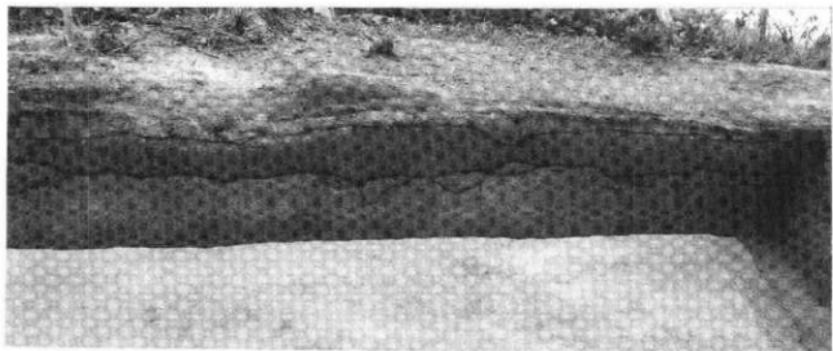


(3) 土層, C01-2 + d n 北壁

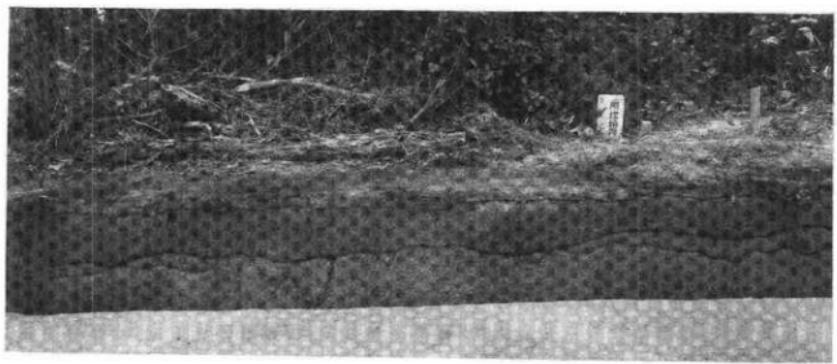




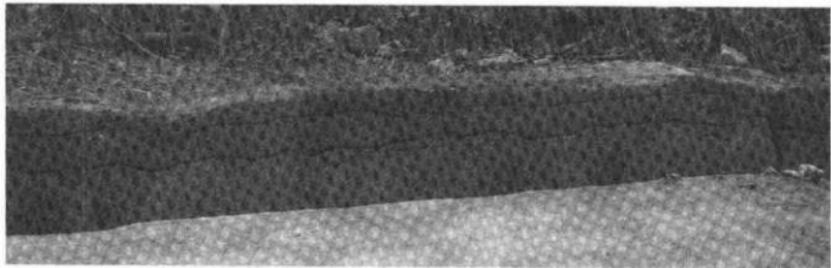
(1) 土層, B 1 西壁



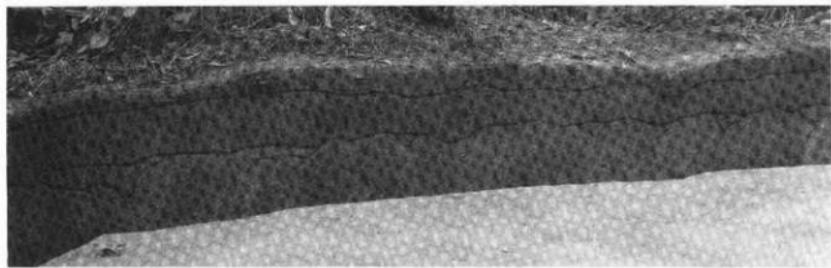
(2) 土層, C 01~02-1 西壁



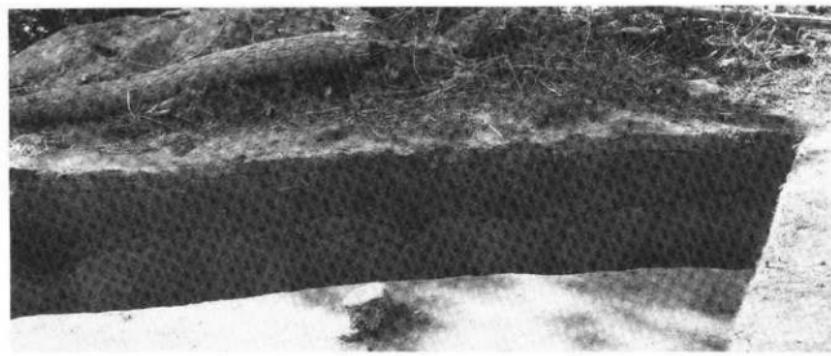
(3) 土層, C 01~02-1 西壁



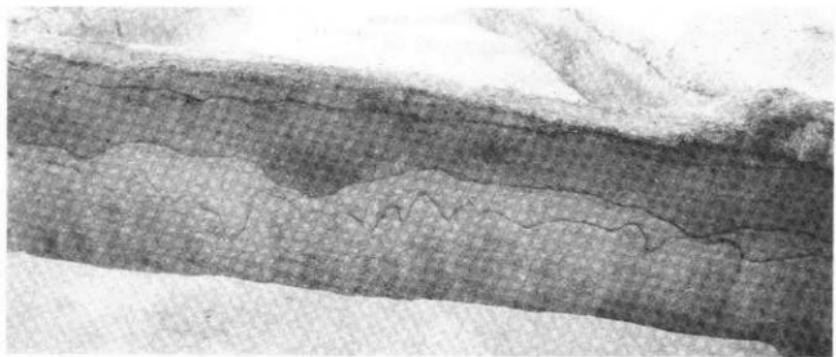
(1) 土層, C03~04-2 西壁



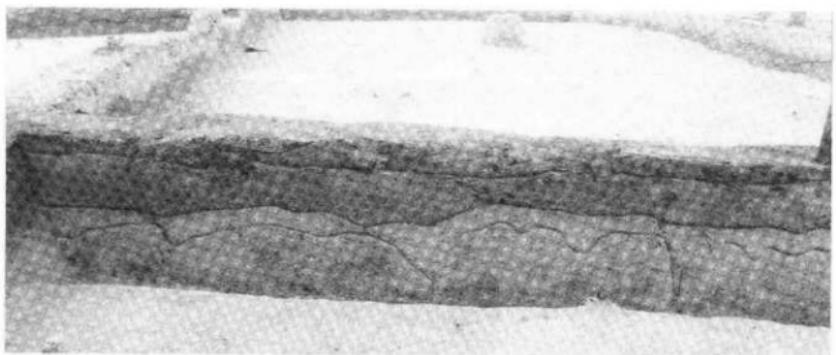
(2) 土層, C03~04-2 西壁



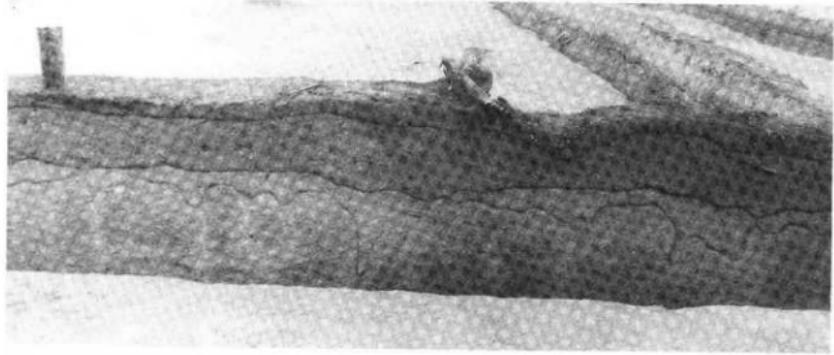
(3) 土層, C05-2 西壁



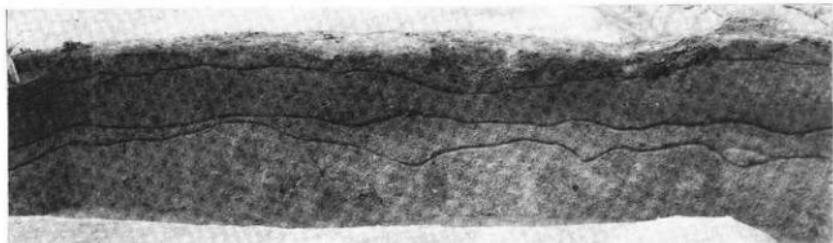
(1) 土層, C 1-3 西壁



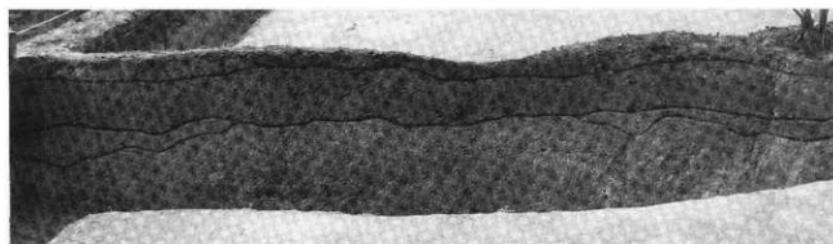
(2) 土層, C 01-3 西壁



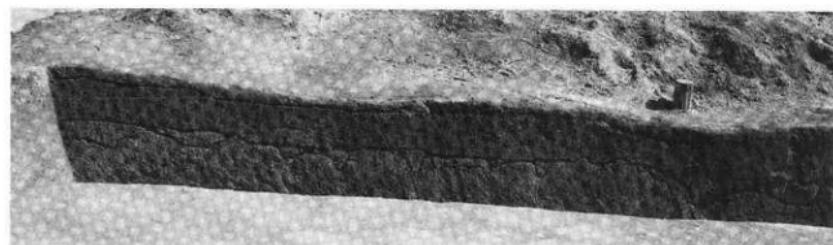
(3) 土層, C 02-3 西壁



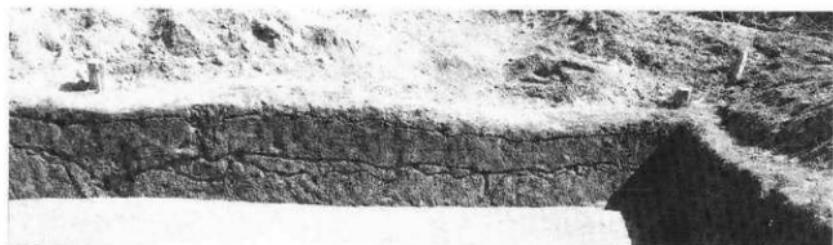
(1) 土層 C03-3 西壁



(2) 土層 C04-3 西壁



(3) 土層 C05-2 東壁



(4) 土層 C06-2 東壁



(1) 完振グリッド（遠方、与島西方）



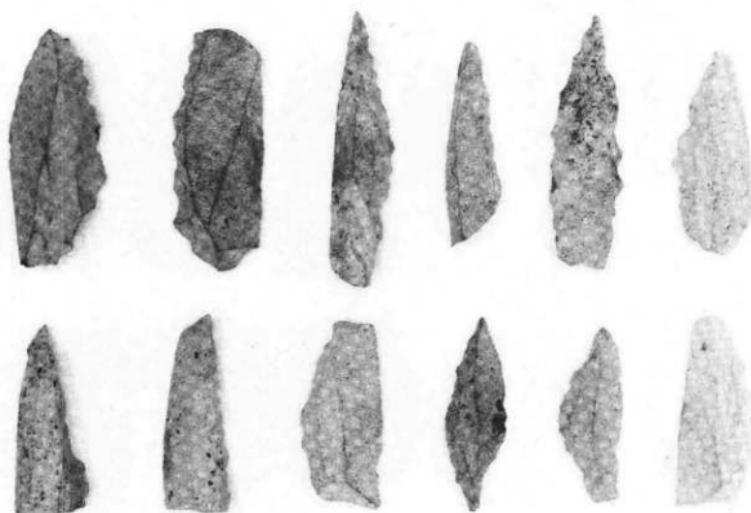
(2) 完振グリッド遠景



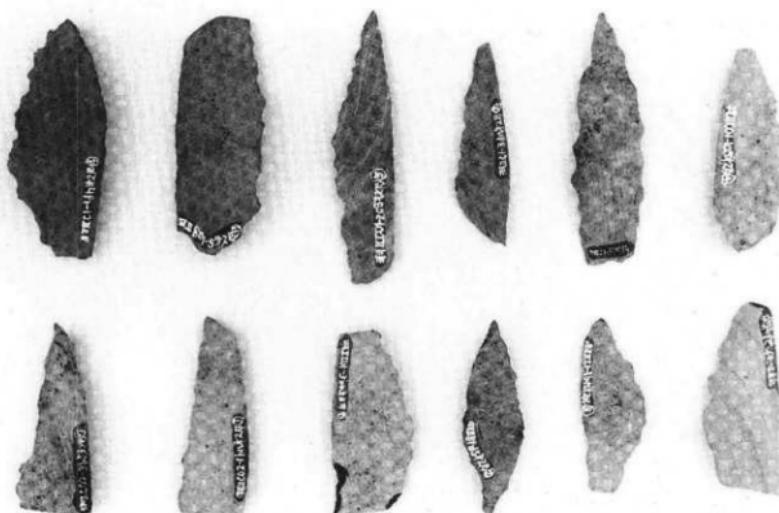
(1) ナイフ形石器



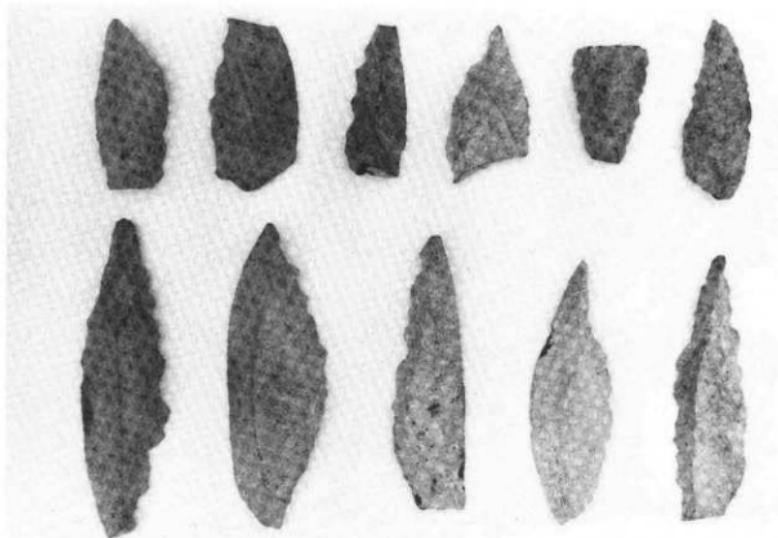
(2) 同 上 (裏面)



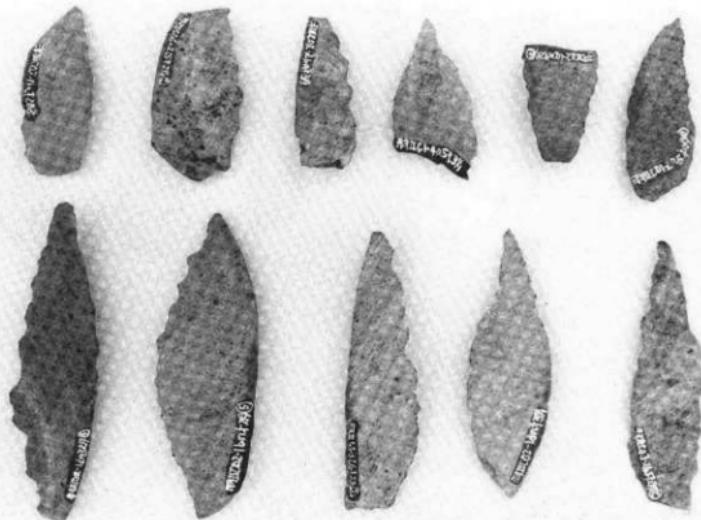
(1) ナイフ形石器



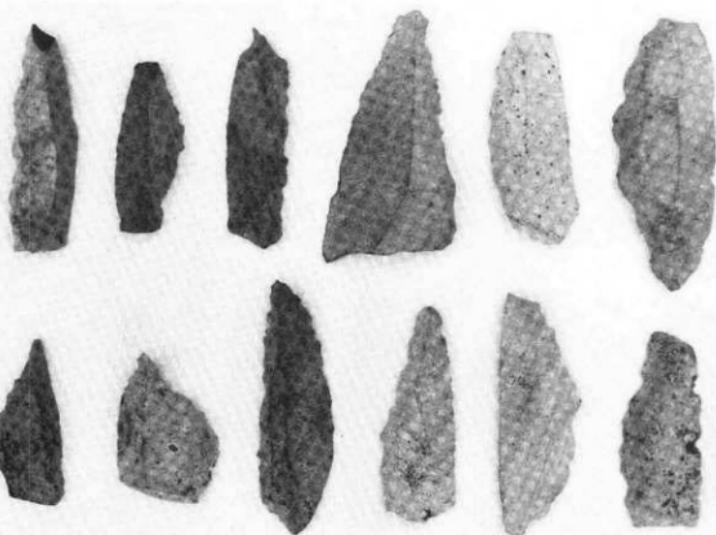
(2) 同 上 (裏面)



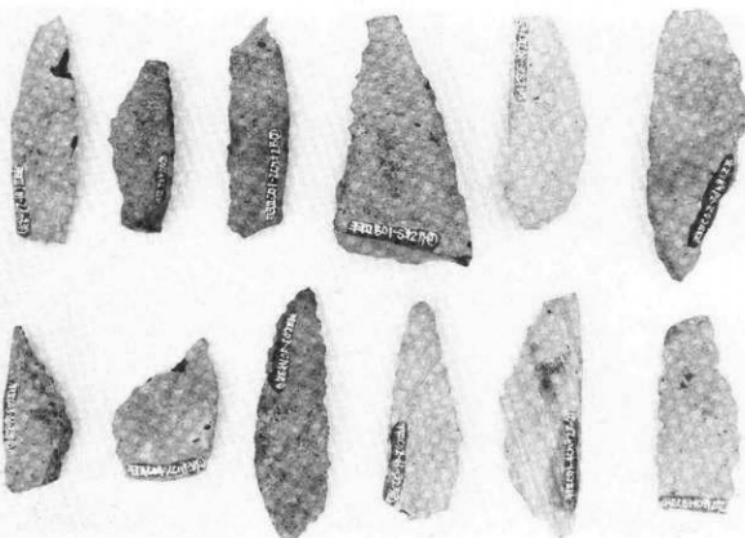
(1) ナイフ形石器



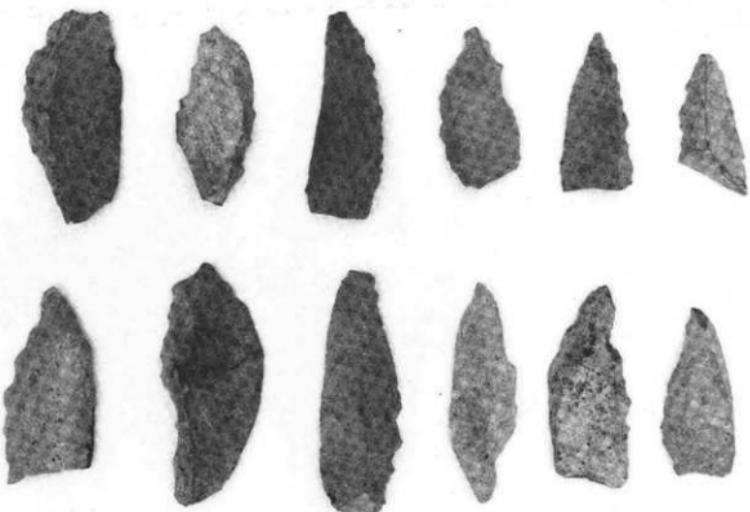
(2) 同 上 (裏面)



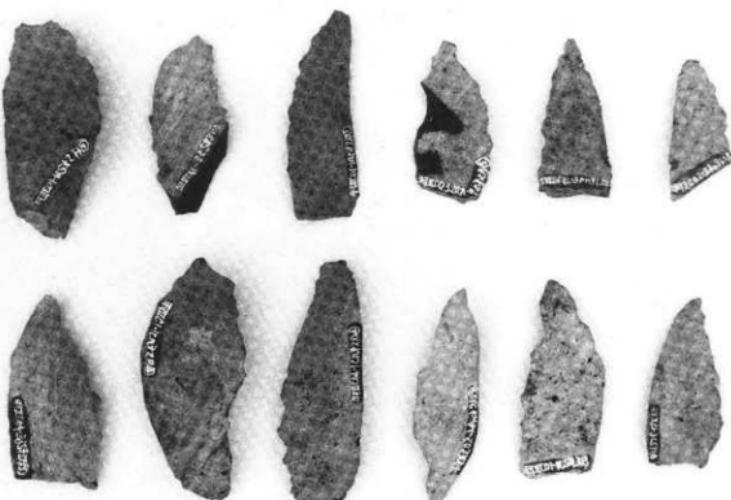
(1) ナイフ形石器



(2) 同 上 (裏面)



(1) ナイフ形石器



(2) 同 上 (裏面)